

科目名	会計学入門		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHa101		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

我々の周りには様々なビジネスが存在し、そのビジネスを企業等が支えている。本科目は、この企業等のビジネスによる経営活動を記録、計算し、財務諸表を作成する一連の会計の役割とその基本的仕組みを学修する科目である。本科目では、ビジネスマンに必要な基本的財務諸表を読む力、作成できる力を習得する。

科目の概要：

会計は今や英語、ITと並びビジネスマンの必須である。ビジネスマンとしてのアカウンティング・マインドを身につけるため、本科目では実務を意識して多くの事例を取り入れ、会計の基礎を中心に幅広く学修する。

学修目標：

1. 会計の有用性、基本的任務を理解する。
2. 財務諸表の基礎的分析能力を身につける。
3. 基本的財務諸表の作成ができる。

内容

1	会計の役割
2	会計制度の仕組み
3	複式簿記の仕組み
4	財務諸表を読む
5	流動資産
6	固定資産
7	純資産と負債
8	収益と費用
9	キャッシュ・フローを読む
10	財務状態を読む
11	収益性を読む
12	原価構造を読む
13	経営管理への役立ち
14	会計と職業
15	まとめ

評価

学習目標に関するレポート・ミニテスト等(20点)、学習目標に基づく期末試験(60点)、通常の授業態度等(20点)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】講義で事前に指示された箇所は必ず読んでくること

【事後学修】章末のまとめ、練習問題は必ず復習すること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 全在紋 朴大栄 谷武幸 編著 『新版 まなびの入門会計学』 中央経済社

その他、適宜、補助レジュメを配布する。

【参考図書】 広瀬義州著 『財務会計』 中央経済社

科目名	会計学入門		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHa101		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

我々の周りには様々なビジネスが存在し、そのビジネスを企業等が支えている。本科目は、この企業等のビジネスによる経営活動を記録、計算し、財務諸表を作成する一連の会計の役割とその基本的仕組みを学修する科目である。本科目では、ビジネスマンに必要な基本的財務諸表を読む力、作成できる力を習得する。

科目の概要：

会計は今や英語、ITと並びビジネスマンの必須である。ビジネスマンとしてのアカウントティング・マインドを身につけるため、本科目では実務を意識して多くの事例を取り入れ、会計の基礎を中心に幅広く学修する。

学修目標：

1. 会計の有用性、基本的任務を理解する。
2. 財務諸表の基礎的分析能力を身につける。
3. 基本的財務諸表の作成ができる。

内容

1	会計の役割
2	会計制度の仕組み
3	複式簿記の仕組み
4	財務諸表を読む
5	流動資産
6	固定資産
7	純資産と負債
8	収益と費用
9	キャッシュ・フローを読む
10	財務状態を読む
11	収益性を読む
12	原価構造を読む
13	経営管理への役立ち
14	会計と職業
15	まとめ

評価

学習目標に関するレポート・ミニテスト等 (20点)、学習目標に基づく期末試験 (60点)、通常の授業態度等 (20点) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】講義で事前に指示された箇所は必ず読んでくること

【事後学修】章末のまとめ、練習問題は必ず復習すること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 全在紋 朴大栄 谷武幸 編著 『新版 まなびの入門会計学』 中央経済社

その他、適宜、補助レジュメを配布する。

【参考図書】 広瀬義州著 『財務会計』 中央経済社

科目名	生活と産業		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング	KHa102		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生活情報学科の専門科目であり必修科目である。ディプロマポリシーの3項目すべての基礎として、企業のしくみや経済、社会について取り上げる。

科目の概要

日本や世界の現状を経済的な視点から取り上げる。また、企業の仕組みを取り上げ、さらに日本企業におけるコーポレートガバナンスをアメリカとの比較で行う。その上で、企業が立ち向かう様々な危機を具体的に取り上げ、どのようにその危機を乗り越えていくかを検証していく。また、近年話題M&Aや会社法改正についても取り上げる。さらに、雇用の問題を企業側、労働者側双方から見ていく。また、様々な産業についても取り上げる。

現状を理解するために、現代史および時事問題についても触れる。

学修目標

企業論に関する基礎的な概念と、現在の企業が抱えている諸問題について理解することを目標にする。また、広く経済や社会の現状を理解できるようにする。

内容

1	ガイダンス
2	株式会社とは何か
3	株式会社のしくみ
4	コーポレートガバナンス
5	日本的経営
6	リスクと企業経営
7	雇用システム
8	日本産業の特徴 1
9	日本産業の特徴 2
10	日本産業の特徴 3
11	財政赤字と社会保障
12	世界経済の現状 1
13	世界経済の現状 2
14	世界経済の現状 3
15	まとめ

評価

平常点 (10%)、中間のレポート (30%)、最終のレポート (60%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時の課題は、次週以降の授業時にフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】事前に配布されたプリントを読む。

【事後学修】事後に各企業について自ら調べる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

開講時に指示する。

科目名	文書作成入門		
担当教員名	泉 直子		
ナンバリング	KHa103		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、社会のあらゆる分野で基礎的な情報活用能力を育成していく。前期の情報処理演習 で学んだことを基に資格試験に挑戦することができる技術を身に付ける。その成果としてMOS(Microsoft Office Specialist) Word 2016 資格試験のSpecialist と Expertの合格を目指す。

科目の概要

Wordの基本的な機能の学習に留まらず、実際のビジネス文書の作成方法やWordの高度な活用方法など実践的なスキルを習得し、最終的にはMOS Word 2016 資格試験のSpecialist資格 と Expert資格の合格相当の力を身に着ける。

学修目標 (= 到達目標)

Wordの様々な機能を活用して実践的なビジネス文書を作成することができる。

Wordの持つ高度な機能を知り、必要に応じて利用することができる技術を習得する。

MOS Word 2016 資格試験のSpecialist と Expert試験に挑戦し、合格できる能力を習得する。

内容	
1	ガイダンス (授業の進め方、試験内容の紹介など)
2	文書作成の基礎 復習
3	高度な機能を利用した文書のデザイン 1
4	高度な機能を利用した文書のデザイン 2
5	参考資料の作成
6	文書管理と共有
7	ユーザ設定の要素作成 1
8	ユーザ設定の要素作成 2
9	模擬問題 1
10	模擬問題 2
11	模擬問題 3
12	模擬問題 4
13	模擬問題 5
14	総復習
15	まとめ

各回の提出課題(60点)と模擬試験(40点)により総合評価し60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】次回の演習内容を読み、内容を理解しておく。

【事後学修】取り扱った内容を見直し、新しく学んだ機能を各自復習しておく。

推薦書(著者名・書名・出版社名) 授業時に指示する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】FOM出版 「よくわかるMOS Word 2016 Expert 対策テキスト&問題集」

科目名	文書作成入門		
担当教員名	栗原 隆史		
ナンバリング	KHa103		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、社会のあらゆる分野で基礎的な情報活用能力を育成していく。その成果としてMOS(Microsoft Office Specialist) Expert Word 2016 資格試験の合格を目指す。

科目の概要

Wordの基本的な機能の学習に留まらず、実際のビジネス文書の作成方法やWordの高度な活用方法など実践的なスキルを習得し、最終的にはMOS Expert Word 2016 資格の合格相当の力を身に着ける。

学修目標 (= 到達目標)

Wordの様々な機能を活用して実践的なビジネス文書を作成することができる。

Wordの持つ高度な機能を知り、必要に応じて利用することができる技術を習得する。

MOS Expert Word 2016 試験に挑戦し、合格できる能力を習得する。

内容	
1	ガイダンス (授業の進め方、試験内容の紹介など)
2	文書の作成と管理 1
3	文書の作成と管理 2
4	文字、段落、セクションの書式設定 1
5	文字、段落、セクションの書式設定 2
6	表やリストの作成
7	参考資料の適用
8	オブジェクトの挿入と書式設定
9	模擬問題 1
10	模擬問題 2
11	模擬問題 3
12	模擬問題 4
13	模擬問題 5
14	総復習
15	まとめ

評価

各回の提出課題 (60点) と模擬試験 (40点) により総合評価し60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】次回の演習内容を読み、内容を理解しておく。

【事後学修】取り扱った内容を見直し、新しく学んだ機能を各自復習しておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指示する。

科目名	文書作成入門		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング	KHa103		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目では、社会のあらゆる分野で必要とされる情報活用能力を育成する。Wordの高度な活用方法を学び、レポートや卒業論文、ビジネス文書など各種文書を用途に合わせて効率よく作成するための実践的なスキルを習得する。

科目の概要

情報処理演習 で学習したWordの基本的な編集機能をベースに、書式設定やスタイルのカスタマイズ、校閲、テンプレートやフォームの作成、差し込み印刷など高度な活用方法を学び、レポートや卒業論文など各種文書を効率よく作成するための実践的なスキルを習得する。

学修目標（=到達目標）

Wordの様々な機能を活用して各種文書を効率よく作成する実践的なスキルを習得する。

Wordの高度な機能を知り、必要に応じて効果的に活用する技術を習得する。

MOS Word 2016 Expertに合格できる能力を習得する。

内容

1	ガイダンス（授業の進め方、資格試験概要など）
2	基本機能・操作の確認(1)
3	基本機能・操作の確認(2)
4	基本機能・操作の確認(3)
5	文書のオプションと設定の管理(1)：文書とテンプレートの管理
6	文書のオプションと設定の管理(2)：文書の変更管理、校閲用文書
7	高度な機能を使用した文書のデザイン
8	高度な機能を使用した参考資料の作成
9	ユーザー設定のWord要素の作成
10	模擬試験1
11	模擬試験2
12	模擬試験3
13	模擬試験4
14	模擬試験5
15	まとめ

評価

課題：5点×5回＋模擬試験：15点×5回＝100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】採点、解説などは専用アプリケーションにより行う。復習の徹底と理解の定着のため、再提出の機会を設ける。

授業外学習

【事前準備】次回の演習内容を読み、内容を理解しておく。

【事後学修】取り扱った内容を見直し、新しく学んだ機能を各自復習しておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】富士通エフ・オー・エム株式会社、よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Microsoft Word 2016 Expert 対策テキスト&問題集、FOM出版

科目名	データ処理入門		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHa104		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、社会のあらゆる分野で必要とされる基礎的な情報活用能力を育成していく。Excelの高度な活用方法を学び、レポートや卒業論文、ビジネス文書など各種文書で必要とされる表計算・グラフ作成を目的に応じて効率よく効果的に行うための実践的なスキルを習得する。

科目の概要

情報処理演習 で学習したExcelの基本的な機能・処理をベースに、テンプレートの作成や校閲の管理、ユーザー定義の表示形式・入力規則・条件付き書式・レイアウトなどの適用、数式を用いた分析、ピボットテーブル・グラフの作成・管理など高度な活用方法を学び、表計算・グラフ作成を目的に応じて効率よく効果的に行うための実践的なスキルを習得する。

学修目標 (= 到達目標)

Excelの様々な機能を活用して表計算・グラフ作成を効率よく効果的に行う実践的なスキルを習得する。

Excelの高度な機能を知り、必要に応じて効果的に活用する技術を習得する。

MOS Excel 2016 Expert 試験に合格できる能力を習得する。

内容

1	ガイダンス (授業の進め方、資格試験概要など)、基本機能・操作の確認 (1)
2	基本機能・操作の確認 (2)
3	基本機能・操作の確認 (3)
4	ブックのオプションと設定の管理
5	ユーザー定義の表示形式やレイアウトの適用 (1)
6	ユーザー定義の表示形式やレイアウトの適用 (2)
7	高度な機能を使用した数式の作成 (1)
8	高度な機能を使用した数式の作成 (2)
9	高度な機能を使用した数式の作成 (3)
10	高度な機能を使用したグラフやテーブルの作成
11	模擬問題1
12	模擬問題2
13	模擬問題3
14	模擬問題4
15	模擬問題5

評価

課題：5点×5回 + 模擬試験：15点×5回 = 100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】採点、解説などは専用アプリケーションにより行う。復習の徹底と理解の定着のため、再提出の機会を設ける。

授業外学習

【事前準備】次回の演習内容を読み、内容を理解しておく。

【事後学修】取り扱った内容を見直し、新しく学んだ機能を各自復習しておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】富士通エフ・オー・エム株式会社、よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Microsoft Excel 2016 Expert 対策テキスト&問題集、FOM出版

科目名	データ処理入門		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング	KHa104		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、社会のあらゆる分野で必要とされる基礎的な情報活用能力を育成していく。Excelの高度な活用方法を学び、レポートや卒業論文、ビジネス文書など各種文書で必要とされる表計算・グラフ作成を目的に応じて効率よく効果的に行うための実践的なスキルを習得する。

科目の概要

情報処理演習 で学習したExcelの基本的な機能・処理をベースに、テンプレートの作成や校閲の管理、ユーザー定義の表示形式・入力規則・条件付き書式・レイアウトなどの適用、数式を用いた分析、ピボットテーブル・グラフの作成・管理など高度な活用方法を学び、表計算・グラフ作成を目的に応じて効率よく効果的に行うための実践的なスキルを習得する。

学修目標 (= 到達目標)

Excelの様々な機能を活用して表計算・グラフ作成を効率よく効果的に行う実践的なスキルを習得する。

Excelの高度な機能を知り、必要に応じて効果的に活用する技術を習得する。

MOS Excel 2016 Expert 試験に合格できる能力を習得する。

内容	
1	ガイダンス (授業の進め方、資格試験概要など)、基本機能・操作の確認 (1)
2	基本機能・操作の確認 (2)
3	基本機能・操作の確認 (3)
4	ブックのオプションと設定の管理
5	ユーザー定義の表示形式やレイアウトの適用 (1)
6	ユーザー定義の表示形式やレイアウトの適用 (2)
7	高度な機能を使用した数式の作成 (1)
8	高度な機能を使用した数式の作成 (2)
9	高度な機能を使用した数式の作成 (3)
10	高度な機能を使用したグラフやテーブルの作成
11	模擬問題1
12	模擬問題2
13	模擬問題3
14	模擬問題4
15	模擬問題5

課題：5点×5回 + 模擬試験：15点×5回 = 100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】採点、解説などは専用アプリケーションにより行う。復習の徹底と理解の定着のため、再提出の機会を設ける。

授業外学習

【事前準備】次回の演習内容を読み、内容を理解しておく。

【事後学修】取り扱った内容を見直し、新しく学んだ機能を各自復習しておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】富士通エフ・オー・エム株式会社、よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Microsoft Excel 2016 Expert 対策テキスト&問題集、FOM出版

科目名	データ処理入門		
担当教員名			
ナンバリング	KHa104		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年		ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、社会のあらゆる分野で必要とされる基礎的な情報活用能力を育成していく。その成果としてMOS(Microsoft Office Specialist) Excel 2013 資格試験の合格を目指す。

科目の概要

Excelの基本的な機能の学習に留まらず、実践的なデータ集計・処理の方法やExcelの高度な活用方法など実践的なスキルを習得し、最終的にはMOS Excel 2013 資格の合格相当の力を身に着ける。

学修目標 (= 到達目標)

Excelの様々な機能を活用して実践的なデータ集計・処理ができる。

Excelの持つ高度な機能を知り、必要に応じて利用することができる技術を習得する。

MOS Excel 2013 試験に挑戦し、合格できる能力を習得する。

内容

1	ガイダンス (授業の進め方、内容の紹介など)
2	ワークシートやブックの作成と管理 (1)
3	ワークシートやブックの作成と管理 (2)
4	セルやセル範囲の作成 (1)
5	セルやセル範囲の作成 (2)
6	テーブルの作成
7	数式や関数の適用
8	グラフやオブジェクトの作成 (1)
9	グラフやオブジェクトの作成 (2)
10	模擬問題1
11	模擬問題2
12	模擬問題3
13	模擬問題4
14	模擬問題5
15	まとめ

評価

各回の提出課題 : 50点、模擬試験 : 50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】次回の演習内容を読み、内容を理解しておく。

【事後学修】取り扱った内容を見直し、新しく学んだ機能を各自復習しておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】富士通エフ・オー・エム株式会社、よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Microsoft Excel 2013 対策テキスト&問題集 改訂版、FOM出版

科目名	調査と統計		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング	KHa105		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生活情報学科共通専門科目の2年次必修科目である。

科目の概要

変化の激しい現代社会においては、大量のデータを迅速かつ的確に分析することによって意思決定を行う必要性が高まっている。本科目においては、社会調査において必要とされるデータ解析の基礎知識とExcelによる分析手法を学習する。

学修目標 (= 到達目標)

まず調査データを分析する意義を理解した上で、推測統計の基本である正規分布の特徴、相関と回帰、推定と検定の考え方について学習し、これらに関する問題をExcelを利用して解く事ができる技術を身につける。

内容	
1	質的データと量的データ
2	度数分布とヒストグラム
3	代表値：平均値、中央値、最頻値
4	歪度と尖度
5	分散と標準偏差
6	偏差値
7	相関係数
8	順位相関
9	回帰分析と重回帰分析
10	平均値の差の検定
11	分散の差の検定
12	カイ2乗検定
13	相関係数の検定、回帰分析と重回帰分析の検定
14	一元配置分散分析と多重比較
15	二元配置分散分析

評価

毎時間の提出課題について100点満点で評価し、全15回の平均が60点以上を合格とする。提出課題の評価は、次週の授業でフィードバックする。

授業外学習

【事前準備】教科書の該当箇所を予習する。

【事後学修】授業時に出された課題を仕上げる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】羽山 博&できるシリーズ編集部（2015）『できる やさしく学ぶExcel統計入門』インプレス、1,980円＋税

科目名	調査と統計		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング	KHa105		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

レポートや卒業研究、社会に出てからの業務等で用いるデータ解析の基礎を学ぶ。

科目の概要

いろいろなデータから、意味のある情報や有用な知見を抽出する解析手法の基礎を学ぶ。また、学んだ手法を用いて実際にデータ解析を経験することにより、理解を深めるとともに実践力を養う。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 目的に合わせて適切なデータ解析手法を選択できる
- ・ 解析結果を正しく解釈できる

内容

1	データの種類と基本的な集計
2	度数分布表とヒストグラム
3	基本統計量 (平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差)
4	確率の基礎
5	確率変数と確率分布
6	代表的な確率分布
7	確率変数の平均・分散と期待値
8	母集団と標本
9	正規母集団の母平均・母分散の推定
10	正規母集団の母平均・母分散の検定
11	いろいろな推定・検定
12	散布図と相関係数
13	回帰分析
14	クロス集計と独立性の検定
15	まとめ

評価

授業内で出題する課題：10回×10点=100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】翌週以降の授業でコメント、解説

授業外学習

【事前準備】前回の資料を見直し、理解が不十分な場合は質問項目を整理しておく

【事後学修】課題を通して理解を深める

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

テキストは使用せず、毎回プリントを配布する。

講義で使用する配布資料・説明資料は総合教育システムで提供する。

科目名	ビジネス入門		
担当教員名	藤本 正徳、松本 晃子		
ナンバリング	KHa106		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

学科共通専門科目の必修科目として、ビジネスに必要な基礎を学ぶ入門科目です。この科目をベースとして、2年生後期より受講する経済・経営、生活、マーケティング、会計等に関する各分野の専門科目を理解する為の基礎編です。

科目の概要

ビジネスとは何か、人々は何を目標として行動し意思決定するのか、取引の基本や、ビジネスではどんな課題に直面するのか、そして会社についての基礎知識も学びます。ビジネス社会で良くつかわれる用語や概念も学び、また課題を解決するグループディスカッションも行います。複数教員による前半・後半に分かれたオムニバス授業方式。

学修目標 (= 到達目標)

ビジネス社会や企業についての基礎知識を習得し、授業を通じて、理解力、コミュニケーション力、課題への対応力も向上し、今後の専門科目の履修や卒業後の進路においても役立つようになることを目指します。

内容

1	ガイダンス、ビジネスとは何か (藤本、松本)
2	ビジネスと家計、社会、個人について考える (松本)
3	会社とは何か～会社の歴史と種類 (松本)
4	働く事と組織 (松本)
5	就職と男女雇用 (松本)
6	マーケティングについて考える (松本)
7	リーダーシップについて考える (松本)
8	まとめと中間試験 (松本)
9	経済合理的な意思決定について (藤本)
10	事業と起業、個人事業と会社設立 (藤本)
11	ビジネス活動の基本とさまざまなパターン (藤本)
12	ビジネスの基本4要素と、人材、賃金と報酬 (藤本)
13	お金の価値とファイナンスの基本 (藤本)
14	ビジネス取引と資金繰り、会社の上手な育て方 (藤本)
15	まとめと期末課題 (藤本)

評価

授業への参加姿勢40点、中間テスト30点、期末レポート30点を目安とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】ガイダンスの際に教員より指示します。

【事後学修】ガイダンスの際に教員より指示します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業で使うプリントを必要に応じて都度配布する。

【推薦書】参考書は授業開始時に指示する。

科目名	プレゼンテーション技法		
担当教員名	込江 雅彦、松本 晃子		
ナンバリング	KHa107		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生活情報学科必修科目として、ディプロマポリシーの「ビジネス社会を推進するための判断力、意思決定力を育成する」ことを目標としている。私たちは様々な形でコミュニケーションをしながら人と関わりを持っている。コミュニケーションを通じて、私たちは特定の社会を形成・維持して社会の中で生活している。コミュニケーション技法を身につけていくことは、社会に出ていくための第一歩といえる。

科目の概要

前半ではコミュニケーションとプレゼンテーションに関する基礎的な知識と能力を身につける。後半からは前半で身につけた知識と能力を背景に、より高度なコミュニケーションとプレゼンテーションを実際に行いながら、さまざまな応用知識やスキルを獲得していく。

学修目標 (= 到達目標)

思考力のほか論理を組み立てて的確に伝える論理力や表現力などの基礎力をペアワークやグループワークを通じて演習形式で学び、磨く。

内容	
1	オリエンテーション(込江・松本)
2	自己紹介からコミュニケーションへ(松本)
3	コミュニケーション・スキル(松本)
4	非言語的コミュニケーション(松本)
5	アイデアを生み出す技術(松本)
6	プレゼンテーションの構造(松本)
7	主張の裏付けかた(松本)
8	文章とプレゼンテーションの相似性 中間試験(松本)
9	意見の形成と主張(込江)
10	時系列の叙述(込江)
11	ものごとの説明(込江)
12	ビジネス・トークにおける説得の論理(込江)
13	ディスカッションの基礎知識と実践(込江)
14	ディベートの基礎知識と実践(込江)
15	まとめ(込江)

評価

授業への参加姿勢40%、中間テスト30%、期末テスト30%として総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時の課題は、次週以降の授業時にフィードバックする。

授業外学習

【事前準備】前回の授業で指示された課題に取り組む。

【事後学修】授業で配布されたプリントなどで復習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定しない。

【推薦書】授業中に指示する。

【参考図書】授業中に指示する。

科目名	企業概論		
担当教員名	中山 成夫		
ナンバリング	KHb208		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

経済主体の一つとして政府、家計と並ぶ企業。現代企業論の入り口として企業についての基本的理解を習得する事からスタートして、企業と地域経済或いは国際化まで、多様な形態についての理解を行う科目である。

科目の概要

企業の形態から入り、企業統治、資本市場、競争原理等基本的な断面を学び、更に現代企業が直面するeビジネス、M&A、地域経済との関係までを学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

現代企業が直面している社会環境は実に多様で、それぞれの局面に企業は対応しながら経営されている事をまずは座学として理解する。

内容	
1	ガイダンス
2	企業の形態
3	企業統治と資本市場
4	企業の社会的な責任
5	企業の競争
6	企業集団と系列
7	企業のサプライヤー管理
8	企業のマネージメント・コントロール・システム
9	企業の人的資源管理
10	企業の成長とイノベーション
11	企業のeビジネス、eコマース
12	企業の国際化
13	企業のM&A 敵対的買収の視点から
14	企業と地域経済
15	まとめ

評価
 授業への取り組み姿勢40%、期末試験60%を目安とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習
 【事前予習】教科書の熟読

【事後学修】授業内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】関 智弘・中条 良美 編著 （専門基礎ライブラリー） 現代企業論 実教出版

科目名	ビジネス経済学		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング	KHb209		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生活情報学科の専門科目であり、経済学の基礎を学習する。

科目の概要

経済学の基礎的概念と考え方を学習し、現実の経済問題について考察できるように講義する。

学修目標 (= 到達目標)

経済学の基礎的概念を理解する。また、日本経済の諸問題について理解し、自分の意見を持てるようにする。

内容	
1	ガイダンス
2	経済学とは何か
3	ミクロ経済学 1 : 需要と供給
4	ミクロ経済学 2 : 市場の失敗
5	マクロ経済学 1 : ケインズ経済学
6	マクロ経済学 2 : 財政政策と金融政策
7	金融危機と金融政策
8	財政政策と財政赤字
9	中間試験
10	グローバル化と日本経済
11	グローバルな金融危機と日本経済
12	社会保障改革
13	電力改革にみる公益事業
14	日本経済の過去、現状、未来
15	まとめ

評価

中間テスト(30%)と学期末レポート(70%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時の課題は、次週以降の授業時にフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】配布されたプリントを読むこと。

【事後学修】プリント、ノート、および参考文献の指定箇所を読み復習すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定なし。

【推薦書】『スティグリッツ 入門経済学 第4版』東洋経済新報社

【参考図書】授業中に指示する。

科目名	国際地域学入門		
担当教員名	中山 成夫		
ナンバリング	KHb210		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

グローバル化の進展に伴い、多様なレベルでの主体が活動する国際関係を捉える手法が改めて問われています。国際地域学とは、国際関係論と地域研究を一つの体系として考え新たな視点を見つけ出す学問です。

科目の性格に書いた様に、国際地域学が内包する学問領域は広く、国際関係論、地政学、経済学、社会学に亘ります。今回の授業では、主に国際関係論並びに地政学に焦点を当てた授業を行います。

グローバル化の前提となる地域毎の違いを如何に捉え、如何に調整して国際化が図られて来たかを学ぶ。そして、東アジアを中心とした地域制度、経済発展、国際関係等、国際地域学を学ぶための切り口を理解する。

内容

1	ガイダンス 国際地域学について	
2	生活圏の哲学	
3	広域の思想	
4	モンロー主義の発展過程	
5	国際地域学の構造	
6	国際社会の研究	グローバルガバナンス
7	国際社会の研究	国際的相互依存
8	国際社会の研究	経済開発と援助
9	東アジアの国際関係	戦争の影響
10	東アジアの国際関係	地域統合
11	東アジアの国際関係	経済発展
12	国別 政治と外交	中国
13	国別 政治と外交	韓国
14	国別 政治と外交	ロシア
15	まとめ	

評価

授業への取り組みが40点、期末試験が60点の配点で、合計60点以上が合格。

授業外学習

- 【事前予習】講義資料の熟読
- 【事後学修】講義内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】無し 資料を授業にて配布する。
- 【推薦書】曾村保信 地政学入門 中公新書、猪口孝 監修 国際地域学の展開 赤石書店

科目名	企業経営入門		
担当教員名	中山 成夫		
ナンバリング	KHb211		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

企業の形態、特に株式会社に軸足を置いて、企業の運営を習得する為の入門科目です。

科目の概要

企業を経営すると言う事は、資金手当てから販売戦略策定、人事、ガバナンス、コンプライアンスと多方面に亘ります。株式会社の仕組みと共に持続可能性を要求される現代企業が直面するこれら課題についての基礎知識を学びます。

学修目標 (= 到達目標)

企業経営の基礎を習得する事並びに具体的な事例をもとに討論も交えて企業ガバナンスやコンプライアンスとは何かについて理解を深める。

内容	
1	ガイダンス
2	企業の種類、特に株式会社について。
3	株式会社の組織と仕組み。
4	株式会社の経営 戦略
5	株式会社の経営 決算、監査、株主総会
6	株式会社の経営 企業ガバナンス
7	株式会社の経営 コンプライアンス
8	株式会社の経営 経営戦略
9	株式会社の経営 経営の国際化
10	事例に学ぶ 企業ガバナンス
11	事例に学ぶ コンプライアンス
12	事例に学ぶ コンプライアンス
13	事例に学ぶ 社会貢献活動
14	総括
15	まとめ

評価

授業への取組姿勢40点、期末課題提出60点を目安とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】教科書に事前に目を通しておくこと。

【事後学修】講義内容の復習を十分に行うこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】三戸浩・池内秀己・勝部伸夫著 企業論 第3版 有斐閣アルマ

科目名	グローバルビジネス論		
担当教員名	笠原 伸一郎		
ナンバリング	KHb212		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

< 科目の性格 > 世界的な高度情報ネットワーク社会の進展と企業のグローバル化の急速な展開は、従来の年功序列、終身雇用といった日本的慣行をも崩壊させ、個々の従業員の能力が問われる時代を日本企業は迎えている。本講では、こうした企業のグローバル化が生じた理由および企業経営の変遷を大企業を事例に概説し、さらに国際経営戦略論の立場から問題点を検討して、地球企業社会の方向性を明示する。これにより就職先決定へのヒントを提示するとともにグローバル社会で働く意義を理解させる。

< 科目の概要 > 経営学は他の学問と異なり絶対原理はない。個々の企業の盛衰は個々の状況によって異なるゆえ、ケース・スタディ - (事例研究) によって検証する方法を採る。本講では、多数の事例をあげて国際経営および経営の基礎をわかりやすく解説し、就職で役立つよう導く。最後に専門とする航空・ホテルサービス産業の問題点も加えて、グローバル企業全体の方向性を多角的に検討する。

< 学修目標 (=到達目標) >

- 1 世界のグローバル化の潮流および国際経営の必要性を理解する
- 2 企業社会でのグローバルな人材としてのセンスを身につけ、就職先決定へのヒントを得る
- 3 人間はなぜ働き、企業は成長しなければならないかを理解する
- 4 異文化経営の問題、とくに日本的経営の特徴について深く理解する
- 5 BOPビジネスを例にグローバル化による経済格差 (貧困層) の解決策を考える

内容

1	企業とは何か。経営とは何か。 -夢を実現させる方法- (事例：東京ディズニーリゾート)
2	経営学の誕生とその必要性 -経営学を学ぶ意味- (事例：ハーバード大学)
3	国際企業に至るまでのプロセスとその戦略 -日本発のコンビニ- (事例：セブンイレブン)
4	日本企業の国際化戦略1 -この世にないモノを創造する- (事例：ソニー)
5	日本企業の国際化戦略2 -人間はなぜ働くのか- (事例：ホンダ)
6	日本企業の国際化戦略3 -デザインが命- (事例：日産)
7	日本企業のグローバル戦略 -協働の強さ- (事例：トヨタ、富士通)
8	日本的経営の原理とその海外移転 -日本人はなぜコンパが好きなのか-
9	米国経営学の系譜 -人間はなぜサボるのか、そしてやる気を起こすには-
10	米国巨大企業のグローバル戦略 -No.1になるとなぜ得なのか- (事例：GE)
11	米国巨大グローバルIT企業の実態 -カリスマ経営者の夢- (事例：アップル)
12	起業経営とグローバル・ボーンカンパニー -会社を創る意義- (事例：HP、グーグル)
13	グローバルリーダーの条件 -家族の父親と母親、そして経営者、政治家に共通するもの-
14	グローバル・サービス産業 -航空業界の将来、CAはどうなるの?- (事例：日本航空)
15	総括 グローバル格差社会とBOPビジネス -世界の貧困層をどう救うか- (住友化学)

評価

学修目標に関するレポート（40点）、出席票裏に課す小テストを含む授業への参加度（60点）で総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】次週授業で講義する該当項目を、経営書で確認する。（30分） 並行して、新聞（日本経済新聞）の経営記事を日々読む習慣をもつことが望ましい。（15分）（計 45分）

【事後学修】授業内容を復習後、より深く詳しく理解するために推薦書などを参考にする。同時に授業内での疑問点の確認作業を行い、「将来のキャリア形成」との関連を考えさせる。（計 1時間）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】加藤茂夫編、笠原伸一郎ほか著『経営入門 -よい経営の創り方、よい経営の学び方』（学文社）

【推薦書】笠原伸一郎著『グローバル企業の史的展開』（中央経済社）、 笠原伸一郎編『図説 国際ビジネス』（中央経済社）、 江夏健一編『新版 理論とケースで学ぶ国際ビジネス』（同文館出版）335.5/R 【参考図書】ジェフリー・ジョーンズ著『ビューティビジネス』（中央経済社）日経新聞、その他授業中に指示する。

科目名	起業論		
担当教員名	藤本 正徳		
ナンバリング	KHb213		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生活情報学科の選択科目です。現代の日本社会では女性もビジネス社会で活躍する大きな機会と期待があります。1年次の企業概論で学んだ基礎用語や知識に基づいて、将来の就職や起業などのキャリア形成に役立つような、ビジネスの考え方や基本概念を学ぶ科目です。

科目の概要

人生において重要な意味を持つ、お金・仕事についての意味を考え、次にビジネスの基本についての考え方を学びます。さらに、起業とはどのような事か、そしてビジネスと企業をマネージし育てていくにはどのような事を考える事が大事かを学びます。

学修目標 (= 到達目標)

ビジネスとは何か、企業・事業とは何かを学ぶことにより、就職や起業など将来のキャリア形成に必要な知識を学びます。またこれにより、経営や会計・マーケティング等の他の関連科目の理解が容易になります。

内容	
1	ガイダンス、授業の狙い、進め方、評価方法などについて
2	社会と企業、企業と家計・個人との関係
3	仕事とお金、どうやって決まるのか、報酬と利益
4	お金とライフステージ
5	合理的な人の意思決定の経済理論
6	時間とお金、リスクとリターン、貯蓄と投資
7	起業家の誕生～アイデアをビジネスに
8	ビジネスモデルと基本コンセプト
9	起業で最初にやるべき事
10	個人事業か会社設立か
11	ケーススタディ (1) ~ 新しい視点
12	ケーススタディ (2) ~ ソーシャル・ビジネス
13	ケーススタディ (3) ベンチャービジネス、会社の上手な育て方、成長と革新、事業承継
14	女性とビジネス
15	まとめと最終課題

評価

授業への取組姿勢30点、小レポート提出30点、期末課題提出40点を目安とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】事前に講義資料をサーバーで眼を通しておくこと

【事後学修】授業で学んだ内容を講義資料で再確認し、十分理解できない点があれば次回に質問の事

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】パワーポイント講義資料のプリントは都度配布する

【参考図書】おって指示する

科目名	ファッションビジネス論		
担当教員名	松本 晃子		
ナンバリング	KHb214		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

身近で関心の高いファッション分野について、ビジネスシステムの観点から把握していくことで、この構造問題を捉えていく。

科目の概要

ファッションビジネスにおいては、多様な消費者のニーズ合わせた多品種少量生産の商品開発、それに伴う製造調整・流通在庫投資を厳しくコントロールしていくという、高度な需給整合システムが求められるようになっている。講義では、日本と欧米のファッションマーケットを比較分析し、ビジネスの最前線の事例研究などから、栄枯盛衰の激しいファッションブランドの戦略や製造メカニズムを把握する。

学修目標 (= 到達目標)

流行という要素が非常に大きいファッション業界においての厳しいビジネスから、店舗経営の知識を獲得していく。

内容

1	アパレル産業とは 授業の概略解説
2	商売の起源 流通業の歴史
3	繊維の表示と素材
4	日本の百貨店の仕入れ構造 百貨店の歴史と日本独自の委託取引
5	S P A と価格 流通構造と価格設定のメカニズム - ユニクロの事例
6	トレンドはなぜつくられるか 流行色のメカニズム
7	世界の巨大アパレル スウェーデン「H&M」スペイン「インディテックス」米国「GAP」
8	繊維産業の川上から川下構造 岡山県のジーンズ製造業の事例
9	流通構造の変化 ショッピングセンターと従来型小売業
10	ファーマルウェア業界 メンズ・レディースフォーマルアパレルとルール
11	ネット通販 ネット通販の急成長と今後
12	インテリア業界 インテリア・雑貨ショップとホームセンター
13	セレクトショップ 「こだわり」と「つながり」で消費者に訴える
14	これからのアパレル 新しいアパレル形態の潮流
15	まとめ

評価

期末試験70% 小テスト30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業時の課題は、次週以降の授業時にフィードバックする。

授業外学習

【事前準備】授業計画に示された「学術用語」について、簡単に調べておくこと。

【事後学修】授業で学んだ基礎用語及び理論について見直し、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない 毎回プリント配布

科目名	ビジネスと法律		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング	KHb215		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性質

「消費生活と法律」などとともに履修するとビジネスを行う上での法的課題を経営者側・消費者側双方の視点で検討でき、理解が深まる。

科目の概要

金融業・不動産業・各種販売サービス業などお金が動くビジネスの場面を想定し、関連する法律と問題解決法について学び、ビジネス社会を生きるための法的な教養を身につける。具体的な事例を想定しながら、債権法、物権法、担保物権法や民法の特別法がビジネス社会のなかで実際にどのように活用されているのか、その限界や課題はどこにあるのかについての理解を深める。また、知的財産権法や個人情報保護法といった情報化社会と関連する法律とビジネスとの関係についても言及し、ビジネス社会のなかでの法の役割について検証する。

学習目標

- ・ビジネスに関連する基本的な法律の知識と教養を身につける。
- ・事例を検討することにより、論理的思考力や課題解決力の養成を目指す。
- ・事例や時事問題を利用し、文章読解力・文章表現力を身につける。

内容	
1	ガイダンス、会社と法律との関係
2	会社と法律との関係
3	会社組織に関する法律
4	会社組織に関する法律
5	人事・労務に関する法律
6	人事・労務に関する法律
7	財産に関する法律
8	財産に関する法律
9	取引に関する法律
10	取引に関する法律
11	取引に関する法律
12	債権管理に関する法律
13	債権管理に関する法律
14	ビジネスと紛争処理
15	総括

評価

ワークシート・ミニレポート等の提出物・受講態度 (40点)、試験 (60点) を総合して評価する。100点満点中60点が単位取得の下限である。

授業外学習

【事前予習】課題（授業中指示された課題、資料を読む等）の準備をする

【事後学修】学んだことを踏まえ、ビジネスと法の課題について関心と理解を深める

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

関連資料等は適宜配布する。

【参考書】『ビジネスの常識としての法律』堀龍児・淵邊義彦（日経文庫）

科目名	国際ビジネスコミュニケーション		
担当教員名	笠原 伸一郎		
ナンバリング	KHb216		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

< 科目の性格 > 高度情報ネットワーク社会の進展と企業のグローバル化の急速な展開によって、従来のコミュニケーションスキルは、国内企業間から国家を超えた国際企業間レベルへと変貌しつつある。同時にAIやIoTそしてロボットなどの高度テクノロジーの進展も加わり、私たちは個々の能力が問われる時代を迎えようとしている。本講では、こうした第4次産業革命に備えるために、国際ビジネスコミュニケーションの実態と今後の展開をグローバルビジネスの観点から考察する。すなわち、国際ビジネスコミュニケーションが生じた理由およびその変遷を検討して地球企業社会の方向性を明示し、就職先決定へのヒントを提示するとともにグローバル社会で働く意義を理解させることが目標となる。

< 科目の概要 > 本講では、多数の事例をあげてグローバルビジネスの基礎をわかりやすく解説し、就職で有利になるよう導く。最後に専門とする国際観光、航空業界におけるコミュニケーションビジネスの問題点も加えて、グローバルビジネスの方向性を検討する。

< 学修目標 (= 到達目標) >

- 1 世界のグローバル化の潮流およびグローバルビジネスの必要性を理解する
- 2 企業社会でのグローバルな人材としてのセンスを身につけ、就職先決定へのヒントを得る
- 3 人間はなぜ働き、企業は成長しなければならないかを理解する
- 4 異文化経営の問題、とくに国際コミュニケーションビジネスについて深く理解する
- 5 BOPビジネスを例にグローバル化による経済格差 (貧困層) の解決策を考える

内容

1	企業とは何か。経営とは何か。 -夢を実現させる方法- (事例：ディズニーランド)
2	経営学の系譜 -人間はなぜサボるのか、そしてやる気を起こすには-
3	経営学における人間関係 -職場でのいじめはなぜ起きる- (事例：日産自動車)
4	企業におけるコミュニケーション能力の意義 (事例：セブンイレブン)
5	異文化コミュニケーション -日本的経営の原理、日本人はなぜコンパが好きなのか-
6	異文化コミュニケーション -日本的経営の海外移転- (事例：トヨタ自動車)
7	異文化コミュニケーション -協働の強さ- (事例：富士通)
8	リーダーシップ -家族の父親と母親、そして経営者、政治家に共通するもの-
9	グローバルリーダー -No.1になるとなぜ得なのか- (事例：GE)
10	カリスマ的リーダーシップ -巨大グローバルIT企業の夢- (事例：アップル)
11	グローバルリーダーの条件 -人が喜ぶ方向に導く- (事例：ユニバーサルスタジオジャパン)
12	リーダーシップとコミュニケーション -人間はなぜ働くのか- (事例：ホンダ)
13	グローバル・サービスの将来 -航空業界の将来、CAはどうなるの?- (事例：日本航空)
14	グローバル格差社会とBOPビジネス -世界の貧困層をどう救うか- (住友化学、ユニクロ)
15	総括 国際ビジネスコミュニケーションとホスピタリティー

評価

学修目標に関するレポート（40点）、出席票裏に課す小テストを含む授業への参加度（60点）で総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】次週授業で講義する該当項目を、経営書で確認する。（30分） 並行して、新聞（日本経済新聞）の経営記事を日々読む習慣をもつことが望ましい。（15分）（計 45分）

【事後学修】授業内容を復習後、より深く詳しく理解するために推薦書などを参考にする。同時に授業内での疑問点の確認作業を行い、「将来のキャリア形成」との関連を考えさせる。（計 1時間）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】加藤茂夫編、笠原伸一郎ほか著『経営入門 -よい経営の創り方、よい経営の学び方』（学文社）

【推薦書】笠原伸一郎著『グローバル企業の史的展開』（中央経済社）、笠原伸一郎編『図説 国際ビジネス』（中央経済社）、江夏健一編『新版 理論とケースで学ぶ国際ビジネス』（同文館出版）335.5/R 【参考図書】ジェフリー・ジョーンズ著『ビューティビジネス』（中央経済社）日経新聞、その他授業中に指示する。

科目名	ファイナンス入門		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング	KHb317		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生活情報学科専門科目であり、1, 2年次の講義を基礎に債券投資を中心に証券関する幅広い広い知識を習得する科目である。

科目の概要

株取引や債券の売買などさまざまな金融商品を学習し、その上で、証券業界に関して幅広く経済について学習する。さらに、株式投資を行うために情報を得ることを目的として、会社情報の収集の方法と読み解き方を学習する。

学修目標

金融商品などの概念を理解する。会社情報の収集方法と内容を理解する。

内容

1. ガイダンス
2. ファイナンスと投資
3. ファイナンスと企業
4. 日本証券業協会提供講座 1 : ライフプランと資産形成 1
5. 日本証券業協会提供講座 2 : ライフプランと資産形成 2
6. 日本証券業協会提供講座 3 : 証券業界
7. 株式投資
8. 債券投資
9. デリバティブ取引
10. オプション取引
11. スワップ取引
12. 企業研究 1
13. 企業研究 2
14. 企業研究 3
15. まとめ

評価

平常点 (10%)、毎回の課題 (50%)、最終課題 (40%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

フィードバック : 授業中の課題は次の講義の際に学習する。

授業外学習

【事前予習】新聞などから企業情報を収集する。

【事後学修】授業で学んだ企業情報の収集方法を実践する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示する。

科目名	企業倫理		
担当教員名	藤本 正徳		
ナンバリング	KHb218		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

学科専門科目～ビジネスコース専門科目。企業が社会からどのような倫理行動を要求されているのか、どのような事が問題視されるのかについて学ぶ。将来企業と接する際の行動規範の常識や、企業の一員として働く場合に、どのような事が求められ、どのような事が社会的に問題となるのかを理解する為にも役立つ。企業に就職を志望している学生にとっては有益な授業である。

科目の概要

企業は社会や顧客に価値を提供する事を通じて、利益を追求する組織である。しかし現代社会における企業活動の影響力は大きく、ちょっとした思慮不足や、倫理に反した行動が、社会的に批判され、企業の存続が危うくなる事もある。企業と社会との関係の歴史の変遷や、実際に問題を起こした企業の事例を見ながら、これからの企業が遵守すべき基準や大事な考え方・姿勢は何かを学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

社会的に期待される優良企業の価値基準、行動パターン、経営陣や所属員の考え方を理解し、また小テストで事例に対する論点や自分の考えをまとめて表現する練習を通じて、将来の生活やビジネスで接したり、就職する可能性のある企業を選ぶ眼も養う事が出来るようになる。

内容

1	ガイダンス, 授業の概要・進め方、成績評価など
2	企業の発展の歴史と企業の役割の変遷
3	法人と企業、企業と多様なステークホルダーとの関係
4	利益追求の企業に倫理的な行動は両立するのだろうか
5	企業の社会的責任とその発展
6	企業活動と法律の関係
7	コンプライアンスとは何か
8	消費者や社会の視点からみた企業倫理と不祥事例
9	従業員の視点からみた企業倫理と不祥事例
10	経営者の視点からみた企業倫理の仕組みと事例
11	海外の主な不祥事の事例
12	コーポレートガバナンスと内部統制、監査の役割
13	海外事例から学ぶガバナンスと日本企業の課題
14	これから働く皆さんの視点からみた企業倫理
15	期末課題

評価

授業への参加姿勢30点、小テスト30点、期末レポート40点を目安として総合評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】サーバーで講義資料に目を通しておくこと

【事後学修】授業で学んだ内容や事例を、小テストの課題に応用し考えをまとめて提出する事

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

別途指示します

科目名	インターネットビジネス		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング	KHb219		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生活情報学科の専門科目である。

科目の概要

インターネット上では様々な経済取引が拡大している。そこで、インターネット上での取引に関する問題を幅広く取り上げる。

学修目標 (= 到達目標)

インターネットに関わるビジネスモデルを理解する。

内容	
1	ガイダンス
2	インターネットの歴史としくみ
3	情報通信産業の規制緩和と競争
4	スマートフォン
5	インターネットと広告
6	SNSと無料通話アプリ
7	デジタル広告
8	インターネットと政治
9	ビッグデータとビジネス
10	ポイントサービスとマーケティング
11	インターネットのショッピングサイト
12	決済手段とインターネット
13	インターネットとセキュリティ
14	インターネットと法律
15	まとめ

評価

平常点 (10%)、毎回の課題 (30%)、最終レポート (60%) とし、総合評価 60 点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時の課題は、次週以降の授業時にフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】次週取り上げるテーマのサイト確認。

【事後学修】プリントやサイトで確認。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

【推薦書】特にしていない。

【参考図書】授業中に指示する。

科目名	生活と情報		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング	KHc220		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

生活情報学科ビジネスコース専門科目の1年次後期配当の選択科目である。「生活」領域の科目の中でも、2年次および3年次配当科目にむけた入門編である。

科目の概要

情報化社会においては、膨大な統計資料の中から必要な情報を選択する能力をもたないと、過剰な情報に振り回される危険がある。客観性・信頼性が高く、ビジネス調査の用途でも有用な体系的に整備された大規模調査や定期的に行われている時系列データを使って、生活の実態をテーマ毎に確認する。

学修目標（＝到達目標）

新聞・雑誌やインターネットなど身近なメディアをはじめ白書や統計書に掲載されている官庁統計や民間統計について、どのようなテーマの実態調査・世論調査が行われているのか学び、これらの情報を活用できる能力を身につける。

内容

1	ガイダンス
2	人口減少社会
3	高齢社会
4	ジェンダー
5	グローバリゼーション
6	情報化社会
7	食料・農業・農村
8	労働と賃金
9	余暇・レジャー
10	消費生活
11	都市化・郊外化
12	子どもと若者
13	象徴天皇制
14	エネルギーと環境
15	総括

評価

授業時の提出物70点（5点×14回）、学期末のレポート30点とし、総合評価60点以上を合格とする。授業時の提出物は、次週に採点・コメントしてフィードバックする。

授業外学習

【事前準備】新聞記事に目を通して、「生活」に関する社会調査および社会統計のデータをスクラップしておく。

【事後学修】授業で学修した知識に即して、スクラップした新聞記事を整理して、学期末のレポート提出に備える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に内閣府、経済産業省、農林水産省、国土交通省、厚生労働省、消費者庁、文部科学省、環境省などの白書および官庁統計・世論調査、主要な民間統計などを紹介する。

科目名	生活と民法		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング	KHc221		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生活情報学科の学科専門科目として位置付けられている。

科目の概要

民法は個人の衣食住にかかわる基本的なルールであり、「市民の法」「市民の権利・義務」を理解する上で不可欠かつ最も重要な法律である。ビジネス関係の法律、消費者保護の法律、家族関係の法律など各種の法律は民法を基礎としている。民法には、民法総則、契約や不法行為を取り扱う債権法のほか、物権・担保物権、親族法・相続法が含まれるが、この科目ではとりわけ、民法総則（権利の主体・客体、法律行為、意思表示、代理、無効・取消、条件・期限、時効など）を中心に民法の基本的な理解を図ることを目的とする。必要に応じて民法の総則以外の分野にも言及する。

科目の目的

民法総則を中心に、民法の基礎的知識の習得と、法的思考力の身につけることを目的とする。また、知識取得のみならず、具体的な事例を検討することにより論理的思考力や課題解決力の養成も目指す。

内容	
1	ガイダンス 民法総則を学ぶための基礎知識
2	主体 (1) 自然人 (権利能力・意思能力・行為能力。未成年者・成年後見制度)
3	主体 (2) 法人 (法人とは何か、法人の種類)
4	客体 物 (民法における物の本質・種類・効力)
5	法律行為 (法律行為とは何か。その基本原理と解釈。有効要件)
6	意思表示 (1) 心裡留保・虚偽表示
7	意思表示 (2) 錯誤
8	意思表示 (3) 詐欺・強迫
9	代理 代理の基本・表見代理・無権代理
10	無効と取消
11	条件・期限・期間
12	時効 (1) 取得時効と消滅時効
13	時効 (2) 時効の中断・停止・その他
14	債権法の概要
15	総括

評価

提出物・受講態度(40点)、ペーパーテスト(60点)を、総合して評価する。100点満点中60点が単位取得の下限である。

授業外学習

【事前予習】授業中に指示した資料の該当箇所を事前に読む。

【事後学修】事例をよく復習し、理解を定着させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考書】

『ブリエール民法＜1＞民法入門・総則』[第3版]安井＝後藤＝中田＝鹿野（法律文化社）

『デイリー六法』（三省堂） その他の六法でも可

科目名	年金と保険		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング	KHc222		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本講義は、生活情報学科ビジネスコースの専門科目である。FP技能士3級合格を目指しながら、社会保険制度や民間の保険制度などについて学習する。

科目の概要

FP技能士3級のカリキュラムに沿って学習しながら、広く個人が関わる金融全体についての知識習得を図る。

学修目標

FP技能士3級に合格できる学力の養成を図る。

内容	
1	イントロダクション
2	公的年金制度
3	社会保険制度
4	生命保険
5	損害保険
6	保険と税金
7	中間試験
8	マーケットに関する指標
9	金融商品の特徴
10	債券投資
11	株式投資
12	投資信託
13	金融商品と税制
14	まとめ
15	まとめ

評価

平常点 (10%)、中間テスト (30%)、学期末テスト (60%) とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時の課題は、次週以降の授業時にフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】配布されたプリントを読む。

【事後学修】プリントで復習しながら、問題を解く。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：授業中に指示する。

推薦書：授業時に指示する。

科目名	消費生活と法律		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング	KHc223		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生活情報学科の学科専門科目 (選択必修) である。

科目の概要

私たちは、通信販売で洋服を買う、映画を見る、旅行会社でツアーに申し込む、電車にのるといったあらゆる日常生活の場面で私たちは誰もが「消費者」として生活している。つまり「事業者」から物やサービスを購入し、利用しているのである。しかし、販売方法も多様化し、社会も複雑化している状況の下、大量生産・大量販売といった機能が事業者により一方的に担われている。そして、消費者と事業者には情報力・経済力等の格差が存在する。そのため、様々な消費者トラブルが発生する可能性が常にある。そこで、消費者トラブルの発生しやすい場面や現代的な課題を取り扱い、紛争解決の仕組みを検証する。

科目の目標

日常の消費生活において消費者を事業者から守る法律とその意義、各種悪徳商法の対策と法、トラブル発生後の消費者救済の仕組みについて学ぶ。また、賢い消費者としての必要な知識を身につけ、消費者トラブルと法の機能と限界について説明できるようにする。また、知識取得のみならず、消費者問題に関連する新聞記事などを利用し文章読解能力・文章表現力を身につけ、また事例を検討することにより論理的思考力や課題解決力の養成も目指します。

内容

1	【総論】消費者法 ガイダンス、消費者と事業者、民法
2	【総論】消費者契約法 悪徳商法と消費者
3	【総論】特定商取引法 訪問販売、クーリング・オフ
4	【総論】特定商取引法 マルチ商法・継続的役務提供
5	【各論】未成年者と消費者問題
6	【各論】情報化社会と消費者問題
7	【各論】高齢化社会と消費者問題
8	【各論】信用取引と消費者問題 (前編)
9	【各論】信用取引と消費者問題 (後編)
10	【各論】利息制限法と貸金業法
11	【各論】破産制度の概要 自己破産と消費者
12	【各論】保証制度・担保と不動産
13	【各論】金融商品と消費者問題
14	【紛争解決と消費者】消費者トラブルの解決の仕組み
15	まとめ

評価

提出物・授業態度 (40 点)、ペーパーテスト (60 点) を総合して評価する。

100点満点中60点が単位取得の下限となる。

授業外学習

【事前予習】課題（授業中指示された課題、資料を読む等）の準備をする

【事後学修】学んだことを踏まえ、消費者と法の課題について関心と理解を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

開講時に指示する。その他、必要に応じて適宜資料を配布する。

科目名	生活経済		
担当教員名	松本 晃子		
ナンバリング	KHc224		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生活・家計・消費を「再生産の領域としてとらえ、それらの構造や問題を明らかにする。衣食住を中心とした生活環境の変化から持続可能な消費生活を考察し、自己責任時代のライフプランを作成していく。

科目の概要

本講義は、生活情報学科専門科目である。年金や税制、金融資産運用について学習する。

学修目標

短期と長期の時間管理と金銭管理を考察。 ライフプラン表を作成し、自立した生活目標を立案。

内容

1	イントロダクション
2	家計調査からみた現代日本人の生活
3	家計の変遷 家族の変化と家計
4	ライフプランニングと資金計画
5	ライフプランニングと資金計画
6	生命保険と損害保険
7	金融資産運用
8	金融資産運用
9	税制のしくみ
10	税制のしくみ
11	不動産取引
12	不動産取引
13	相続と事業継承
14	相続と事業継承
15	まとめ

評価

平常点10%、中間テスト30%、学期末テスト60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業時の課題は、次週以降の授業時にフォードバックする。

授業外学習

【事前学修】配布資料を読むなど。

【事後学修】毎回のビデオなど感想をまとめる。課題について調べる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず。

【推薦書】授業で紹介します。

【参考図書】授業で紹介します。

科目名	金融資産運用と税制		
担当教員名	深澤 泉		
ナンバリング	KHc225		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は「家庭経営」に関連するものである。生活情報学科の学位授与方針において、特に「1．実社会において自ら考え、状況に応じて対応することができる知識・能力を獲得する」「3．社会の変化や技術の進歩に合わせて、新たな知識や技術を自ら学び続けられる力を身につける」という2点がこの科目の性格である。

科目の概要

金融資産運用、所得税、不動産、相続・贈与に関する税金を中心に知識を整理する。生活情報学科の学位授与方針に基づき、適宜グループ討議を行う。情報を集めて問題点を見つけ、他者の意見を認めながら積極的に討議し、論理的に表現する機会を作る。

学修目標（＝到達目標）

実生活の中でどのように活かしていくかという視点で学修することにより、家族・知人・顧客にアドバイスを行なえる程度の知識を習得する。3級FP技能検定に合格する水準の知識を習得する。

内容	
1	ガイダンス・金融マーケット環境
2	貯蓄型金融商品・債券
3	投資系金融商品
4	金融商品のセーフティネットと税金
5	所得税の基礎
6	各種所得の内容
7	損益通算・繰越控除と所得控除
8	所得税の計算・住民税
9	不動産の取引と法令上の制限
10	不動産の税制
11	贈与と税金
12	相続と税金
13	相続財産の評価
14	金融資産の運用と税金の知識の整理
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回のレポート(4回)40%、筆記試験50%とし、総合評価60点以上を合格とする。提出されたレポートは、コメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】テキストの該当箇所を読んでおく。(所要時間約1時間)

【事後学修】テキストの該当箇所の復習を行なう。テキストの章末問題を解く。(所要時間1時間半)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】「'17~'18年版 最短合格3級FP技能士」(きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター編著、株式会社きんざい刊)

科目名	暮らしの税金		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHc226		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

ビジネスパーソンにとって必要不可欠な税金の基礎を学修する科目である。

科目の概要：

法人税や所得税にとどまらず、消費税や不動産等に関する税金まで、ビジネスにかかわる税金を幅広く学修する。

学修目標：

本科目では、ビジネス社会における税務実務の基礎知識を身につける。

内容

1	オリエンテーションと税務トピックス
2	暮らしの税金
3	サラリーマンが身につけておきたい税金知識
4	所得税の基礎知識
5	給与所得とは
6	所得税額の計算と確定申告
7	寄付金等の所得控除について
8	自営業者が知っておくべき税金知識
9	自営業者の確定申告
10	会社経営に必須の税金知識
11	会社に関連する税金
12	会社の利益と所得の関係
13	交際費課税等
14	金融資産の運用、保険・年金と税金の関係
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート等（20点）、学修目標に基づく筆記形式のテスト（60点）、通常の授業態度等（20点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】講義で指示された箇所は必ず読んでくること

【事後学修】その日のうちにノートをもう一度読み返すこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】財団法人納税協会連合会『マンガと図解 新暮らしの税金百科』清文社

科目名	不動産と相続		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング	KHc227		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ビジネスパーソンに必要な不動産・相続に関する法制度・仕組みの基礎を学ぶ科目

科目の概要

不動産の規定を、債権・物権・担保物権の民法・財産法の分野を中心に、法定相続・遺言相続等を中心に民法・家族法の分野を中心に学ぶ。また、不動産・相続に関するFP技能士の3級の問題演習も行う。

学修目標（＝到達目標）

不動産・相続に関する仕組みを理解し、事例問題を通じて基礎知識を定着を図る。

内容	
1	ガイダンス（不動産と物権法・担保物権法・債権法の位置づけ、相続法の概要）
2	物権の効力
3	不動産と登記・物権変動
4	不動産と所有権
5	不動産と用益物権
6	不動産と売買契約・請負契約
7	不動産と賃貸借契約
8	不動産と保証
9	不動産と担保
10	不動産と競売
11	成年後見制度
12	相続の仕組み
13	遺言についての法律関係
14	相続と税ほか
15	まとめ

評価

平常点（授業態度、フィードバックシート・小テスト等）40点、ペーパーテスト60点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】講義で指示された資料を読む。

【事後学修】事例をよく復習し、問題演習を通じて理解を定着させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【参考図書】は開講時に指示する。

その他、適宜資料を配布する予定。

科目名	ライフスタイル論		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング	KHc228		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生活情報学科ビジネスコース専門科目「生活」3年次前期配当の選択科目である。

科目の概要

ライフスタイルとは生活財に対する個人の選好パターンである。ポスト産業社会においては、私たちの価値観や行動様式は固定的なものから選択可能なものへと変わり、その結果、ライフスタイルの概念が積極的意味を持つようになった。しかし、だからといって私たちは、社会構造から完全に自由になったわけではない。私たち生活者を取りまく生活諸条件を生活時間、生活空間、生活水準、生活関係といった側面から構造的に捉え、生活関連の調査データを用いて、各側面における生活選好と社会構造とのせめぎあいを考察する。

学修目標

生活者（個人や家族）の主体性に着目し、生活者の生活状況から社会構造を捉え直す、ライフスタイル論の視角を学ぶ。官庁統計や社会調査データから、生活者を取りまく生活諸条件と生活者の選好パターンの関連を考察する力を習得する。

内容

1	ライフスタイルとは何か
2	生活の指標
3	家族周期と家計構造
4	消費行動とライフスタイル
5	階層・階級と格差社会
6	生活時間の構造
7	ワークライフバランス
8	過疎問題
9	開発と住民運動
10	都市問題
11	自治会・町内会
12	社会的ネットワーク
13	ボランティア活動
14	コモンズとまちづくり
15	総括

評価

授業時の課題50点、学期末のレポート50点とし、総合評価60点以上を合格とする。授業時の課題は、コメントして次週以降の授業時にフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】授業時の課題提出のために準備する。

【事後学修】授業時の課題を復習して、学期末レポートの作成に備える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は指定しない。学内ネットワークの授業用フォルダに置いた資料を使用する。

【推薦書】

三浦典子、森岡清志、佐々木 衛 編（1986）『生活構造』（リーディングス日本の社会学5）東京大学出版会。

堤マサエ、徳野貞雄、山本 努 編著（2008）『地方からの社会学』学文社。

科目名	ライフコースと生活設計		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング	KHc229		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネスコース専門科目「生活」の3年次配当選択科目である。

科目の概要

家族という小集団は、男女が結婚することで形成され、子どもの出生と成長によって拡大する。しかし、子どもが成人して自身の家族を形成するにしたがって縮小し、やがてはもとの夫婦二人になるという生活周期をもっている。家族にはこうした周期現象がみられることから、より長いスパンでの生活設計という考えが生まれた。ところが、個人の生き方が多様化するなかで、家族の生活周期と個人のライフコースとはどのように交錯しているのか、時代や世代によってどう変化したのかといった考察が必要になってきた。本科目では、女性の自立とライフコースの選択、格差社会の進展にともなうライフコースの移行の遅れといった今日的な課題について、論理的に考察する。

学修目標

家族周期やライフコースという家族の発達アプローチを理解する。ライフコース分析の基本を学修する。より長いスパンから女性のキャリアを考える視点を身につける。

内容

1	ライフサイクルとは
2	ライフコースとは
3	ライフコース研究の古典 (1) G.H.エルダー 『大恐慌の子どもたち』
4	ライフコース研究の古典 (2) T.K.ハレーブン 『家族時間と産業時間』
5	ライフコース研究の古典 (3) D.W.ブラス 『日本人の生き方』
6	日本におけるライフコース研究の古典 (1) 森岡他 『現代日本人のライフコース』
7	日本におけるライフコース研究の古典 (2) 森岡清美 『決死の世代と遺書』
8	ライフコースのステージ移行 (1) 成人への移行の遅れ
9	ライフコースのステージ移行 (2) 格差社会の登場
10	結婚と出産の世代変化 (1) 少子化
11	結婚と出産の世代変化 (2) 晩産化
12	女性のライフコース (1) 女性のライフコース・パターン
13	女性のライフコース (2) ライフコース・マーケティング
14	多様化する高齢期
15	総括

評価

授業時の課題提出50点、学期末試験50点として、総合評価60点以上を合格とする。授業時の課題は、コメントして次週以降の授業時にフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】授業時の課題提出のために準備する。

【事後学修】授業時の課題を復習して、学期末試験に備える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は特に指定しない。授業時にプリントを配布する。

【参考図書】

森岡清美（2005）『発展する家族社会学』有斐閣。

青木 幸弘 & 女性のライフコース研究会編（2008）『ライフコース・マーケティング』日本経済新聞出版社。

森岡清美（2012）『「無縁社会」に高齢期を生きる』アークスの森新書。

科目名	マーケティング論		
担当教員名	松本 晃子		
ナンバリング	KHd230		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

変化の激しい現代ビジネスを考える上では、マーケティングは欠くことのできないものとなっている。ビジネス情報をマーケティング理論を踏まえて捉える力の基礎を修得する。

科目の概要

マーケティングとは、市場と企業や組織とのかかわりを考察する考え方や接近法であり、そしてその仕掛け作りである。前半ではマーケティングの重要要素をケーススタディを通して記述していく。後半からは最新のマーケティング展開と社会的役割までを解説。

学修目標 (= 到達目標)

本講義では、マーケティングの基礎理論および現象についての理解から、実践的・具体的にマーケティングについて考察する力をつけていく。

内容

1	マーケティングの基礎概念 - SellingとMarketingの違い
2	マーケティングの発展 - マーケティングの歴史
3	製品開発 - 製品開発の流れと成功率
4	価格のマネジメント
5	消費者行動の理解とマーケティングリサーチ
6	コミュニケーション戦略 - 広告と販売促進
7	市場の細分化とターゲティング
8	製品戦略
9	市場戦略と競争対応 - S W O T 分析
10	競争戦略 - 事例研究
11	競争戦略 - 競争要因と戦略
12	ブランド・マネジメント
13	マーケティング環境
14	サービス・マーケティング - 顧客満足度
15	まとめ マーケティングの社会的役割

評価

授業内中間試験とレポート (各15%)、期末試験 (70%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業時の課題は、次週以降の授業時にフォードバックする。

授業外学習

【事前予習】授業計画に示された「学術用語」について、簡単に調べておくこと。

【事後学修】授業で学んだ基礎用語及び理論について見直し、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。毎回必要なプリントを配布。

【推薦書】石井淳蔵、廣田章光著『1からのマ-ケティング』中央経済社

科目名	メディアデザイン		
担当教員名	村田 幸一		
ナンバリング	KHd331		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

デザインというクリエイティブ作業はより良いコミュニケーションのためにあることをきちんと認識できるような講義内容とします。

科目の概要

効果的なコミュニケーション設計のためにどんな視点を必要かを広告事例を通して分かりやすく解説します。

学修目標

デザイン構築のプロセスは、より良いコミュニケーションを実現するためのものであることを理解し、それはまた社会生活を行う上でも同様であることを発見させることを最終目標にします。

内容

古今の名作広告をたくさん見せながら、そのデザイン視点の解説と講義を進行します。

良いアイデアは、特別のボーナスみたいだ
 コミュニケーションデザインは、自己表現ではない
 質がたかれば、量に勝てるデザイン
 製品を、商品に進化させるのがデザイン
 「おまけ」の重要性について
 サントリーから探るコミュニケーションデザイン
 そのデザインは、インサイトを刺激しているか
 そのデザインは、生活者と時代共有ができているか
 デザインの前に、what to sayを見つける
 デザインの前に、how to sayを決める
 ブランドパーソナリティという視点。その探り方
 ブランドパーソナリティという視点。その商品はどんな人柄？
 実技と討論 ブランドパーソナリティを探る演習
 パソコンでデザインする前に必要なこと
 コミュニケーションのためにデザインはある

評価

授業への参加姿勢30%、課題へのレポート評価70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】毎回、講義終了時に次回の予告と予習ポイントを指示します。

【事後学修】講義により参考資料を配布し、復習の手助けとします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使いません。

【推薦書】1回目の講義時に紹介します。

科目名	広告論		
担当教員名	村田 幸一		
ナンバリング	KHd232		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

概論的な講義ではなく、現実の広告環境を解説しながら、「広告が効かない時代」の理由を探り、同時にそれを打開するためにはどんな思考で臨むべきかを考えるヒントを紹介していきます。

科目の概要

名作と呼ばれる広告 (印刷媒体・TVCM) を授業で多くみせながら、名作の名作たる由縁を解説し、広告というジャンルに強い関心と理解を深めることを目的とします。

学修目標 (= 到達目標)

「効く広告」「効かない広告」の見極めができる見識を持つこと。広告の社会的価値を正しく理解できること。

内容

古今の名作広告を可能な限りDVD VHS, 資料等で紹介し、解説と講義を進行します。

広告の夜明け 万博と百貨店

ジャーナリズムとしての広告

広告は、ラブレターである

日本のCMの特長を考える

20世紀最高の広告キャンペーン

あらためて、広告とは何だろう

商品価値は時代により変遷する

企業の論理と生活者の論理

広告は本当に商品売るためにあるのか？

即効薬としての広告と、漢方薬としての広告

新聞広告の可能性を探る

ブランドの力とは？

タグラインとスローガンについて

21世紀の広告はどう変わっていくのか

広告から時代を讀んでいこう

評価

授業への参加姿勢30%、課題へのレポート評価70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】毎回、講義終了時に次回の予告と予習ポイントを指示します。

【事後学修】講義により参考資料を配布し、復習の手助けとします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使いません。

【推薦書】1回目の講義時に紹介します。

科目名	広報論		
担当教員名	石野 榮一		
ナンバリング	KHd233		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

企業や各種団体が持続可能な活動をしていくには、広く社会に知られ、理解され、支持されることが必要となる。その手段として広報があり、官民間問わず広報の重要性は高まっている。そこでは広報の役割を学ぶとともに、企業や官公庁でどのように広報活動が行われているかを学ぶ。企業・組織のコンプライアンス、危機管理機能の面も含め、広報全般について認識を深めることを授業の主眼とする。

科目の概要

現代の情報社会にあって、広報の重要性は論を俟たない。特に企業や官公庁の現場では、広報紙など広報媒体（広報紙・広報誌、WEB等）および広報業務の位置付けが大きくなっている。その意義と役割を踏まえた「広報のあり方」を学ぶ。広報の現場に身を置く実務者も招き理論と実際の両方を見据えた理解に努める。

学修目標（＝到達目標）

発信する側からの思考論理・発信方法を吸収することで、広報（情報）の受け手になったときのメディアリテラシーを学ぶ。同時に広報媒体で情報を発信するに当たっての留意点を具体的な事例・実践を通して学ぶ。将来、官公庁や地域の各種諸団体、一般企業の広報部門に配属されるケースも視野に入れ、実践に強い学生を育てるための授業を展開する。

内容

1	ガイダンス（行政・企業等の「広報」を志す人のために）
2	広報の成り立ちと定義、役割
3	広報と広告
4	広報と広告の違いを多方面から分析
5	ジャーナリズムと広報の関係
6	広報と記者クラブ
7	ニュースリリースを理解する
8	新聞・テレビ・WEBなどのメディアと広報の関係
9	広報が担う危機管理
10	広報の現場学（実践編：諸団体等の広報活動の実際に触れ成果物も制作）
11	広報の現場学（実践編：諸団体等の広報活動の実際に触れ成果物も制作）
12	広報の現場学（実践編：諸団体等の広報活動の実際に触れ成果物も制作）
13	広報の現場学（実践編：諸団体等の広報活動の実際に触れ成果物も制作）
14	広報の現場学（実践編：諸団体等の広報活動の実際に触れ成果物も制作）
15	まとめ

評価

授業への取り組み60%、課題執筆40%で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】提示する課題の予習を行う。

【事後学修】学んだテーマを掘り下げさせる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】授業中に指示。

科目名	問題解決手法		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング	KHd234		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

大学、職場問わず様々な場面で直面する問題の合理的な解決手法について学ぶ。

科目の概要

問題に直面した時に、たくさんのアイデアを発想しそれをまとめることにより解決策を模索する創造的な解決手法と、問題をモデル化して合理的な意思決定をする解析的な解決手法の両方を学び、演習を通してそれらを活用する力を養う。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 様々な問題解決手法について概要を理解する
- ・ 自分が問題に直面した時に、それらの手法を活用できる

内容

1	問題解決手法の概要
2	グループディスカッション
3	ブレインストーミング、親和図法
4	特性要因図、マインドマップ
5	いろいろな意思決定法
6	ゲーム理論
7	演習
8	AHP (階層的意決定) と一対比較
9	ジョブショップスケジューリングとガントチャート
10	ジョンソンの基準
11	在庫管理
12	モデリングとシミュレーション
13	演習
14	まとめ
15	総合演習

評価

以下のふたつの評価方法のうち、高得点の方を総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

- ・ 演習 : 25% + 演習 : 25% + 総合演習 : 50%
- ・ 総合演習 : 100%

【フィードバック】演習は翌週以降の授業で返却・解説する。

授業外学習

【事前予習】前回の資料を見直し、理解が不十分な場合は質問項目を整理しておく

【事後学習】学んだ内容を復習して理解を深めておくとともに、身の回りの問題に適用できないか考えてみる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

テキストは使用せず、毎回プリントを配布する。

講義で使用する配布資料・説明資料は総合教育システムで提供する。

科目名	ブランド論		
担当教員名	松本 晃子		
ナンバリング	KHd235		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「ブランド」は現在の企業活動において、重要なテーマの一つですが、「ブランド」は今になって急に注目度を増したのではなく、古くは自らの保有物の証明書として捉えられていました。現在の「ブランド」への注目は、他の商品・サービスとの差別化を求める企業のマーケティング行動にのみ関係するのではなく、組織・商品や個人の「存在表明」として捉えられることにあります。

科目の概要

「ブランド」を身近な事例に基いてわかりやすく説明していきます。「ブランド」とは何なのか。その機能や役割、管理について把握し、「ブランド」は消費者にとってどのように認知されるのか、消費者との関係についても理解を深めていきます。

学修目標 (= 到達目標)

「ブランド」の基礎について理解を深め、具体例を基に「ブランド」の戦略や資産価値を述べるようにします。合わせて、自分自身の存在を「ブランド」と捉え、「ブランド」創造の手順を学習し、未来に向けた自らの将来ビジョンを設計する着眼力を高めるようにします。

内容	
1	オリエンテーション
2	ブランドとは何か
3	マーケティング概念変遷とブランド
4	ブランドの構成要素 - 企業経営におけるブランドの果たす役割
5	ブランドの創造ものがたり
6	企業マーケティングとブランドの役割
7	地域ブランドとは何か
8	ブランド・エクイティ
9	新市場創造とブランド化計画
10	SWOT分析と自分自身のブランド化
11	ブランド確立に必要な「商品開発」の具体的手法・考え方について解説
12	開発したブランドの育成に関する考え方・手法について様々な角度から解説
13	ブランド・コミュニティ
14	ブランドのこれから
15	まとめ

評価

授業への参加30%・数回のレポート20%・筆記試験50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業時の課題は、次週以降の授業時にフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】

毎回の講義終了時に、次回の講義内容を説明し、予習の要点を指示する。

【事後学修】

毎回配布する資料で、講義内容を復習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず。

【推薦書】授業で紹介します。

【参考図書】授業で紹介します。

科目名	マーケティングリサーチ		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング	KHd236		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生活情報学科ビジネスコース専門科目の3年次前期配当の選択科目である。

科目の概要

1年次前期配当の必修科目である「マーケティング」、2年次前期配当の必修科目である「調査と統計」で教授される内容を発展させ、実践的に応用する技法を習得する。定量調査と定性調査の技法、リサーチテーマ別にみた調査の技法を体系的に学習する。

学修目標 (= 到達目標)

マーケティングとはなにかという理解、マーケティングのための技法の根拠となる理屈の理解、およびこれらの実践的な応用力を身に着ける。

内容

1	はじめに：マーケティングリサーチとは何か
2	定量調査のデータ収集(1)調査の目的と調査方法
3	定量調査のデータ収集(2)調査対象の抽出
4	定量調査のデータ収集(3)調査票の作り方
5	定量調査のデータ分析(1)記述統計
6	定量調査のデータ分析(2)多変量解析
7	定性調査のデータ収集(1)グループインタビューの設計
8	定性調査のデータ収集(2)グループインタビューの進め方
9	定性調査のデータ分析(3)グループインタビューの記録と分析
10	商品開発のマーケティングリサーチ
11	プロモーションのマーケティングリサーチ
12	ブランドのマーケティングリサーチ
13	市場シェアのマーケティングリサーチ
14	ニュー・マーケティングリサーチ
15	まとめ：マーケティングリサーチと倫理

評価

総合的理解度評価を40%、毎時間の提出課題の評価を60%とし、総合評価60点以上を合格とする。授業時の課題についてコメントし、次週の授業でフィードバックする。

授業外学習

【事前準備】毎回の講義で理解できていなと思う部分について、質問事項をあらかじめ整理しておく。

【事後学修】講義内容をノートに整理する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。ネットワークの授業用フォルダに資料を格納しておく。

【推薦書】

岸川 茂（編著）・JMRX（著）、2016、『マーケティング・リサーチの基本』、日本実業出版社。

石井栄造（著）、2012、『マーケティングリサーチの進め方がわかる本』、日本能率協会マネジメント位センター。

科目名	ビジネス統計学		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング	KHd337		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 今までの専門科目の履修の上で、ビジネスにおける統計の使い方を学ぶ。

科目の概要 EXCELの復習から始まり、統計学の基礎的手法を確認する。その後、ビジネスにおいてつかわれる統計的手法を学習し、自らビジネス問題において統計を用いて解決する方法を身につける。

学修目標 ビジネス上の問題について統計的手法を活用して解決することを目標とする。

内容

1	ガイダンス
2	EXCELの復習
3	統計学の基礎
4	相関係数と散布図
5	推定と検定
6	回帰分析
7	重回帰分析
8	分散分析
9	財務分析 1
10	財務分析 2
11	データの収集方法
12	株式学習ゲーム 1
13	株式学習ゲーム 2
14	株式学習ゲーム 3
15	まとめ

評価

1) 毎回の課題 50% 2) 最終の課題 50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時の課題は、次週以降の授業時にフィードバックする。

授業外学習

【事前準備】配布したプリントを読むこと。

【事後学修】授業の課題をもう一度復習すること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【推薦書】白砂堤津耶『初歩からの計量経済学 第2版』日本評論社、2007年。 331.19/S

向後千春他『統計学がわかる』技術評論社、2007年。 417/K

アミール・D・アクセル他『ビジネス統計学上』ダイヤモンド社、2007年。 331.19/A/1

科目名	リテールマーケティング		
担当教員名	佐藤 浩史		
ナンバリング	KHd238		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

販売に必要な商品知識や販売技術、仕入や在庫管理、マーケティングなど、より高度で専門的な知識を持つ人材の育成を目的とします。

科目の概要

現在の流通業界を取り巻く環境は、急激かつ大きく変化しています。

流通業界で最も必要とされているのは、多様化・高度化した顧客のニーズを的確に捉え、豊富な商品知識や顧客に配慮した接客技術を武器として、ニーズにあった商品を提供するとともに、商品の開発や仕入、販売、物流などを効率的かつ効果的に行うことができる人材です。

本授業では、流通業についての知識の中でも、特に小売業の店舗運営について学習します。

学修目標 (= 到達目標)

小売業の店舗運営についての知識の習得、3級リテールマーケティング検定 (日本商工会議所主催) の合格を目標とします。

内容

1	リーテールマーケティングの概要
2	小売業の類型 (1) 流通構造における小売業の役割
3	小売業の類型 (2) 組織形態別、店舗形態別小売業の分類
4	マーチャンダイジング (1) 商品計画、販売計画、仕入計画
5	マーチャンダイジング (2) 販売管理、在庫管理
6	ストアオペレーション (1) 発注の仕方、検収業務
7	ストアオペレーション (2) ディスプレイの種類と特徴
8	マーケティング (1) 顧客満足経営、フリークエントショッパーズプログラム
9	マーケティング (2) リージョナルプロモーション
10	販売経営管理 (1) 敬語、小売業に関する法令知識 (1)
11	販売経営管理 (2) 小売業に関する法令知識 (2)、計数管理
12	問題演習 (1)
13	問題演習 (2)
14	まとめ (1)
15	まとめ (2)

評価

授業への参加度40% 筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】授業前に教科書を読んでおく 30分

【事後学修】教科書を読み返し、授業内容の確認をする 30分

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

著者 上岡史郎

書名 販売士検定3級テキスト&問題集

出版社 成美堂出版

科目名	簿記入門		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHe138		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、簿記の原理と理論に関する基礎を体系的に学修することを目的とした簿記論の入門科目である。具体的には、複式簿記を中心とした基本的商業簿記の原理、原則と記帳方法を簿記一巡の手続きの中で基本問題および練習問題を通して理解、習得する。

科目の概要

講義では「会計学基礎」の知識を基盤として、簿記の原理をファーストステップからスタートし、分かりやすく解説する。基本問題および数多くの練習問題を解くことにより商業簿記の基本原理や記帳、決算等に関する簿記特有の考え方を理解、把握し、ビジネス・パーソンに必要な簿記実務の初歩レベルを習得する。

学修目標

学修目標として以下の3点をあげる。

1. 簿記一巡の全体像を把握する。
2. 企業活動における会計の記帳方法を理解する。
3. 財務諸表の理解と基本的財務諸表の作成能力を習得する。

内容

1	資産・負債・純資産と貸借対照表
2	収益・費用と損益計算書
3	取引と取引要素の結合関係
4	勘定と勘定記入法則
5	仕訳と転記
6	仕訳帳と総勘定元帳
7	現金・預金取引の記帳
8	債権・債務取引の記帳
9	商品売買取引と固定資産取得取引の記帳
10	純資産取引の記帳
11	収益・費用取引の記帳
12	決算の意味と決算予備手続き
13	帳簿の締切と繰越試算表
14	損益計算書と貸借対照表の作成
15	まとめ

評価

重要項目に関するミニテスト・レポート等 (20%)、通常の授業態度 (20%)、学修目標に基づく期末試験等 (60%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】学習のポイントは必ず読んでくること

【事後学修】講義で指示された問題は必ず指定の時間内に解いておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『ファーストステップ簿記を学ぶ』 渡部裕巨編著 中央経済社 1,200円

科目名	簿記入門		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHe138		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、簿記の原理と理論に関する基礎を体系的に学修することを目的とした簿記論の入門科目である。具体的には、複式簿記を中心とした基本的商業簿記の原理、原則と記帳方法を簿記一巡の手続きの中で基本問題および練習問題を通して理解、習得する。

科目の概要

講義では「会計学基礎」の知識を基盤として、簿記の原理をファーストステップからスタートし、分かりやすく解説する。基本問題および数多くの練習問題を解くことにより商業簿記の基本原理や記帳、決算等に関する簿記特有の考え方を理解、把握し、ビジネス・パーソンに必要な簿記実務の初歩レベルを習得する。

学修目標

学修目標として以下の3点をあげる。

1. 簿記一巡の全体像を把握する。
2. 企業活動における会計の記帳方法を理解する。
3. 財務諸表の理解と基本的財務諸表の作成能力を習得する。

内容

1	資産・負債・純資産と貸借対照表
2	収益・費用と損益計算書
3	取引と取引要素の結合関係
4	勘定と勘定記入法則
5	仕訳と転記
6	仕訳帳と総勘定元帳
7	現金・預金取引の記帳
8	債権・債務取引の記帳
9	商品売買取引と固定資産取得取引の記帳
10	純資産取引の記帳
11	収益・費用取引の記帳
12	決算の意味と決算予備手続き
13	帳簿の締切と繰越試算表
14	損益計算書と貸借対照表の作成
15	まとめ

評価

重要項目に関するミニテスト・レポート等 (20%)、通常の授業態度 (20%)、学修目標に基づく期末試験等 (60%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】学習のポイントは必ず読んでくること

【事後学修】講義で指示された問題は必ず指定の時間内に解いておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『ファーストステップ簿記を学ぶ』 渡部裕巨編著 中央経済社 1,200円

科目名	簿記基礎		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHe238		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、「簿記入門」に引き続き、会計学の根幹を成す簿記の原理と理論に関する基礎を複式簿記を中心に体系的に理解、学修することをねらいとする科目である。基本的な簿記取引の処理、記帳方法を習得することが求められる科目である。

科目の概要

「会计学入門」「簿記入門」の知識を基盤として、前半は、期中取引における仕訳と帳簿記入を学修し、後半は諸取引の処理と決算を中心に、日商簿記3級の全範囲を学修していく。

学修目標

1. 簿記一巡という全体像を理解する。
2. 企業活動における会計の記帳方法を理解する。
3. 会計記録から財務諸表を作成する能力を習得する。

内容

1	簿記の意味・目的・種類と基礎概念
2	取引、勘定と仕訳
3	帳簿記入、決算と財務諸表 (その1)
4	現金預金取引
5	商品売買
6	売掛金と買掛金
7	その他債権債務
8	手形
9	有価証券
10	固定資産、資本金と引出金
11	収益と費用、税金
12	帳簿と伝票
13	決算と財務諸表 (その2)
14	決算と財務諸表 (その2の続き)
15	まとめ

評価

学修目標に関するミニテストと課題レポート等 (20点)、学修目標に基づく期末試験 (60点)、通常の授業態度等 (20点) により総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】学習のポイントは必ず読んでくること

【事後学修】講義で指示された問題は必ず指定時間内に解いておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『検定簿記講義3級商業簿記』 渡部裕巨・片山覚・北村敬子編著 中央経済社

その他適宜，補助レジユメを用意する。

【参考図書】 『簿記一般教程』 武田隆二著 中央経済社

その他随時教室にて紹介する。

科目名	簿記基礎		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHe238		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、「簿記入門」に引き続き、会計学の根幹を成す簿記の原理と理論に関する基礎を複式簿記を中心に体系的に理解、学修することをねらいとする科目である。基本的な簿記取引の処理、記帳方法を習得することが求められる科目である。

科目の概要

「会计学入門」「簿記入門」の知識を基盤として、前半は、期中取引における仕訳と帳簿記入を学修し、後半は諸取引の処理と決算を中心に、日商簿記3級の全範囲を学修していく。

学修目標

1. 簿記一巡という全体像を理解する。
2. 企業活動における会計の記帳方法を理解する。
3. 会計記録から財務諸表を作成する能力を習得する。

内容	
1	簿記の意味・目的・種類と基礎概念
2	取引、勘定と仕訳
3	帳簿記入、決算と財務諸表 (その1)
4	現金預金取引
5	商品売買
6	売掛金と買掛金
7	その他債権債務
8	手形
9	有価証券
10	固定資産、資本金と引出金
11	収益と費用、税金
12	帳簿と伝票
13	決算と財務諸表 (その2)
14	決算と財務諸表 (その2の続き)
15	まとめ

評価

学修目標に関するミニテストと課題レポート等 (20点)、学修目標に基づく期末試験 (60点)、通常の授業態度等 (20点) により総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】学習のポイントは必ず読んでくること

【事後学修】講義で指示された問題は必ず指定時間内に解いておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『検定簿記講義3級商業簿記』 渡部裕巨・片山覚・北村敬子編著 中央経済社

その他適宜，補助レジュメを用意する。

【参考図書】 『簿記一般教程』 武田隆二著 中央経済社

その他随時教室にて紹介する。

科目名	簿記基礎演習		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHe339		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、会計学の根幹を成す簿記の商業簿記の原理と理論に関する基礎を体系的に学修することを目的とした科目である。具体的には、「簿記基礎」に引き続き、より複雑な商業活動の記帳方法と決算技法について、幅広く日商簿記3級の範囲を学修するとともに、数多くの練習問題を解くことにより簿記の計算レベルを上げる。

科目の概要

講義では、基本問題のみならず、演習問題、応用問題にまで発展させ、商業簿記の理解をさらに深めていく予定である。また、手形・固定資産の処理、精算表・財務諸表の作成等、重要なテーマについては問題数を増やし、理解を確実なものにしていく。したがって講義の最終段階では、受講者の日商簿記検定 3級の確実な合格レベルを目指す。

学修目標

学修目標としては、以下の3点をあげる。

1. 企業取引の内容を理解し、会計処理方法を確実に習得する。
2. 発生主義や実現主義、費用収益の対応等、重要な会計理論を理解する。
3. 財務諸表全体の意味を理解し、応用論点にも対応できる。

内容	
1	簿記の基本原理
2	取引、仕訳
3	勘定記入、帳簿
4	現金・現金過不足
5	当座預金・当座借越
6	小口現金、商品売買
7	商品有高帳、売掛金・買掛金
8	その他債権債務、手形 (その1)
9	手形 (その2)、有価証券、固定資産 (その1)
10	固定資産 (その2)、資本金と引出金
11	収益と費用、税金、伝票
12	試算表の作成と決算整理手続
13	元帳の締切と財務諸表の作成 (その1)
14	元帳の締切と財務諸表の作成 (その2)
15	まとめ

評価

ミニテスト・課題レポート等 (20%)、通常の授業態度 (20%)、学修目標に基づく期末試験 (60%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】学習のポイントは必ず読んでくること

【事後学修】講義で指示された問題は必ず指定時間内に解いておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『検定簿記ワークブック3級商業簿記』 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著（中央経済社）700円

【推薦書】 『簿記一般教程』 武田隆二著（中央経済社）

科目名	簿記基礎演習		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHe339		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、会計学の根幹を成す簿記の商業簿記の原理と理論に関する基礎を体系的に学修することを目的とした科目である。具体的には、「簿記基礎」に引き続き、より複雑な商業活動の記帳方法と決算技法について、幅広く日商簿記3級の範囲を学修するとともに、数多くの練習問題を解くことにより簿記の計算レベルを上げる。

科目の概要

講義では、基本問題のみならず、演習問題、応用問題にまで発展させ、商業簿記の理解をさらに深めていく予定である。また、手形・固定資産の処理、精算表・財務諸表の作成等、重要なテーマについては問題数を増やし、理解を確実なものにしていく。したがって講義の最終段階では、受講者の日商簿記検定 3級の確実な合格レベルを目指す。

学修目標

学修目標としては、以下の3点をあげる。

1. 企業取引の内容を理解し、会計処理方法を確実に習得する。
2. 発生主義や実現主義、費用収益の対応等、重要な会計理論を理解する。
3. 財務諸表全体の意味を理解し、応用論点にも対応できる。

内容	
1	簿記の基本原理
2	取引、仕訳
3	勘定記入、帳簿
4	現金・現金過不足
5	当座預金・当座借越
6	小口現金、商品売買
7	商品有高帳、売掛金・買掛金
8	その他債権債務、手形 (その1)
9	手形 (その2)、有価証券、固定資産 (その1)
10	固定資産 (その2)、資本金と引出金
11	収益と費用、税金、伝票
12	試算表の作成と決算整理手続
13	元帳の締切と財務諸表の作成 (その1)
14	元帳の締切と財務諸表の作成 (その2)
15	まとめ

評価

ミニテスト・課題レポート等 (20%)、通常の授業態度 (20%)、学修目標に基づく期末試験 (60%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】学習のポイントは必ず読んでくること

【事後学修】講義で指示された問題は必ず指定時間内に解いておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『検定簿記ワークブック3級商業簿記』 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著（中央経済社）700円

【推薦書】 『簿記一般教程』 武田隆二著（中央経済社）

科目名	簿記基礎演習		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHe339		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、会計学の根幹を成す簿記の商業簿記の原理と理論に関する基礎を体系的に学修することを目的とした科目である。具体的には、「簿記基礎」に引き続き、より複雑な商業活動の記帳方法と決算技法について、幅広く日商簿記3級の範囲を学修するとともに、数多くの練習問題を解くことにより簿記の計算レベルを上げる。

科目の概要

講義では、基本問題のみならず、演習問題、応用問題にまで発展させ、商業簿記の理解をさらに深めていく予定である。また、手形・固定資産の処理、精算表・財務諸表の作成等、重要なテーマについては問題数を増やし、理解を確実なものにしていく。したがって講義の最終段階では、受講者の日商簿記検定 3級の確実な合格レベルを目指す。

学修目標

学修目標としては、以下の3点をあげる。

1. 企業取引の内容を理解し、会計処理方法を確実に習得する。
2. 発生主義や実現主義、費用収益の対応等、重要な会計理論を理解する。
3. 財務諸表全体の意味を理解し、応用論点にも対応できる。

内容	
1	簿記の基本原理
2	取引、仕訳
3	勘定記入、帳簿
4	現金・現金過不足
5	当座預金・当座借越
6	小口現金、商品売買
7	商品有高帳、売掛金・買掛金
8	その他債権債務、手形 (その1)
9	手形 (その2)、有価証券、固定資産 (その1)
10	固定資産 (その2)、資本金と引出金
11	収益と費用、税金、伝票
12	試算表の作成と決算整理手続
13	元帳の締切と財務諸表の作成 (その1)
14	元帳の締切と財務諸表の作成 (その2)
15	まとめ

評価

ミニテスト・課題レポート等 (20%)、通常の授業態度 (20%)、学修目標に基づく期末試験 (60%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】学習のポイントは必ず読んでくること

【事後学修】講義で指示された問題は必ず指定時間内に解いておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『検定簿記ワークブック3級商業簿記』 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著（中央経済社）700円

【推薦書】 『簿記一般教程』 武田隆二著（中央経済社）

科目名	簿記応用		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHe338		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、「簿記初級」の知識に引き続き、会計学の根幹を成す簿記の原理と理論を体系的により深く学修することを目的に、企業のさらに複雑な商業活動の記帳方法と決算技法を習得する科目である。

科目の概要

具体的には、日商簿記検定試験2級の商業簿記の範囲に沿って、会計に関する深い考察力と応用力を養っていく。検定試験に必要な問題料確保のため、講義ではテキストの問題の他、プリント配布による練習問題も予定している。

学修目標

複雑な企業取引の内容を把握し、会計処理方法を十分に理解する。また企業取引の複合的な応用論点への対応力も習得する。講義終了時点では、日商簿記検定商業簿記2級の合格レベルを目標とする。

内容	
1	簿記一巡の手続
2	現預金取引
3	有価証券取引
4	債権・債務取、手形取引 (その1)
5	手形取引 (その2)、引当金取引
6	商品売買取引
7	特殊商品売買取引 (その1)
8	特殊商品売買取引 (その2)
9	固定資産取引、損益取引
10	株式会社会計 (その1)
11	株式会社会計 (その2)
12	決算 (その1)
13	決算 (その2)
14	本支店会計
15	まとめ

評価

ミニテスト・課題レポート等 (20%)、通常の授業態度 (20%)、学修目標に基づく期末試験 (60%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】学習のポイントは必ず読んでくること

【事後学修】講義で指示された問題は必ず指定の時間内に解いておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『検定簿記講義2級商業簿記』 渡部裕巨・片山覚・北村敬子編著（中央経済社） 700円

【推薦書】 『簿記一般教程』 武田隆二著（中央経済社）

科目名	財務会計論		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHe340		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

我々の周りには様々なビジネスが存在し、そのビジネスを企業等が支えている。本科目は、この企業等のビジネスによる経営活動を記録、計算し、財務諸表を作成する一連の会計の役割とその基本的仕組みを1年次の会计学入門からさらに発展させ学修する科目である。本科目では、将来ビジネスマンとして必要な基本的財務諸表を読む力及び作成できる力を徐々に習得し、後半では最近のIFRSの動向等も学修する。

科目の概要：

会計は今や英語、ITと並びビジネスマンの必須である。ビジネスマンとしてのアカウンティング・マインドを身につけるため、本科目では実務を意識して多くの事例を取り入れ、会計の基礎を中心に企業で必要とされる税効果会計や国際会計等まで幅広く学修する。

学修目標：

1. 会計の有用性、基本的任務を実務の基礎レベルまで十分に理解する。
2. 財務諸表の基礎的分析能力を身につける。
3. 基本的財務諸表の作成ができる。
4. 基本的IFRSを理解する。

内容

1	会計の役割
2	財務諸表の種類と特徴
3	財務諸表の体系
4	わが国の企業会計制度
5	流動資産
6	固定資産
7	負債
8	純資産
9	損益計算書
10	損益計算書
11	キャッシュフロー計算書
12	企業集団の会計
13	税効果会計
14	財務諸表分析
15	まとめ

評価

学習目標に関するレポート・ミニテスト等 (20点)、学習目標に基づく期末試験 (60点)、通常の授業態度等 (20点)

)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】講義で事前に指示された箇所は必ず読んでくること。

【事後学修】章末の練習問題は必ず復習すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 大塚宗春 福島隆 金子良太 菅野浩勢著 『テキスト入門会計学』 中央経済社

その他、適宜、補助レジュメを配布する。

【参考図書】 広瀬義州著 『財務会計』 中央経済社

科目名	BATIC		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHe341		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

今日、様々な分野で企業の国際化が進み、その行動指針である会計基準の国際化も急速に進められている。本科目は、企業の国際化によるビジネスの基礎を英語で記録、計算し、財務諸表を作成する一連の基本的仕組みを前期の会计学入門からさらに発展させ学修する科目である。本科目では、将来、ビジネスマンとして必要な国際会計基準の基本的財務諸表を読む力及び作成できる力を習得し、後半では最近のIFRSの動向等も学修する。

科目の概要：

会計は今や英語、ITと並びビジネスマンの必須である。ビジネスマンとしてのアカウンティング・マインドを身につけるため、本科目では国際ビジネスの実務を意識して多くの事例を取り入れ、国際会計基準の基礎を中心に、その必要性から帳簿の記帳及び管理まで幅広く学修する。

学修目標：

1. 国際会計の必要性・任務を実務の基礎レベルまで理解する。
2. 基本的な会計取引を英語で理解できる能力を身につける。
3. 英語による簡単な会計帳簿の記帳及び管理ができる。
4. IFRSを理解する。

内容

1	会計と簿記の基本概念
2	取引と仕訳その1
3	取引と仕訳その2
4	仕訳帳と元帳その1
5	仕訳帳と元帳その2
6	試算表
7	決算修正仕訳その1
8	決算修正仕訳その2
9	棚卸資産と売上原価の会計処理
10	精算表と締切仕訳
11	財務諸表
12	基本的前提とIFRS
13	財務諸表分析
14	内部統制
15	まとめ

評価

学習目標に関するレポート・ミニテスト等 (20点)、学習目標に基づく期末試験 (60点)、通常の授業態度等 (20点)

)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】講義で事前に指示された箇所は必ず読んでくること。

【事後学修】章末の練習問題は必ず復習すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『BATIC Subject1 公式テキスト』 中央経済社

その他、適宜、補助レジュメを配布する。

【参考図書】 『BATIC Subject1 問題集』 中央経済社

科目名	ソフトウェア概論		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング	KHf242		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

情報関連の専門科目を学ぶ基礎として、コンピュータの働きや仕組みについてソフトウェアの視点から学ぶ。

科目の概要

オペレーティングシステムやアプリケーション等の各種ソフトウェアの働きや分類、プログラミング言語の種類と特徴、オペレーティングシステムの主な機能・役割、コンピュータ内の数値・文字データの表現・処理 (演算) について学び、コンピュータが各種処理を行う仕組みをソフトウェアの視点から理解する。

学修目標 (= 到達目標)

ソフトウェアやプログラミング言語の種類と特徴を理解する

オペレーティングシステムの機能と役割を理解する

コンピュータがデータをどのように扱うかを理解する

内容

1	ソフトウェアの種類と特徴
2	オペレーティングシステムの主要な機能・役割
3	プログラミング言語の種類と特徴
4	記数法、基数変換 (n進数 10進数)
5	基数変換 (10進数 n進数)
6	基数変換 (2進数 8進数 16進数)
7	演習
8	加法、補数と減法
9	整数の2進数表現 (符号付絶対値、補数表現)
10	実数の2進数表現 (固定小数点形式、浮動小数点形式)
11	シフト演算
12	文字データの表現
13	演習
14	まとめ
15	総合演習

評価

以下のふたつの評価方法のうち、高得点の方を総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

・演習 : 25% + 演習 : 25% + 総合演習 : 50%

・総合演習：100%

【フィードバック】演習は翌週以降の授業で返却・解説する。

授業外学習

【事前予習】授業資料をダウンロードし、事前に目を通しておく。

【事後学修】講義内容を復習し、理解を深めるために自習問題を解く。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

テキストは使用せず、毎回プリントを配布する。

講義で使用する配布資料・説明資料は総合教育システムで提供する。

科目名	パソコン活用		
担当教員名	泉 直子、栗原 隆史、小野 裕次郎、新行内 康慈 他		
ナンバリング	KHf243		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

日常的に触れるIT関連のハードウェア、ソフトウェアについて演習を中心に学ぶ授業であり、IT関連の授業のもっとも基礎的な授業である。

科目の概要

各教員が3コマ連続で各種のソフトウェアの利用を通して、IT関連の基礎を教える。フリーのソフトウェアも多く利用し演習を中心に進める授業である。

今日の日常生活でも複雑なIT関連機器が多く利用され、日進月歩、新しくなっている。これらIT関連機器やソフトウェアについて、実際に利用して基本的なことを学び、IT関連の用語、日常的に利用するIT 関連の各種のハードウェア、ソフトウェアの機能を理解するとともに、それらの様々な違いや活用の仕方について学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

日常的に使われているIT機器やソフトウェアについて基本的なことを理解し、各自がより良い活用の仕方を利用することができるようになる。

内容

1	泉 オリエンテーション
2	泉 簡単なアニメーション制作と関連する色彩・画像についての表現
3	泉 続き
4	栗原 サウンドデータの編集
5	栗原 続き
6	栗原 続き
7	田倉 フォトムービーの作成 (文字、画像、音声、動画の編集)
8	田倉 続き
9	田倉 続き
10	新行内 USBメモリの活用
11	新行内 続き
12	新行内 続き
13	小野 Scratchゲーム作成
14	小野 続き
15	小野 続き まとめ

評価

平常点30点、各教員の2回の授業に対する課題評価10点の合計とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】次行われる授業について関連するソフトウェア、ハードウェアはどのようなものがあるか、インターネットを使い調べ、予備知識として頭に入れておく。

【事後学修】

授業中に出された課題を仕上げ、授業内容を理解する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 なし

【推薦書】 各回の授業で必要な本は紹介する

【参考図書】 各回の授業で必要な本は紹介する

科目名	パソコン活用		
担当教員名	泉 直子、栗原 隆史、小野 裕次郎、新行内 康慈 他		
ナンバリング	KHf243		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

日常的に触れるIT関連のハードウェア、ソフトウェアについて演習を中心に学ぶ授業であり、IT関連の授業のもっとも基礎的な授業である。

科目の概要

各教員が3コマ連続で各種のソフトウェアの利用を通して、IT関連の基礎を教える。フリーのソフトウェアも多く利用し演習を中心に進める授業である。

今日の日常生活でも複雑なIT関連機器が多く利用され、日進月歩、新しくなっている。これらIT関連機器やソフトウェアについて、実際に利用して基本的なことを学び、IT関連の用語、日常的に利用するIT 関連の各種のハードウェア、ソフトウェアの機能を理解するとともに、それらの様々な違いや活用の仕方について学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

日常的に使われているIT機器やソフトウェアについて基本的なことを理解し、各自がより良い活用の仕方を利用することができるようになる。

内容

1	栗原 オリエンテーション
2	栗原 サウンドデータの編集
3	栗原 続き
4	泉 簡単なアニメーション制作と関連する色彩・画像についての表現
5	泉 続き
6	泉 続き
7	小野 scratchゲーム作成
8	小野 続き
9	小野 続き
10	田倉 フォトムービーの作成 (文字、画像、音声、動画の編集)
11	田倉 続き
12	田倉 続き
13	新行内 USBメモリの活用
14	新行内 続き
15	新行内 続き まとめ

評価

平常点30点、各教員の2回の授業に対する課題評価10点の合計とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】次行われる授業について関連するソフトウェア、ハードウェアはどのようなものがあるか、インターネットを使い調べ、予備知識として頭に入れておく。

【事後学修】

授業中に出された課題を仕上げ、授業内容を理解する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 なし

【推薦書】 各回の授業で必要な本は紹介する

【参考図書】 各回の授業で必要な本は紹介する

科目名	パソコン活用		
担当教員名	泉 直子、栗原 隆史、小野 裕次郎、新行内 康慈 他		
ナンバリング	KHf243		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

日常的に触れるIT関連のハードウェア、ソフトウェアについて演習を中心に学ぶ授業であり、IT関連の授業のもっとも基礎的な授業である。

科目の概要

各教員が3コマ連続で各種のソフトウェアの利用を通して、IT関連の基礎を教える。フリーのソフトウェアも多く利用し演習を中心に進める授業である。

今日の日常生活でも複雑なIT関連機器が多く利用され、日進月歩、新しくなっている。これらIT関連機器やソフトウェアについて、実際に利用して基本的なことを学び、IT関連の用語、日常的に利用するIT 関連の各種のハードウェア、ソフトウェアの機能を理解するとともに、それらの様々な違いや活用の仕方について学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

日常的に使われているIT機器やソフトウェアについて基本的なことを理解し、各自がより良い活用の仕方を利用することができるようになる。

内容

1	田倉 オリエンテーション
2	田倉 フォトムービーの作成 (文字、画像、音声、動画の編集)
3	田倉 続き
4	新行内 USBメモリの活用
5	新行内 続き
6	新行内 続き
7	泉 簡単なアニメーション制作と関連する色彩・画像についての表現
8	泉 続き
9	泉 続き
10	小野 scratchゲーム作成
11	小野 続き
12	小野 続き
13	栗原 サウンドデータの編集
14	栗原 続き
15	栗原 続き まとめ

評価

平常点30点、各教員の2回の授業に対する課題評価10点の合計とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】次行われる授業について関連するソフトウェア、ハードウェアはどのようなものがあるか、インターネットを使い調べ、予備知識として頭に入れておく。

【事後学修】

授業中に出された課題を仕上げ、授業内容を理解する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 なし

【推薦書】 各回の授業で必要な本は紹介する

【参考図書】 各回の授業で必要な本は紹介する

科目名	医療事務コンピューティング基礎		
担当教員名	川村 好子、小野 裕次郎		
ナンバリング	KHf244		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

医療機関の主な収入源は診療報酬であるが、IT化によりカルテ（診療録）の電子化が急速に普及している現状を踏まえて、医療事務に携わる者にとって診療報酬請求に関する専門的知識に加えて、コンピュータ関連知識およびオペレーション技能が必要とされる。この授業は、資格取得を目的として、主にオペレーション技能を学びながら診療報酬請求に関する理解を深める。

科目の概要

医事コンピュータは、患者情報および診療内容をもとに、日々の診療費とレセプト（1月の診療報酬明細書）の請求をあわせもつ医事会計ソフトである。この授業では、模擬カルテによるオペレーション業務を学びながら、診療内容とレセプト請求の流れについて理解する。

学修目標（＝到達目標）

11月の医事コンピュータ技能検定3級の資格取得を目指すべく、保険医療制度の概要、コンピュータの関連知識ならびにオペレーション業務の基礎を理解する。本試験は、1)医療事務分野（医療事務知識）、2)コンピュータ関連知識、3)実技オペレーション（医事会計ソフトによるレセプト作成）の3領域すべてにおいて60%以上が合格ラインとなる。

内容

1	医療保険制度のしくみ
2	診療報酬請求について
3	医事コンピュータの基本操作
4	初診料・再診料・外来診療料の通則
5	診療行為別入力（初診料・再診料・外来診療料）
6	投薬料・院外処方せんの通則
7	診療行為別入力（投薬料・院外処方せん）
8	注射料の通則
9	診療行為別入力（注射料）
10	検査料の通則（検体検査）
11	検査料の通則（生体検査）
12	診療行為別入力（検査料／検体検査・生体検査）
13	病理診断の通則
14	診療行為別入力（病理診断）
15	まとめ（症例を用いて、初診料～検査までの診療行為を入力）

評価

平常点40%（小テスト、課題）、試験成績60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】 課題に関する質疑内容は、次回の授業内に解決すること。

【事後学修】 小テストなどの誤りは必ず復習すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

医科診療報酬早見表（医学通信社）

医事コンピュータ技能検定問題3級（2）（土屋書店）

科目名	医療事務コンピューティング応用		
担当教員名	川村 好子、小野 裕次郎		
ナンバリング	KHf344		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

IT化によりカルテ（診療録）の電子化が急速に普及している現状を踏まえて、医療事務に携わる者にとって診療報酬請求に関する専門的知識に加えて、コンピュータ関連知識およびオペレーション技能が必要とされる。この授業は、オペレーション技能を通して診療報酬請求に関する理解を深め、さらに医事コンピュータ技能の資格取得を目指す。

科目の概要

医事会計ソフトを使用して、主に外来診療における診療行為について、カルテの記載内容をもとにレセプト（診療報酬明細書）を作成する。この授業は、医事コンピュータ技能の資格取得を目的とした試験対策授業が含まれる。

学修目標（＝到達目標）

11月の医事コンピュータ技能検定3級の合格を目標とする。本試験は、1)医療事務分野（医療事務知識）、2)コンピュータ関連知識、3)実技オペレーション（医事会計ソフトによるレセプト作成）の3領域すべてにおいて60%以上が合格ラインである。

内容	
1	画像診断の通則
2	診療行為別入力（画像診断）
3	一般的な処置の通則
4	診療行為別入力（一般的な処置）
5	簡単な手術・麻酔の通則
6	診療行為別入力（簡単な手術・麻酔）
7	医学管理料の通則
8	診療行為別入力（医学管理料）
9	在宅医療・リハビリテーション・精神科専門療法 他 の通則
10	診療行為別入力（在宅医療・リハビリテーション・精神科専門療法 他）
11	検定試験試験対策（伝票形式および診療録形式）
12	検定試験試験対策（検査や画像診断を含む症例）
13	検定試験試験対策（処置や手術を含む症例）
14	検定試験試験対策（医学管理料を含む症例）
15	まとめ（領域別）

評価

平常点40%（小テスト、課題）、試験成績60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】自己学習における疑問点や質問事項をノートにまとめ、次回の授業内には解決する。

【事後学修】授業内における演習課題について、要点を復習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

医科診療報酬点数表（医学通信社）

医事コンピュータ技能検定問題3級（2）（土屋書店）

科目名	情報基礎		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング	KHf245		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ソフトウェア概論で学んだ内容を振り返りながら、情報関連科目を学ぶ上で必要となる数学や効率化手法の基礎について学ぶ。

科目の概要

コンピュータの仕組みを理解し効率的に活用する上で役立つ、オペレーションズリサーチの手法や集合、ブール代数、論理演算、論理回路等について学び、問題演習を通してその定着を図る。

学修目標 (= 到達目標)

- ・情報関連科目を学ぶ上で必要となる数学の基礎を理解する
- ・様々な分野で活用できる効率化手法の基礎を理解する

内容	
1	ガイダンス (授業の進め方、概要など)
2	集合
3	場合の数と順列・組合せ
4	ブール代数
5	カルノー図
6	論理回路
7	演習
8	加算回路とその他の論理演算・論理回路
9	日程計画問題とPERT(1)
10	日程計画問題とPERT(2)
11	マルチプログラミングとガントチャート
12	線形計画問題とグラフ解法
13	演習
14	まとめ
15	総合演習

評価

以下のふたつの評価方法のうち、高得点の方を総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

- ・演習 : 25% + 演習 : 25% + 総合演習 : 50%
- ・総合演習 : 100%

【フィードバック】演習は翌週以降の授業で返却・解説する。

授業外学習

【事前予習】ソフトウェア概論等で取り上げられた関連内容を事前に確認しておく。

【事後学修】講義内容を復習し、理解を深めるために自習問題を解く。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

テキストは使用せず、毎回プリントを配布する。

講義で使用する配布資料・説明資料は総合教育システムで提供する。

科目名	データベース基礎		
担当教員名	泉 直子		
ナンバリング	KHf246		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

「データベース応用」とともにデータベースに関する授業であり、ネットワークの普及とともに身近になってきているデータベースについて学びます。

身近なデータベースとしては、Excel やアクセスでの住所録の管理にデータベースが使われています。古くは銀行のシステムや図書館情報システムで、最近では、音楽配信や旅行検索、ネットショッピングのシステムを構築するのにデータベースは欠かせなくなっています。更に、最近では、インターネットで検索できる全てのデータを1つの大きなデータベースと見て検索できるように、世界的な基準作りが行われています。

大量のデータを高速に間違いなく、容易に、安全に利用するために、データベース管理システムにはどのような技術が工夫されているかを理解する授業です。

Excelでのデータベース管理とリレーショナルデータベースでのデータ管理の違いを理解し、基本的なデータベース管理機能について学ぶ授業であり、基礎的な授業です。

内容

Excel でのデータベース管理を学んだあと、Access を使い簡単なデータベースを作成する。作成したデータベースでデータ管理システムの技術的な工夫について実際に確認しながら、実習と平行して講義を進める。

1	データベースとは
2	Excelでのデータベース管理とリレーショナルデータベースについて
3	Access によるデータベースの作成演習 (テーブルの作成)
4	Access によるデータベースの作成演習 (複数テーブルの作成)
5	Access によるデータベースの作成演習 (クエリ処理)
6	Access によるデータベースの作成演習 (クエリ処理)
7	Access によるデータベースの作成演習 (フォーム、レポートの作成)
8	Access の総合演習課題
9	リレーショナル代数 (和演算、差演算、積演算、商演算)
10	リレーショナル代数 (選択演算、射影演算、結合演算)
11	DBMS (正規化)
12	DBMS (整合性)
13	DBMS (排他制御)
14	DBMS (障害回復)
15	まとめ

評価

授業に対する意欲・関心・評態度と授業中に出す演習課題 (40点) と総合課題 (30点) とテストまたはレポート (30点) の成績で評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 教科書の授業で行うところを簡単に読み、次回行うことは何なのか把握しておく

【事後学修】 授業で行ったことで、新しく出てきた項目について復習する。総合演習で、これらの応用問題が出てくるので、その時、教科書のどこを見直したらよいかわかるようにしておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業の最初に指定する

科目名	データベース基礎		
担当教員名	泉 直子		
ナンバリング	KHf246		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

「データベース応用」とともにデータベースに関する授業であり、ネットワークの普及とともに身近になってきているデータベースについて学びます。

身近なデータベースとしては、Excel やアクセスでの住所録の管理にデータベースが使われています。古くは銀行のシステムや図書館情報システムで、最近では、音楽配信や旅行検索、ネットショッピングのシステムを構築するのにデータベースは欠かせなくなっています。更に、最近では、インターネットで検索できる全てのデータを1つの大きなデータベースと見て検索できるように、世界的な基準作りが行われています。

大量のデータを高速に間違いなく、容易に、安全に利用するために、データベース管理システムにはどのような技術が工夫されているかを理解する授業です。

Excelでのデータベース管理とリレーショナルデータベースでのデータ管理の違いを理解し、基本的なデータベース管理機能について学ぶ授業であり、基礎的な授業です。

内容

Excel でのデータベース管理を学んだあと、Access を使い簡単なデータベースを作成する。作成したデータベースでデータ管理システムの技術的な工夫について実際に確認しながら、実習と平行して講義を進める。

1	データベースとは
2	Excelでのデータベース管理とリレーショナルデータベースについて
3	Access によるデータベースの作成演習 (テーブルの作成)
4	Access によるデータベースの作成演習 (複数テーブルの作成)
5	Access によるデータベースの作成演習 (クエリ処理)
6	Access によるデータベースの作成演習 (クエリ処理)
7	Access によるデータベースの作成演習 (フォーム、レポートの作成)
8	Access の総合演習課題
9	リレーショナル代数 (和演算、差演算、積演算、商演算)
10	リレーショナル代数 (選択演算、射影演算、結合演算)
11	DBMS (正規化)
12	DBMS (整合性)
13	DBMS (排他制御)
14	DBMS (障害回復)
15	まとめ

評価

授業に対する意欲・関心・評態度と授業中に出す演習課題 (40点) と総合課題 (30点) とテストまたはレポート (30点) の成績で評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 教科書の授業で行うところを簡単に読み、次回行うことは何なのか把握しておく

【事後学修】 授業で行ったことで、新しく出てきた項目について復習する。総合演習で、これらの応用問題が出てくるので、その時、教科書のどこを見直したらよいかわかるようにしておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 授業の最初に指定する

科目名	マクロ言語		
担当教員名	泉 直子		
ナンバリング	KHf247		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は生活情報学科 情報コースの IT活用 分野の専門科目である。表計算ソフトを使う時に有効なマクロ機能及びマクロ利用の考え方を習得する

表計算ソフトのマクロとして、プログラミング技術を利用した汎用性の高いマクロとして、VBA(Visual Basic for Applications)を学ぶことにより、頻繁に使う機能を表計算ソフトに登録し、必要な時にそれを呼び出し実行できるマクロ機能について理解する。VBAの実習問題に取り組むことにより、初心者がプログラミング言語の基礎的な構文、文法に慣れることができる。

VBEを使いVBAのマクロ言語を編集することができる。

記録マクロに登録することができる。

イベント駆動型のプログラミング言語の考え方を理解し、さまざまなコントロールマクロに登録することができる。

内容	
1	表計算ソフト Excelの復習 関数テクニック 1
2	表計算ソフト Excel の復習 関数テクニック 2
3	VBAの基礎
4	マクロの記録と修正 (マクロボタン作成、セルの色分け)
5	繰り返しによる自動化と抽出条件の記述 1
6	繰り返しによる自動化と抽出条件の記述 2
7	応用問題 演習
8	コマンドボタン、スピントーン、ラベル、テキストボックス、の作成
9	チェックボックス、リストボックス、コンボボックス、スクロールバー、とグルボタンの作成
10	さまざまなコントロールマクロの応用演習 1
11	コントロールを利用したマクロ 1
12	コントロールを利用したマクロ 2
13	総合問題 システムの作成
14	総合問題 システムの作成
15	まとめ

評価

平常授業の態度の評価30点と各回の提出物の評価70点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 教科書の次回行うところを簡単に読み、次回的话题を把握しておく。

【事後学修】 毎回出される課題を仕上げるとともに、新しい話題は何なのか把握し、教科書のどこに書いてあるかを把握する。応用問題を行うときに、自分で教科書を見て解くことができるようにしておくことにより、その時に学習内容を定着させることができる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】30時間でマスター Excel2007VBA 実教出版

科目名	アルゴリズムとデータ構造		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング	KHf348		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

プログラミング技術を活かすためのデータ構造とアルゴリズムについて学ぶ。

科目の概要

リスト構造や木構造等の基本的なデータ構造や、条件判定・分岐や繰り返し等のアルゴリズムの基礎、データの探索、整列等の代表的なアルゴリズムについて学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 処理目的に合わせて適切なデータ構造を考えることができる
- ・ 処理目的に合わせて手順を論理的に設計することができる
- ・ 処理目的を正しく実現できるプログラムを効率よく作成できる

内容

1	アルゴリズムとデータ構造の概要
2	データ構造 (1) 配列、スタックとキュー、リスト構造
3	データ構造 (2) 木構造
4	アルゴリズムの基礎：基本的な制御構造、フローチャート、トレース
5	再帰アルゴリズム
6	演習
7	探索アルゴリズム (1) 線形探索
8	探索アルゴリズム (2) 2分探索、ハッシュ法
9	整列アルゴリズム (1) バブルソート
10	整列アルゴリズム (2) 選択ソート、挿入ソート
11	整列アルゴリズム (3) ヒープソート
12	整列アルゴリズム (4) クイックソート
13	演習
14	いろいろなアルゴリズム、まとめ
15	総合演習

評価

以下のふたつの評価方法のうち、高得点の方を総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

- ・ 演習 : 25% + 演習 : 25% + 総合演習 : 50%
- ・ 総合演習 : 100%

【フィードバック】演習は翌週以降の授業で返却・解説する。

授業外学習

【事前準備】授業資料をダウンロードし、目を通しておく。

【事後学修】講義内容を復習し、理解を深めるとともに疑問点を解消しておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

テキストは使用せず、毎回プリントを配布する。

講義で使用する配布資料・説明資料は総合教育システムで提供する。

科目名	データベース応用		
担当教員名	泉 直子		
ナンバリング	KHf346		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

データベース基礎に続く授業であり、データベースに関する一連の授業でネットワークの普及とともに身近になってきているデータベースについて学びます。

情報システムを構成する主要な技術にデータベース管理システムがある。この授業では、実際にデータベースにデータを入力したり、検索したりするためのデータベースプログラミングについて実習を中心に行う。

データベース管理にはSQLという言語を利用し、SQLの学習とともに、ネットワークを介したデータベースについての操作についても学ぶ。

SQL言語を通して、データベースプログラミングの基礎を理解する。

内容

1	データベースとは
2	リレーショナルデータベースの復習
3	リレーショナルデータベースとSQL言語の基礎
4	クエリーの基本操作
5	いろいろな関数 1
6	いろいろな関数 2
7	テーブル作成の基本操作
8	まとめ 1 応用課題
9	複雑なクエリーの操作 1
10	複雑なクエリーの操作 2
11	データを守る仕組み 1
12	データを守る仕組み 2
13	応用課題
14	応用課題
15	まとめ 2

評価

毎回の授業の課題50%とまとめの課題50%で評価し、60%以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書の次回行うところを簡単に読み、次回の話題は何なのか把握しておく

【事後学修】毎回出される課題を仕上げるとともに、新しく出てきた項目についてどこを見ればわかるか把握しておく。応用課題を行うときに、自分で教科書を見ながら行えるようにしておく。応用課題をしているときに、授業で行ってきたことが身につくようになる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する

科目名	データベースプログラミング		
担当教員名	泉 直子		
ナンバリング	KHf349		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

データベース基礎、応用に続く内容であり、ネットワークを介したデータ処理システムを理解することを目標とする。「マクロ言語」で、マクロ言語を通してプログラミング言語の基礎的なことを理解し、「データベース基礎、応用」でデータベースの基礎的なことを理解していれば理解できるように授業を進める。基本的には授業内で言語、ホームページ関連の必要な知識は説明し、進めていく。しかしながら、「データベース基礎、応用」、「ホームページ関連の授業」を受講しているとさらに理解しやすい。

実社会で使われているシステムに即し、実用的なシステムの構築を学ぶ。今までに学んできたプログラミング言語、HTML、SQL言語を総合的に利用し、ホームページでのデータ操作について学ぶ授業である。

ホームページから入力されたデータをファイルやデータベースにデータ登録し、それらのデータを検索するシステムを開発し、ネットワークを介したデータ処理の仕組みを理解することを目標とする。

内容	
1	オリエンテーション (ネットワークを介したデータ処理について)
2	PHP開発環境について
3	変数、簡単な関数 (文字列関数、日付関数)
4	条件分岐 繰り返し構文 1
5	条件分岐、繰り返し構文 2
6	配列操作
7	フォームとメール操作 1
8	フォームとメール操作 2
9	アンケートフォームとファイル作成 1
10	アンケートフォームとファイル作成 2
11	データベースとSQL操作
12	WebでのSQL言語によるデータベース操作 1
13	WebでのSQL言語によるデータベース操作 2
14	課題 データベースシステム作成 1
15	課題 データベースシステム作成 2

評価

平常授業の態度の評価30点と各回の提出物の評価70点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書の次回行うところを簡単に読み、次回の話題は何なのか把握しておく。

【事後学修】毎回出される課題を仕上げるとともに、教科書を読み直すことを進める。特に、この教科書はとても理解しやすく書いてある。授業では教科書に沿って、ポイントだけを説明し進めるので、読み直し、応用課題は自分で教科書を見な

がらとけるようにしておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は授業の最初に提示する

科目名	IT活用		
担当教員名	栗原 隆史		
ナンバリング	KHf250		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

今日の社会人にとって必要不可欠なITに関する知識と企業活動の基礎的理解を深める。

科目の概要

「ITパスポート」取得を念頭に置き、その内容の学習と理解、応用力の育成を目指す。

学修目標 (= 到達目標)

講義の内容理解と練習問題の解答を繰り返し行うことで、「ITパスポート」資格の合格を目指す。

内容	
1	ITパスポートとは
2	コンピュータの基礎理論 1
3	コンピュータの基礎理論 2
4	コンピュータの基礎 1
5	コンピュータの基礎 2
6	IT技術 1
7	IT技術 2
8	企業とは
9	経営とは
10	システムアプローチ
11	システム開発技法 1
12	システム開発技法 2
13	システム運用
14	練習問題
15	まとめ

評価

中間テスト (30%) と期末テスト (50%)、および授業への取り組み姿勢 (20%) を総合評価し、60%以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】次回内容を予習し、内容を把握しておく。

【事後学修】学習内容を復習し、理解を確実なものにしておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】滝口直樹 文系女子のためのITパスポート合格テキスト&問題集

科目名	インターネット		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHg251		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターネットを安心・安全に利用するにあたり、最低限必要な知識として技術的背景、仕組みの理解、モラルを身につける。具体的には、インターネットの概要、スマートフォンやパソコンなどの情報機器の仕組みを理解し、操作できる。SNS、Webやメールを活用することができる。メディアリテラシーやインターネット利用にともなうリスクを知り、必要な情報セキュリティ対策をとることができる。インターネットにおける知的財産権、特定商取引法や個人情報保護法などインターネット利用に関連する法律を理解している。

科目の概要

インターネットの利用、情報機器の使いこなし、インターネット利用のための技術とモラル、インターネットをとりまく法律について学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

本授業の内容を理解することにより、インターネットを安心・安全に利用するにあたり、最低限必要な知識として技術的背景、仕組みの理解、モラルを身につけることができる。授業中に問題を解くことにより、学んだ知識を実生活での場面に応用できるようになる。

内容

1	インターネットとは、インターネットを利用する身近なサービス
2	SNS, 情報機器の種類
3	情報機器の仕組み
4	ソフトウェア (OS, アプリケーションソフト)
5	情報機器の機能と操作
6	フォルダやファイルの操作, 圧縮, トラブル対処
7	インターネットの仕組み, 無線LAN
8	Webブラウザの利用
9	電子メールの仕組み
10	メールソフトの設定, メール作成と送信
11	インターネット社会と情報システム
12	インターネット社会のルール
13	インターネット上の迷惑行為や犯罪
14	インターネットをとりまく法律
15	まとめ

評価

課題40点，試験60点の合計点が60点以上を合格とする．

課題へのフィードバックは，課題提出サーバを通して行う．試験結果は返却する．

授業外学習

【事前準備】教科書の該当箇所を読んでくる．

【事後学修】授業で学んだ内容，授業中に解いた問題について復習する．

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】NTTコミュニケーションズ 「インターネット検定 公式テキスト 第3版 .com Master BASIC」

科目名	インターネット		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHg251		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターネットを安心・安全に利用するにあたり, 最低限必要な知識として技術的背景, 仕組みの理解, モラルを身につける. 具体的には, インターネットの概要, スマートフォンやパソコンなどの情報機器の仕組みを理解し, 操作できる. SNS, Webやメールを活用することができる. メディアリテラシーやインターネット利用にともなうリスクを知り, 必要な情報セキュリティ対策をとることができる. インターネットにおける知的財産権, 特定商取引法や個人情報保護法などインターネット利用に関連する法律を理解している.

科目の概要

インターネットの利用, 情報機器の使いこなし, インターネット利用のための技術とモラル, インターネットをとりまく法律について学ぶ.

学修目標 (= 到達目標)

本授業の内容を理解することにより, インターネットを安心・安全に利用するにあたり, 最低限必要な知識として技術的背景, 仕組みの理解, モラルを身につけることができる. 授業中に問題を解くことにより, 学んだ知識を実生活での場面に応用できるようになる.

内容	
1	インターネットとは, インターネットを利用する身近なサービス
2	SNS, 情報機器の種類
3	情報機器の仕組み
4	ソフトウェア (OS, アプリケーションソフト)
5	情報機器の機能と操作
6	フォルダやファイルの操作, 圧縮, トラブル対処
7	インターネットの仕組み, 無線LAN
8	Webブラウザの利用
9	電子メールの仕組み
10	メールソフトの設定, メール作成と送信
11	インターネット社会と情報システム
12	インターネット社会のルール
13	インターネット上の迷惑行為や犯罪
14	インターネットをとりまく法律
15	まとめ

評価

課題40点，試験60点の合計点が60点以上を合格とする．

課題へのフィードバックは，課題提出サーバを通して行う．試験結果は返却する．

授業外学習

【事前準備】教科書の該当箇所を読んでくる．

【事後学修】授業で学んだ内容，授業中に解いた問題について復習する．

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】NTTコミュニケーションズ 「インターネット検定 公式テキスト 第3版 .com Master BASIC」

科目名	ネットワーク基礎		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHg352		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

インターネットの基盤技術であるTCP/IPネットワークに関する基礎的で技術的な知識を理解している。日常生活や社会に出たときに業務で利用するインターネットについて、技術的な理解に基づいた適切な利用ができる。

インターネットの接続技術を中心に学ぶ。具体的には、「インターネットの仕組みと関連技術」「インターネット接続の設定とトラブル対処」「Webブラウザとメールクライアントの設定と使いこなし」について学ぶ。

授業の内容を理解するとともに、理解を助けるために授業時間内および時間外に行う形式の問題を解くことにより、単位修得可能な知識を身につけることができる。同時期に開講する「ネットワーク設定」をいっしょに履修することにより、技術の理解を深めることができる。

内容

- 第1回：ネットワークとは
- 第2回：通信プロトコル，OSI参照モデル
- 第3回：IPアドレスとサブネットマスク
- 第4回：サブネット分割，ネットワークアドレス，ブロードキャストアドレス
- 第5回：ネットワーク層
- 第6回：トランスポート層
- 第7回：LANの技術，無線LAN
- 第8回：ルーティング
- 第9回：サーバ，WWW，DNS
- 第10回：アプリケーション関連技術 メール，HTTP，HTML
- 第11回：インターネット接続の技術 ファイアウォール，FTP，NTP
- 第12回：IPv6
- 第13回：インターネットへの接続
- 第14回：ブロードバンドルータ
- 第15回：まとめ

評価

複数回行う試験の結果を総合的に評価する。合格点は60点以上である。採点結果は返却する。

授業外学習

- 【事前予習】教科書を読んで予習を行う。
- 【事後学修】授業内容の復習を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：

「インターネット検定ドットコムマスター アドバンス公式テキスト」, NTTコミュニケーションズ . 3400円（税別） .

科目名	ネットワーク設定		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHg353		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

情報分野におけるネットワークについて、パソコンを接続し利用するための基礎的な知識と技術を演習を通して学ぶ。2年前期の「ネットワーク基礎」で学ぶ内容を、演習や実験を通して実際のネットワークでどのように使われているのかを理解する。「ネットワーク基礎」と同時履修するのが望ましい。

コンピュータをネットワークに接続して利用する際の手順と技術について理解する。ほぼ毎回、通信技術を理解するための実験を行う。

配付資料にしたがって設定と実験を行うことにより、TCP/IPネットワークの仕組みを基礎から理解することができる。15回のすべての授業において課題提出がある。

内容	
1	ネットワーク設定情報とネットワーク資源へのアクセス
2	ユーザ登録、コンピュータ名、IPアドレスの設定
3	ドメイン名の設定、NATとブリッジ
4	ファイル共有、IPアドレスに関する実験
5	デフォルトゲートウェイの役割
6	サブネットマスクの役割
7	リモートログインとポート番号
8	MACアドレスとルーティングテーブル
9	ICMP
10	名前解決の仕組み (ドメイン名とNetBIOS名の仕組み)
11	リモートデスクトップ接続とtelnet
12	LANアナライザ
13	非暗号通信と暗号通信
14	ファイル転送プロトコルftp
15	メールクライアントの設定、メールプロトコルSMTPとPOP

評価

毎回の演習課題を100点満点で評価し、すべての課題の得点の平均点が60点以上を合格とする。
課題へのフィードバックとして、課題提出サーバに採点結果を掲載する。

授業外学習

- 【事前予習】授業用サーバに掲載する授業資料を読んでおくと、内容をよく理解することができる。
- 【事後学修】課題で行ったことの意味を理解する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 教科書は使用しない。

科目名	ネットワーク設定		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHg353		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

情報分野におけるネットワークについて、パソコンを接続し利用するための基礎的な知識と技術を演習を通して学ぶ。2年前期の「ネットワーク基礎」で学ぶ内容を、演習や実験を通して実際のネットワークでどのように使われているのかを理解する。「ネットワーク基礎」と同時履修するのが望ましい。

コンピュータをネットワークに接続して利用する際の手順と技術について理解する。ほぼ毎回、通信技術を理解するための実験を行う。

配付資料にしたがって設定と実験を行うことにより、TCP/IPネットワークの仕組みを基礎から理解することができる。15回のすべての授業において課題提出がある。

内容	
1	ネットワーク設定情報とネットワーク資源へのアクセス
2	ユーザ登録、コンピュータ名、IPアドレスの設定
3	ドメイン名の設定、NATとブリッジ
4	ファイル共有、IPアドレスに関する実験
5	デフォルトゲートウェイの役割
6	サブネットマスクの役割
7	リモートログインとポート番号
8	MACアドレスとルーティングテーブル
9	ICMP
10	名前解決の仕組み (ドメイン名とNetBIOS名の仕組み)
11	リモートデスクトップ接続とtelnet
12	LANアナライザ
13	非暗号通信と暗号通信
14	ファイル転送プロトコルftp
15	メールクライアントの設定、メールプロトコルSMTPとPOP

評価

毎回の演習課題を100点満点で評価し、すべての課題の得点の平均点が60点以上を合格とする。
課題へのフィードバックとして、課題提出サーバに採点結果を掲載する。

授業外学習

- 【事前予習】授業用サーバに掲載する授業資料を読んでおくと、内容をよく理解することができる。
- 【事後学修】課題で行ったことの意味を理解する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 教科書は使用しない。

科目名	インターネットとセキュリティ		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHg354		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

情報分野におけるネットワークセキュリティについての基礎的な知識を理解し、実社会での生活や業務において安全にコンピュータやインターネットを使いこなすことができる。

情報セキュリティの3つの要素、すなわち、脅威、脅威に対抗するための基盤技術である暗号技術と公開鍵暗号基盤、脅威からネットワークや通信を守るための対策技術について学ぶ。

インターネットを安全に利用し、インターネット利用に関する法律やプライバシーを正しく理解している。具体的には、情報セキュリティの考え方、脅威の種類と内容、暗号技術と使い方、セキュリティ対策技術、セキュリティに関する標準化動向と法律を理解している。

内容

- 第1回：セキュリティとは何か
- 第2回：暗号技術とPKI(1) 共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式
- 第3回：暗号技術とPKI(2) ハッシュ関数，電子署名，PKI
- 第4回：暗号技術とPKI(3) セキュリティプロトコル
- 第5回：PC利用時の脅威とその対策
- 第6回：LAN利用時の脅威とその対策
- 第7回：インターネット利用時の脅威とその対策(1) 脅威の種類
- 第8回：インターネット利用時の脅威とその対策(2) Web
- 第9回：インターネット利用時の脅威とその対策(3) メール
- 第10回：インターネット上のサービス
- 第11回：情報交換や発信に関する知識 SNS，ブログ
- 第12回：インターネット利用に関するマナー Web，メール，オンラインショップ
- 第13回：インターネットに関する知識と法律 プライバシ，通信関連法，著作権，
- 第14回：インターネットとセキュリティに関する問題演習
- 第15回：まとめ

評価

複数回行う試験の総合点で評価する。60点以上を合格とする。採点結果は返却する。

授業外学習

- 【事前予習】教科書の予習を行う。
- 【事後学修】教科書の復習を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

インターネット検定ドットコムマスタ アドバンス 公式テキスト NTTコミュニケーションズ 税抜3400円

科目名	サーバ設定		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHg355		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

情報分野におけるネットワークに関する専門知識を演習を通して学ぶ。本科目では、代表的なオペレーティングシステムの一つであるLinux (UNIX系OS) について、その機能・操作方法を理解し、使いこなすことができる。応用として、サーバ設定を行うことができる。Linuxの操作は、ほとんどすべてがテキストによるコマンド操作である。サーバ設定は、一般利用者が行うことは前提としておらず、マウスとウィンドウ操作で可能なことは少ない。将来ソフトウェア開発に携わる場合、サーバとして使われることが多いLinuxを操作できることが役に立つ。

科目の概要

Linuxの特徴、ディレクトリ・ファイル操作等の基本コマンド、便利な機能、もっとも身近でよく利用されているWebサーバ、メールサーバの構築を行う。

学修目標

演習を通して、コマンドによる基本操作、サーバ構築の基本概念を理解できるようになることを目指す。授業が進むにつれて、それまでに学んだことを使いこなすことが必要となる。毎回の授業において課題提出がある。OSの仕組みやサーバ管理の仕組みの理解が深められる。

内容	
1	UNIX (Linux) の概要, ディレクトリ構造, MS-DOSコマンド
2	ログイン・ログアウト, パスワード設定, ユーザ・グループ管理
3	ディレクトリ・ファイルの操作
4	アクセス権
5	viエディタによるファイルの編集
6	ファイルの内容表示
7	リダイレクト・パイプ処理, テキストの並べ替え・検索
8	コマンドの履歴, エイリアス
9	Linuxにおけるネットワーク管理
10	ftpサーバを例にしたLinuxにおけるサーバ管理
11	SSL/TLSを使ったftpの暗号化
12	Webサーバ構築
13	Webサーバのセキュリティ強化 認証と暗号化
14	メールサーバ構築 SMTP, POP3, IMAP
15	メールクライアントを使ったメールの送受信

評価

毎回の演習課題を100点満点で評価し、全課題の平均点が60点以上を合格とする。
課題へのフィードバックとして、課題提出サーバに採点結果を掲載する。

授業外学習

- 【事前予習】前の回までに学んだコマンド等を自分で使えるようにする。
- 【事後学修】コマンドやサーバ構築法について、応用することができるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】使わない。

科目名	ハードウェア概論		
担当教員名	栗原 隆史		
ナンバリング	KHh256		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

コンピュータのハードウェアと多様な周辺装置の基礎的知識を学ぶことにより、今後のコンピュータ 学習への基礎的な能力を育成します。

これからの社会生活に必要なコンピュータの基礎的な仕組みを知り、自分の目的に合ったコン ピュータ活用ができるようにしていきます。

1. コンピュータの基本的な構成要素を理解する。
2. コンピュータ動作の原理を理解する。
3. 主要な装置と周辺機器のしくみを理解する。
4. コンピュータのメンテナンスを自らの手で行える力を身につける。

内容

1	コンピュータの概要とハードウェア
2	コンピュータ発展の歴史
3	コンピュータ各部の名称と働き
4	C P U 1 (動作原理、クロック、命令の流れ)
5	C P U 2 (高速化技術、パイプラインとスーパースケラ)
6	メモリ 1 (メモリの種類)
7	メモリ 2 (メモリの特徴)
8	入力装置 (キーボード、マウス等)
9	補助記憶装置 1 (ハードディスク、フロッピーディスクの動作)
10	補助記憶装置 2 (C D - R O M、M O)
11	補助記憶装置 3 (U S B メモリ等)
12	出力装置 1 (C R T ディスプレイ、液晶ディスプレイ)
13	出力装置 2 (カラープリンタ、ページプリンタ等)
14	コンピュータのメンテナンス方法
15	まとめ

評価

授業での小テスト (30%) と筆記試験 (70%) により得点化を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 前回授業内容の確認

【事後学修】 今回授業の振り返り

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

科目名	CG演習		
担当教員名	栗原 隆史		
ナンバリング	KHh257		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

グラフィックスソフトウェアの基本となる科目であり、Webシステムの画面作成や画像、写真加工など今後の学習の元になっていきます。

今日の社会でコンピュータグラフィックス (CG) 技術は、印刷・出版業界だけでなくあらゆる分野で活用されており、CG技術は不可欠なものとなっています。

この科目では、2次元でのデジタル画像の作成と加工、編集等について学びます。この演習を通じて、ラスター画像とベクトル画像の差異と特徴について学び、目的に合致したCG作成方法やCG合成などに関するグラフィックス技術の基礎を習得することが学修目標となります。

内容	
1	2次元コンピュータグラフィックスとは
2	自由曲線と基本図形の描画
3	ベジェ曲線
4	図形の変形・編集
5	文字に関するデザイン機能
6	ブレンド、クリッピングマスク、複合パス機能
7	精密な描画1 (グリッドとガイドの利用)
8	精密な描画2 (ビットマップ画像の利用)
9	画像のトレースとイラスト作成
10	ビットマップ画像の選択範囲作成
11	ビットマップ画像の切り抜きと合成
12	ビットマップ画像の調整機能 (色調補正・フィルターなど)
13	ウェブページデザインワークフロー1
14	ウェブページデザインワークフロー2
15	まとめ、ビットマップ画像総合課題

評価

各授業ごと提出課題の合計点を80%、平常点を20%として総合評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前回授業内容の確認

【事後学修】課題作成と提出

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定しない。必要に応じてファイルを配布する。

科目名	CG演習		
担当教員名	栗原 隆史		
ナンバリング	KHh257		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

グラフィックスソフトウェアの基本となる科目であり、Webシステムの画面作成や画像、写真加工など今後の学習の元になっていきます。

今日の社会でコンピュータグラフィックス (CG) 技術は、印刷・出版業界だけでなくあらゆる分野で活用されており、CG技術は不可欠なものとなっています。

この科目では、2次元でのデジタル画像の作成と加工、編集等について学びます。この演習を通じて、ラスター画像とベクトル画像の差異と特徴について学び、目的に合致したCG作成方法やCG合成などに関するグラフィックス技術の基礎を習得することが学修目標となります。

内容	
1	2次元コンピュータグラフィックスとは
2	自由曲線と基本図形の描画
3	ベジェ曲線
4	図形の変形・編集
5	文字に関するデザイン機能
6	ブレンド、クリッピングマスク、複合パス機能
7	精密な描画1 (グリッドとガイドの利用)
8	精密な描画2 (ビットマップ画像の利用)
9	画像のトレースとイラスト作成
10	ビットマップ画像の選択範囲作成
11	ビットマップ画像の切り抜きと合成
12	ビットマップ画像の調整機能 (色調補正・フィルターなど)
13	ウェブページデザインワークフロー1
14	ウェブページデザインワークフロー2
15	まとめ、ビットマップ画像総合課題

評価

各授業ごと提出課題の合計点を80%、平常点を20%として総合評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前回授業内容の確認

【事後学修】課題作成と提出

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定しない。必要に応じてファイルを配布する。

科目名	Webページ作成		
担当教員名	泉 直子		
ナンバリング	KHh258		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、生活情報学科の情報コース専門科目であり、情報コース必須科目である。Webページ作成の基本的な技術と理論を学ぶ。本科目履修後、2年次後期科目の「Webページとスクリプト」を履修することにより、さらに理解を深めることができる。

科目の概要

インターネットを利用することが当たり前の時代となってきた、Webページを用いた情報発信も拡大の一途をたどっている。Webサイトの役割も、情報発信から、電子商取引、ネットショッピングなど情報発信だけではなく多彩なサービスを期待されている。本授業では、WebページやWebサイト作成の基本的な技術と理論を学び、Webページ作成ができることを目的とする。

学修目標 (= 到達目標)

WebページやWebサイト作成の基本的な技術と理論を理解する。

HTML言語を理解し、HTML言語でWebページを作成することができる。

内容	
1	オリエンテーション、授業の進め方、Webページの動作と仕組み
2	Webページ制作の基本
3	HTMLの基本、画像表示
4	HTMLの基本、ハイパーリンクの設定
5	応用問題 1
6	HTMLの基本 テーブル作成 1
7	HTMLの基本 テーブル作成 2
8	HTMLの基本 フレームデザイン
9	応用問題 2
10	スタイルシートの利用 1
11	スタイルシートの利用 2
12	アンケートフォームの作成
13	応用問題 3
14	総合問題
15	まとめ

評価

各回の課題の評価を50点、授業への参加度20点、総合課題30点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】教科書に目を通し、学習内容を把握し、問題点を列挙し、授業中に理解するよう努める。

【事後学修】授業中の課題を完成し、学習内容を身に付ける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】最初の授業で指定する。

科目名	Webページ作成		
担当教員名	泉 直子		
ナンバリング	KHh258		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、生活情報学科の情報コース専門科目であり、情報コース必須科目である。Webページ作成の基本的な技術と理論を学ぶ。本科目履修後、2年次後期科目の「Webページとスクリプト」を履修することにより、さらに理解を深めることができる。

科目の概要

インターネットを利用することが当たり前の時代となってきた、Webページを用いた情報発信も拡大の一途をたどっている。Webサイトの役割も、情報発信から、電子商取引、ネットショッピングなど情報発信だけではなく多彩なサービスを期待されている。本授業では、WebページやWebサイト作成の基本的な技術と理論を学び、Webページ作成ができることを目的とする。

学修目標 (= 到達目標)

WebページやWebサイト作成の基本的な技術と理論を理解する。

HTML言語を理解し、HTML言語でWebページを作成することができる。

内容	
1	オリエンテーション、授業の進め方、Webページの動作と仕組み
2	Webページ制作の基本
3	HTMLの基本、画像表示
4	HTMLの基本、ハイパーリンクの設定
5	応用問題 1
6	HTMLの基本 テーブル作成 1
7	HTMLの基本 テーブル作成 2
8	HTMLの基本 フレームデザイン
9	応用問題 2
10	スタイルシートの利用 1
11	スタイルシートの利用 2
12	アンケートフォームの作成
13	応用問題 3
14	総合問題
15	まとめ

評価

各回の課題の評価を50点、授業への参加度20点、総合課題30点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】教科書に目を通し、学習内容を把握し、問題点を列挙し、授業中に理解するよう努める。

【事後学修】授業中の課題を完成し、学習内容を身に付ける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】最初の授業で指定する。

科目名	Webページとスクリプト		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHh359		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格： 情報伝達手段やインタフェース技術として広く使われるWebページの作成技術，特に動きのあるWebページの作成技術を身につけることにより，実社会での生活や業務において，目的に合ったWebページを作成することができる

科目の概要： JavaScriptと高度な機能を簡単に使えるようにしたライブラリであるjQueryの二つを中心に学ぶ。JavaScript，jQueryともに，プログラミングの素養が必要である。HTML，CSSについて，他人の作ったものを理解，編集できることが前提となる。なお，JavaScriptの名称にJavaが含まれるが，プログラミング言語のJavaとは異なるプログラミング言語である。

学修目標： 授業では基本的な内容について説明し，演習問題を学生が解く形式で進める。課題を毎回出題する。課題を自身で解くことにより，動きのあるWebページ作成技術を実践的に身につけることができる。15回のすべての授業において課題提出がある。提出された課題により，成績評価を行う。

内容	
1	オリエンテーション，環境準備，簡単なJavaScriptプログラムの作成
2	アラートボックス，確認ボックス - if
3	確認ボックス - 変数，四則演算
4	比較演算子，論理演算子
5	while
6	for，配列
7	連想配列，イベント
8	ID属性，if else，switch
9	関数，オブジェクト
10	Firebug，JavaScriptのオブジェクト指向
11	jQuery，クリックすると開くツールボックス
12	開閉できるツールボックス
13	ボタンをロールオーバーする
14	拡大画像をポップアップ表示する
15	複数画像のポップアップ，フォームの入力チェック

評価

毎回の演習課題を100点満点で評価し，すべての課題の得点の平均点が60点以上を合格とする。

課題へのフィードバックとして，課題提出サーバに採点結果を掲載する。

授業外学習

【事前予習】教科書を事前に読み、必要な前提知識を復習しておくことで授業内容をよく理解することができる。

【事後学修】授業で行った課題で使った方法、内容をよく復習することが大事である。授業内容がプログラミングであるので、後になるほどそれまでに学習した内容を理解していることが前提となる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 使用しない。

科目名	3 D C G		
担当教員名	栗原 隆史		
ナンバリング	KHh360		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

今日のコンピュータ利用分野でコンピュータグラフィックスは大きな割合を占めている。この科目では3Dグラフィックスの作成、加工、編集等について学ぶ。立体のモデリング、質感の設定、ライティング、レンダリングなど3Dグラフィックス作成の流れを習得していく。また、アニメーション作成についても取り扱う。

内容

演習形式で以下に示すテーマについて進めて行く。

1. 3次元グラフィックスとは
2. 基本図形の作成
3. ベジェ曲線の操作
4. 立体化技法の操作 1
5. 立体化技法の操作 2
6. 立体化技法の操作 3
7. 立体の変形と合成
8. 質感設定とマッピング技法
9. ライティング
10. カメラワーク
11. レンダリング
12. アニメーション作成
13. アニメーション作成
14. その他のアニメーション技法 (カメラオブジェクト)
15. その他のアニメーション技法 (インパースキネマティックス)

評価

提出課題 (80%) と授業への取り組み姿勢 (20%) により得点化を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

前回の内容を復習し、授業ごとの課題を期限内に提出する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

科目名	3 D C G		
担当教員名	栗原 隆史		
ナンバリング	KHh360		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

今日のコンピュータ利用分野でコンピュータグラフィックスは大きな割合を占めている。この科目では3Dグラフィックスの作成、加工、編集等について学ぶ。立体のモデリング、質感の設定、ライティング、レンダリングなど3Dグラフィックス作成の流れを習得していく。また、アニメーション作成についても取り扱う。

内容

演習形式で以下に示すテーマについて進めて行く。

1. 3次元グラフィックスとは
2. 基本図形の作成
3. ベジェ曲線の操作
4. 立体化技法の操作 1
5. 立体化技法の操作 2
6. 立体化技法の操作 3
7. 立体の変形と合成
8. 質感設定とマッピング技法
9. ライティング
10. カメラワーク
11. レンダリング
12. アニメーション作成
13. アニメーション作成
14. その他のアニメーション技法 (カメラオブジェクト)
15. その他のアニメーション技法 (インバースキネマティックス)

評価

提出課題 (80%) と授業への取り組み姿勢 (20%) により得点化を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

前回の内容を復習し、授業ごとの課題を期限内に提出する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

科目名	プログラミング基礎		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング	KHi261		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

情報システムの構築・管理・運用またはこれを活用するための知識・技術を獲得するため、プログラミングだけでなくアルゴリズム構築を必要とする科目の基礎となる科目である。

プログラム言語としてJavaを使用する科目の基礎となる科目であり、順次構造、選択構造、反復構造の基本構造のフローチャートとプログラムを学ぶ。フローチャートの復習・作成から始め、フローチャート作成後にプログラム作成を行い基本構造の理解を深める。

出題問題提示 講義 例題 学生同士の問題を出し合い教え合う 類題作成を繰り返す過程に積極的に参加し毎回の授業で理解を深め、フローチャート作成とプログラム基本構造の理解を到達目標とする。

内容

1	オリエンテーション
2	処理のシナリオを考える
3	シナリオ (分岐、繰り返し)
4	シナリオからフローチャート作成
5	プログラミング環境設定、コンパイル・実行から課題提出方法
6	プログラム作成と画面表示
7	int型変数の宣言と連結表示
8	変数 (実数型、文字型、文字列型) と計算
9	キーボード入力と計算の応用
10	if文 (if-else、if-else if-else)
11	if文の応用 (論理演算とネスト)
12	while文、繰り返しフローチャート
13	do-while文、for文 (繰り返し構文) フローチャート
14	配列とfor文
15	まとめ

評価

課題点 80% 平常点 20% とし、総合評価 60 点以上を合格とする。

【フィードバック】 課題の解答・質疑を次回最初に行い、理解を確かなものにする。

授業外学習

【事前予習】 授業開始時に前回授業で使用した例題を作成・提出してもらうことがあるので復習して作成できるようにして

おく。

【事後学修】毎回出題するフローチャート・プログラミング課題を次週までに提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書 著者：柴田 望洋 書名：新・明解Java 入門編 出版社名：SoftBankCreative

推薦書 著者：柴田 望洋、由梨 かおる 書名：新・解きながら学ぶJava 入門編 出版社名：SoftBankCreative

詳細については、オリエンテーションで指示する。

科目名	プログラミング基礎		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング	KHi261		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

情報システムの構築・管理・運用またはこれを活用するための知識・技術を獲得するため、プログラミングだけでなくアルゴリズム構築を必要とする科目の基礎となる科目である。

プログラム言語としてJavaを使用する科目の基礎となる科目であり、順次構造、選択構造、反復構造の基本構造のフローチャートとプログラムを学ぶ。フローチャートの復習・作成から始め、フローチャート作成後にプログラム作成を行い基本構造の理解を深める。

出題問題提示 講義 例題 学生同士の問題を出し合い教え合う 類題作成を繰り返す過程に積極的に参加し毎回の授業で理解を深め、フローチャート作成とプログラム基本構造の理解を到達目標とする。

内容	
1	オリエンテーション
2	処理のシナリオを考える
3	シナリオ (分岐、繰り返し)
4	シナリオからフローチャート作成
5	プログラミング環境設定、コンパイル・実行から課題提出方法
6	プログラム作成と画面表示
7	int型変数の宣言と連結表示
8	変数 (実数型、文字型、文字列型) と計算
9	キーボード入力と計算の応用
10	if文 (if-else、if-else if-else)
11	if文の応用 (論理演算とネスト)
12	while文、繰り返しフローチャート
13	do-while文、for文 (繰り返し構文) フローチャート
14	配列とfor文
15	まとめ

評価

課題点80% 平常点20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】 課題の解答・質疑を次回最初に行い、理解を確かなものにする。

授業外学習

【事前予習】 授業開始時に前回授業で使用した例題を作成・提出してもらうことがあるので復習して作成できるようにしておく。

【事後学修】毎回出題するフローチャート・プログラミング課題を次週までに提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書 著者：柴田 望洋 書名：新・明解Java 入門編 出版社名：SoftBankCreative

推薦書 著者：柴田 望洋、由梨 かおる 書名：新・解きながら学ぶJava 入門編 出版社名：SoftBankCreative

詳細については、オリエンテーションで指示する。

科目名	プログラミング応用		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング	KHi361		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は情報システムの構築・管理・運用またはこれを活用するための知識・技術を獲得するためプログラミング関連科目の基礎に続く応用として位置づけられ、基礎的なプログラミングで学んだ基本構文をベースに、より複雑な処理のプログラミングについて学ぶ。

科目の概要

目的に応じて必要な処理の流れを考え、入出力・演算・条件分岐・反復の基本構文を用いてプログラミングする力に加えメソッド・クラスの基本を課題演習の繰り返しにより養う。

学修目標 (= 到達目標)

出題問題提示 講義 例題 学生同士の問題を出し合い教え合う 類題作成を繰り返す過程に積極的に参加し毎回の授業で理解を深め、必要な処理の流れを考えてプログラミングする力の修得を到達目標とする。

内容

1	オリエンテーション
2	Eclipse、計算、入出力復習
3	基本構文 (if文、else if)、ネスト、論理演算、String比較の復習
4	基本構文 (for文、while文、do-while文)
5	配列復習
6	復習まとめ
7	final変数、条件演算子、switch文、前置 後置、break文
8	for文多重ループ、多次元配列
9	メソッドの基本・メソッドの引数
10	メソッドの返却値・多重定義
11	メソッドの引数が配列・返却値が配列
12	メソッドまとめ
13	クラス基礎
14	クラス練習、コンストラクタ
15	クラスまとめ

評価

課題点 80% 平常点 20% とし、総合評価 60 点以上を合格とする。

【フィードバック】 課題の解答・質疑を次回最初に行い、理解を確かなものにする。

授業外学習

【事前準備】前提となる授業で学んだ関連内容を事前に確認しておく。

【事後学修】毎回出題するフローチャート・プログラミング課題を次週までに提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】著者：柴田 望洋 書名：新・明解Java 入門編 出版社名：SoftBankCreative

【推薦書】著者：柴田 望洋、由梨 かおる 書名：新・解きながら学ぶJava 入門編 出版社名：SoftBankCreative

詳細については、オリエンテーションで指示する。

科目名	プログラミング応用		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング	KHi361		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は情報システムの構築・管理・運用またはこれを活用するための知識・技術を獲得するためプログラミング関連科目の基礎に続く応用として位置づけられ、基礎的なプログラミングで学んだ基本構文をベースに、より複雑な処理のプログラミングについて学ぶ。

科目の概要

目的に応じて必要な処理の流れを考え、入出力・演算・条件分岐・反復の基本構文を用いてプログラミングする力に加えメソッド・クラスの基本を課題演習の繰り返しにより養う。

学修目標 (= 到達目標)

出題問題提示 講義 例題 学生同士の問題を出し合い教え合う 類題作成を繰り返す過程に積極的に参加し毎回の授業で理解を深め、必要な処理の流れを考えてプログラミングする力の修得を到達目標とする。

内容

1	オリエンテーション
2	Eclipse、計算、入出力復習
3	基本構文 (if文、else if)、ネスト、論理演算、String比較の復習
4	基本構文 (for文、while文、do-while文)
5	配列復習
6	復習まとめ
7	final変数、条件演算子、switch文、前置 後置、break文
8	for文多重ループ、多次元配列
9	メソッドの基本・メソッドの引数
10	メソッドの返却値・多重定義
11	メソッドの引数が配列・返却値が配列
12	メソッドまとめ
13	クラス基礎
14	クラス練習、コンストラクタ
15	クラスまとめ

評価

課題点 80% 平常点 20% とし、総合評価 60 点以上を合格とする。

【フィードバック】 課題の解答・質疑を次回最初に行い、理解を確かなものにする。

授業外学習

【事前準備】前提となる授業で学んだ関連内容を事前に確認しておく。

【事後学修】毎回出題するフローチャート・プログラミング課題を次週までに提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】著者：柴田 望洋 書名：新・明解Java 入門編 出版社名：SoftBankCreative

【推薦書】著者：柴田 望洋、由梨 かおる 書名：新・解きながら学ぶJava 入門編 出版社名：SoftBankCreative

詳細については、オリエンテーションで指示する。

科目名	オブジェクト指向プログラミング		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング	KHi362		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

情報システムの構築・管理・運用またはこれを活用するための知識・技術を獲得するため、これまで学んできたJava言語科目プログラミング基礎、プログラミング応用に続く科目である。本科目は単なるプログラム言語の学習から、システム開発を考えたプログラミングスキルの習得に入っていく。

科目の概要

本科目では、Java言語の最大の特徴であるオブジェクト指向プログラミングの書き方について学ぶ。前半は、これまでのJavaの復習を兼ねクラスの概念を学び、後半にオブジェクト指向について学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

出題問題提示 講義 例題 学生同士の問題を出し合い教え合う 類題作成を繰り返す過程に積極的に参加し毎回の授業でJavaの特徴であるオブジェクト指向プログラミングの書き方を理解し、よい (分かりやすく、再利用しやすく、修正が容易な) プログラムを作成できるようになることを到達目標とする。

内容	
1	オリエンテーション
2	for文・配列復習
3	多重ループ・多次元配列
4	メソッド復習、変数boolean型
5	配列を使うメソッドの復習
6	クラス復習
7	ゲッター・セッター・コンストラクタの復習
8	クラス型変数の代入・比較での注意点
9	クラス型変数とコンストラクタの注意点
10	クラスと配列、toStringメソッドとprintlnでの利用
11	クラスやクラス配列を含むクラス
12	クラス変数とクラスメソッド、クラスライブラリ
13	クラス利用まとめ
14	継承
15	多相性・多態性

評価

課題点 80% 平常点 20% とし、総合評価 60 点以上を合格とする。

【フィードバック】 課題の解答・質疑を次回最初に行い、理解を確かなものにする。

授業外学習

【事前準備】前提となる授業で学んだ関連内容を事前に確認しておく。

【事後学修】毎回出題するプログラミング課題等を次週までに提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】著者：柴田 望洋 書名：新・明解Java 入門編 出版社名：SoftBankCreative

【推薦書】著者：柴田 望洋、由梨 かおる 書名：新・解きながら学ぶJava 入門編 出版社名：SoftBankCreative

詳細については、オリエンテーションで指示する。

科目名	サーバサイドプログラミング		
担当教員名	栗原 隆史		
ナンバリング	KHi363		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目では、これまで学んできた内容を総合的に活用し、Webシステムの構築していく。

科目の概要

今日の業務システムの基本となるWebシステムの実際を学び、オブジェクト指向やデータベースとの連携の方法について理解を深める。

学修目標

Webシステムの作成方法と基本的なシステムの流れを学び、Webシステム構築の基礎力の修得を目指す。

内容	
1	Webシステムの概要と開発環境
2	JSPとは
3	JSPの作成と連携
4	値の受け渡し
5	サーブレットとは
6	サーブレット処理の実際
7	JSPとサーブレットの連携 (1)
8	JSPとサーブレットの連携 (2)
9	データベースの操作
10	データベース活用 (1)
11	データベース活用 (2)
12	Webシステムの作成 (1)
13	Webシステムの作成 (2)
14	Webシステムの作成 (3)
15	まとめ

評価

提出された課題(80%)と授業への取り組み(20%)により、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

授業で説明した内容を理解し、毎回出題する課題を期限までに提出する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

毎回用意されるプリントに従って授業を進める。

科目名	システムプログラミング基礎		
担当教員名	名児耶 厚		
ナンバリング	KHi264		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

情報システムの構築・管理・運用、またはそれを活用するための知識・技術を獲得するため、多くのシステムで使用され、現在も組み込みシステム等で多く使用されているC言語を学ぶ。

C言語はコンピュータの基本であるアドレスを直接操作可能な言語であり、コンピュータ内でのプログラムの動きを理解するのに適した言語と言える。本授業では、C言語利用の環境設定から始め、C言語での変数・配列の宣言を学ぶ。次にプログラミング基礎で学んだ基本構文の復習を行い、その上で、関数の作成、ポインタの利用、ファイル入出力を学んでいく。

問題提示 講義 例題 学生同士で問題を出し合い教え合う 類題作成を繰り返す、という過程に積極的に参加し毎回の授業で理解を深め、ポインタとファイル入出力の理解を到達目標とする。

内容

1	オリエンテーション
2	環境設定
3	変数、文字列の扱い
4	printf、scanfによる表示と入力
5	for文、配列
6	多重ループ、多次元配列
7	関数
8	前半まとめ
9	ライブラリ関数
10	ポインタ
11	引数のアドレス渡し
12	ポインタの戻り値
13	ファイル入出力
14	ファイル処理する関数
15	まとめ

評価

課題：60%、授業内実習・平常点：40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】 課題の解答説明を次回最初に行い、理解を確かなものにする。

授業外学習

【事前予習】 前回学んだことを使うことも多いため、これまでの内容を復習して理解しておく。

【事後学修】毎回出題するプログラミング課題を次週までに提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】著者：柴田 望洋、書名：新・明解C言語 入門編、出版社名：SoftBankCreative

【推薦書】著者：柴田 望洋、書名：新・明解C言語 ポインタ完全攻略、出版社名：SoftBankCreative

【参考図書】著者：柴田 望洋・由梨 かおる、書名：新・解きながら学ぶC言語、出版社名：SoftBankCreative

詳細については、オリエンテーションで指示する。

科目名	システムプログラミング応用		
担当教員名	名児耶 厚		
ナンバリング	KHi364		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

情報システムの構築・管理・運用またはこれを活用するための知識・技術を獲得するため、システムプログラミング基礎で学んだC言語の基礎をもとに、より高度なプログラムを学ぶ。

構造体の宣言、構造体の参照、構造体のポインタ利用、構造体の入れ子を学んでいく。更に、組み込みシステムでも良く利用されるビット演算として、基本的なビット演算・ビットシフト・マスクの使い方を学んでいく。

問題提示 講義 例題 学生同士で問題を出し合い教え合う 類題作成を繰り返す、という過程に積極的に参加し毎回の授業で理解を深め、構造体とビット操作の理解を到達目標とする。

内容	
1	オリエンテーション
2	ポインタ、ファイル入出力、構造体の復習
3	構造体
4	構造体のポインタ
5	メンバとしての構造体
6	ビット演算
7	ビット操作
8	マクロ
9	前半まとめ
10	再帰プログラム
11	ポインタポインタ
12	共用体
13	関数へのポインタ
14	メモリの動的確保、ヘッダファイル
15	まとめ

評価

課題：60%、授業内実習・平常点：40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】 課題の解答説明を次回最初に行い、理解を確かなものにする。

授業外学習

【事前予習】 前回学んだことを使うことも多いため、これまでの内容を復習して理解しておく。

【事後学修】 毎回出題するプログラミング課題を次週までに提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】著者：柴田 望洋、書名：新・明解C言語 入門編、出版社名：SoftBankCreative

【推薦書】著者：柴田 望洋、書名：新・明解C言語 ポインタ完全攻略、出版社名：SoftBankCreative

【参考図書】著者：柴田 望洋・由梨 かおる、書名：新・解きながら学ぶC言語、出版社名：SoftBankCreative

詳細については、オリエンテーションで指示する。

科目名	システム開発技法		
担当教員名	栗原 隆史		
ナンバリング	KHi365		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

プログラミング作業はシステムの開発の一部にすぎない。プログラミングの前には、要求分析、システム設計、プログラム設計の作業があり、さらに、プログラミングの後には、テストの作業がある。本科目では、システム開発の各作業について基礎的知識を習得する。

科目の概要

ソフトウェアシステムにはどのようなシステムがあるかについて学び、そのシステムを開発するためにはどのようなステップが必要であり、それぞれでどのような作業が行われているのかを学ぶ。また、そのための技法や、ドキュメント作成の必要性についても学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

システム開発を効率的に行うにはどのように作業をし、どのような成果物を作成するかを理解する。将来、IT企業やSEを目指すための基礎的理解を深める。

内容	
1	IT技術とは
2	基礎理論
3	アルゴリズムとプログラミング
4	コンピュータ構成要素
5	ソフトウェア
6	ヒューマンインタフェース技術
7	データベース
8	ネットワーク
9	セキュリティ
10	システム開発技術
11	ソフトウェア開発管理技術
12	プロジェクトマネジメント
13	システム戦略
14	経営戦略マネジメント
15	企業活動

評価

中間テスト (30%) と期末テスト (50%)、および授業への取り組み姿勢を総合評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】 次回の内容を把握する。

【事後学修】授業内容を復習し、理解を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】初回の授業内で指示する。

科目名	生活情報ゼミ		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHI279		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

生活情報ゼミは、3年次の演習・、4年次の卒業研究に向けての基礎学力を育成するのがねらいである。社会の変化や技術の進歩に合わせて、新たな知識や技術を自ら学び続けられる力を身につける。

自主的に調査・研究・開発する能力、問題を発見し解決していく能力、レポートにまとめ発表する能力を育成する。

自主的な学習の結果を定期的に行う進捗報告会で発表することにより、研究に関する基礎能力を養成することができる。

内容

学生ごとに興味のある分野に関して基礎知識を、学生が自主的に学習する。学習した成果を作品としてまとめ、プレゼンテーション、ディスカッションにより3年生での演習につなげていく。

評価

課題発表(約50点)、取り組み姿勢(約50点)などを総合的に評価し、60点以上を合格とする。発表内容についてはフィードバックとしてコメントを行う。

授業外学習

【事前予習】自分で立てた学習計画に合わせて、事前予習を行う。

【事後学修】自分で立てた学習計画に合わせて、事後学修を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

テーマごとに適宜紹介する。

科目名	生活情報ゼミ		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング	KHI279		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は情報システムの構築・管理・運用またはこれを活用するための知識・技術をより深めていく演習・演習・卒業研究へと続く最初の科目となる。ゲーム作成を通して設計から開発、テストまでを実際に行う内容と、世の中にある実際のデータを解析し、知識を抽出することの2つのテーマから選んで学んでいく。

2つのテーマに合わせ、ゲーム作成ではプログラミング言語の復習・ゲームの基本的な構造等を学ぶ。データ解析では、基本的な分析ツールを学ぶ。

3・4年生を通して研究していく内容の大きな方向を決め、その目標に向かって自分の研究工程を明確にしていくことを到達目標とする。このことによって知識・スキルを深めることができ、また、就職後にも必須な計画の作成・遂行能力を身に付けることができる。

内容

研究内容を決めていない学生にはゲーム作成・データ解析の両方の内容を下記のスケジュールで学ぶ。研究内容が明白な学生は、自分の目的に合わせて必要な内容を増やし集中的に学んでいく。

1	オリエンテーション
2	プログラミング言語の復習(基本構文)
3	プログラミング言語の復習(メソッド)
4	プログラミング言語の復習(クラスの作成)
5	プログラミング言語の復習(継承)
6	中間発表
7	データマイニングの基礎的知識を獲得する(データの種類)
8	データマイニングの基礎的知識を獲得する(解析手法と使用データ)
9	データマイニングの基礎的知識を獲得する(主成分分析)
10	データマイニングの基礎的知識を獲得する(クラスター分析)
11	練習用データでの解析練習(主成分分析)
12	解析内容の発表
13	練習用データでの解析練習(クラスター分析)
14	解析内容の発表
15	総合課題

評価

平常点20%、自分の研究内容理解及び、発表点80%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】 毎回の研究進捗状況の報告と問題個所の提示に対応し、研究方針を指示する。

授業外学習

【事前予習】 研究計画に従い、事前準備をしておく。

【事後学修】 研究計画より遅れている場合は研究を進めておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

詳細については、オリエンテーションで指示する。

科目名	生活情報ゼミ		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング	KHI279		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

3年次の演習に向けて基礎的な経済学について学習する。

科目の概要

基礎的な文献と輪読し、共通理解を深める。

学修目標

経済学について基礎的な知識を身につける。

内容

3年次からの演習を速やかにすすめるために、基礎的な内容を学習する。特に、日本経済や経営に関する問題などを新聞、雑誌などを読みながら進めていく。また、日本銀行、東京証券取引所などを見学するなどして現実の経済の動きを身近に感じられるようにする。

評価

プレゼミでの発表(50%)。レポート作成(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時の課題は、次週以降の授業時にフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】新聞で経済記事を読む。

【事後学修】プレゼミナルでの討論を踏まえ、さらに調べる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示する。

科目名	生活情報ゼミ		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング	KHI279		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

生活情報学科専門科目「ゼミ卒研」のうち2年次後期の必修科目である。3年次の演習、演習、4年次の卒業研究の準備となる。

科目の概要

社会調査や社会経済統計を確認しながら、わが国における生活者をめぐる諸状況を把握する。

学修目標

社会調査や社会経済統計から生活者（個人や家族）の動向を把握するゼミナールにおいて、専門的な研究を進める上で前提となる基礎的な知識や技術を学修する。

内容

白書とは、中央省庁が所管の行政活動の現状、問題、対策そして将来の展望などを国民に知らせるために発行する刊行物で、首相官邸のホームページで公開している。現在45種類あるが、その中から生活者（個人や家族）のライフスタイルに関わる以下9種類について、受講生の関心をもとに1冊を選び、輪読する。

白書には、政策決定の基礎資料となった社会調査や統計のデータが掲載されている。データもとの調査報告をネット検索し、データの性質を確認しながら読み進める。

内閣府「子ども・若者白書」

内閣府「少子化社会対策白書」

内閣府「高齢社会白書」

内閣府「男女共同参画白書」

消費者庁「消費者白書」

厚生労働省「厚生労働白書」

農林水産省「食育白書」

国土交通省「観光白書」

環境省「環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」

評価

授業中の発表や討議への参加50点、学期末レポート50点とし、総合評価60点以上を合格とする。本科目は、報告課題について助言・指導する演習である。

授業外学習

【事前予習】授業時の研究発表にむけて準備する。

【事後学修】授業時の討論をもとに学期末レポートの準備をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

首相官邸のホームページで公開されている白書を使用する

科目名	生活情報ゼミ		
担当教員名	松本 晃子		
ナンバリング	KHI279		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	2	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

3年次ゼミに向けての基礎力を育成します。

ゼミのメインテーマ（マーケティング、生活経済、ファッション）に関する知識および作品制作を行います。自主的に調査・研究する 計画的に情報をまとめていく 発表するという3つを円環的に行います。また、グループワークを通じて実社会への適応能力を育成することも目的とします。

マーケティング理論の理解と商品開発の基礎を習得します。コミュニケーション能力を向上させ、情報発信者として生活に関わる様々な問題を把握し、知識獲得とクリエイティブマインド育成も目標とします。

内容

3年次のゼミ研究に向けて、各自でテーマを選択し発表を行う。

課題について現状を調べ、問題点を抽出し、その問題点を解決する仮説を構築し、データを収集して検証を行っていきます。

地域連携として外部への作品提供、外部コンテストへのエントリーなど、プレゼンの機会が増えます。

評価

ゼミの取り組み姿勢・貢献度（60%）とレポート提出（40%）を総合して100点満点とし、総合評価60点以上を合格とします。授業時の課題は、次週以降の授業時にフォードバックする。

授業外学習

【事前予習】ポートフォリオ作成を怠らない。

【事後学修】ポートフォリオ作成を怠らない。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じてプリントや資料を配布します。

科目名	生活情報ゼミ		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング	KHI279		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究を進めるための基礎作りとして、問題発見・解決手法の概要を学ぶとともにゼミでの学習姿勢を身に付ける

科目の概要

テキストを輪講形式で読み進め、データ解析 (統計解析・多変量解析) とオペレーションズリサーチの概要を学ぶとともに、適用事例を調査する。

学修目標 (= 到達目標)

- ・データ解析とオペレーションズリサーチの概要を理解する
- ・資料を熟読し簡潔にレポートにまとめ分かりやすくプレゼンテーションできる
- ・主体的・積極的な意見交換ができる

内容

テキストの輪講や事例調査を通して、データ解析およびオペレーションズリサーチについて

- ・どのような手法があるのか
- ・必要なデータ
- ・結果の解釈のポイント
- ・どのような問題に適用できるのか など

を学ぶ。さらに担当箇所をレポートにまとめ、発表することにより、レポートの要件・まとめ方とプレゼンテーション技法を学ぶ。

評価

発表：70% + 取り組み：30%で総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキストを精読し、疑問点はリストアップしておく。担当箇所については要点をレポートにまとめ、プレゼンテーション資料を作成する。

【事後学修】授業内容を復習し、理解を深める。課題が出題された場合は期限までに提出する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】

テキストは初回授業で指定する。

必要に応じて資料を配布する。

科目名	生活情報ゼミ		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング	KH1279		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

本科目は、3年生の演習・、4年生の卒業研究へむけての過程としての位置付けとなり、3・4年生でのゼミナール活動を行う際の基礎知識を身につけます。

科目の概要：

生活者・消費者としての法の世界との出会い、ビジネスパーソンとしての法律との関わりなどを学びます。

学修目標：

広く社会に関心を持ち、現状を踏まえ、それらをめぐる法律はどのようになっているのか、法の目的や紛争解決手段を学びます。

内容

日常生活でも仕事をしていく上でも重要な「契約」や「紛争解決制度」など身近なテーマを取り上げて法的な基礎知識を身につけます。

なお、取り扱うトピックとしては、参加者の希望も取り入れることにしています。

参加者は課題の予習を行い、それを踏まえて参加者による積極的な質疑応答・ディスカッションを通じて、理解を深めます。

評価

授業中の発表 (30%) ・ 報告・議論への参加態度 (30%) 、ワークシート記入・レポート作成等 (40%) により評価し、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】指定のテキストを読み報告レポートにまとめる。指定されたテーマについて事前に資料調査をする。

【事後学修】授業内での指摘を受けて報告レポートの修正加筆をする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

参加学生の関心に照らし、授業時に指示します。また、適宜資料の配布をします。

科目名	生活情報ゼミ		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHI279		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、3年次の演習、4年次の卒業研究に向けてのファースト・ステップとして簿記論、会計学の基礎知識を習得して卒業研究等に関する基礎能力を育成する科目である。

科目の概要

ビジネスパーソン必須の簿記・会計等を学ぶ。

授業内の演習における課題発表およびレポート・ホームワーク等の提出がある。

学修目標

ビジネスマンとしてのアカウントティングマインドを身につけ、企業等からも即戦力として評価される日商簿記検定試験等の資格取得を目指す。また課題発表を通じて就活対策としての発表力・表現力も身につける。

内容

生活情報ゼミの具体的内容は以下のとおりである。初回のオリエンテーションの後、各自半期の学習計画を策定する。生活情報ゼミではまず、3年次の演習、4年次の卒業研究に備えて税制を含む簿記・会計学の基礎知識を修得する。演習、卒研のみならず、就活対策等も兼ねてビジネスパーソンの三種の神器である英語、IT、簿記・会計の1つである簿記・会計の基礎知識をここで把握する。ゼミの進め方は、生活情報ゼミも演習科目の1つであるため、事前にプリント等を配布し、割り当てを受けた担当者が翌週発表するという毎回発表形式をとる。ゼミは簿記・会計学が中心となるため日商簿記検定試験、BATIC、FP等の資格取得を推奨するが、希望者が多ければさらに補講等を設定することも可能である。

評価

課題発表 (30%)、レポート作成 (30%)、ディスカッション等ゼミナール参画態度 (40%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】発表者はロスタイムのないように事前に準備・確認等しておくこと

【事後学修】発表で指摘を受けた部分は速やかに修正しておくこと

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】適宜プリント等を配布する。

参考書籍等については必要に応じて授業内で指示する。

科目名	生活情報ゼミ		
担当教員名	中山 成夫		
ナンバリング	KHI279		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、3年次の演習、4年次の卒業研究に向けての基礎知識の習得を目的とします。

科目の概要

企業に関する知識は授業と重複しない様に配慮し、主に現代の企業が直面している問題を取り上げます。そして参加者の自由活発な議論を通して、企業現場が抱える問題についての理解を深めます。

学修目標

企業が日常で抱える問題には、往々として正解が無い場合が多い。逆の言い方をすれば個人個人がしっかりと考えられ、周囲の人を説得できるとしたら、それが解になる。企業現場と言う場を借りて、先ず自らの意見を形成する処までを目標とする。

内容

第一回目～第二回目で企業の現場が、どの様なものかを説明し、幾つかの問題を提起する。例えば、イノベーション、働き方、女性のライフサイクル（産休・育休）などの現状を幾つか説明する。

三回目以降は、提起した問題をどの様に議論するかを決め、先ずは基礎知識を整理する。

それを基にゼミ生個人個人の意見の組み立てを行う。正解が無いケースが殆どで、個人個人の意見の妥当性、整合性、理論性を評価の基礎とし、ユニークさ、独創性を評価する。

評価

授業参加度（議論・討論への参加）が40点、期末レポートが60点で合計60点以上で合格とする。

授業外学習

【事前準備】発表者はロスタイムのないように事前に準備・確認等しておくこと

【事後学修】発表で指摘を受けた部分は速やかに修正しておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】適宜プリント等を配布する。

参考書籍等については必要に応じて授業内で指示する。

科目名	生活情報ゼミ		
担当教員名	栗原 隆史		
ナンバリング	KHI279		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	2Kクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

3年次の「演習」、4年次の「卒業研究」に接続させるために専門分野に関する知識や技術を学ぶ。

各自の興味関心に応じたゼミを選択し、選択した分野の基礎や研究方法などを学んでいく。

1. 選択した分野の基礎を積極的に学ぶ。
2. 各自の達成目標を設定して、到達できるように努力する。
3. テキスト以外の勉強方法や調査方法などを習得し、自発的学習能力を身につける。

内容

各自の興味や関心にしたがって、プログラミングを中心とするグループ、グラフィックス中心のグループ、地理情報システム (GIS) のグループを選択し、それぞれの基礎を学んでいく。

各分野のテキストを指定するのでテキストに沿って学習し、基礎的な知識と技術を修得する。

また、各種の情報関係資格の取得やSPIなどの講座も実施する。

評価

日常の取り組み姿勢 (50%) と課題の進捗度 (50%) などを点数化し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 前回授業内容の確認

【事後学修】 今回授業の振り返り

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

とくに指定しない。必要な都度、プレゼミの中で紹介していく。

科目名	生活情報ゼミ		
担当教員名	泉 直子		
ナンバリング	KHI279		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	2	ク ラ ス	2Mクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

生活情報ゼミは、各ゼミ担当教員が担当する3年次の演習・、4年次の卒業研究・ に向けての基礎学力を育成するのが狙いである。

ゲーム作成、アニメーション作製を通してソフトウェアを作成する各工程の理解、コンピューターの総合的な知識の理解を深める。これらのテーマについて各自、まとめ発表することによりアクティブな学びを身に付ける。

更に、ソフトウェア作成は一人作ることはあまりなく、複数の人で作ることが多い。

このソフトウェア作成を通し、協調性を身に着けるとともに、グループの中で、自分の意見を言うことができる表現力も身に着け、演習・、卒業研究をスムーズに進められるようにしたい。

ゼミのテーマに関する基礎知識を学習すると共に、自主的に調査・研究・開発する能力、問題を発見し解決していく能力、レポートにまとめ発表する能力を育成する。また、社会性のある人間を育てることを目標とする。

内容

ゼミでは、以下に述べるゼミのテーマに関する基礎知識を学習すると共に、学生の自主的学習に向けて、独自調査・研究・開発、プレゼンテーション、ディスカッションなど様々な形式によって学生個人に合わせた教育を行う。

アニメーション作成の準備とそれに関連した課題の発表をおこなう。

1. FLASH などのアニメーションツールの習得
2. プログラミング 言語の習得
3. アニメーション作成
4. 埼玉地域の昔話の絵本作成
5. 埼玉地域の生活についてのデジタル表現について (Excel データベース、ホームページなど)
6. 情報関連の資格取得するための準備

また、アニメーション作成ツールを理解するとともに「ゲーム、デジタル絵本作成、Web」について各自テーマを決め、Power Point を用いて自分たちで調べたこと、考えたこと、パソコンで実験したことを発表し、皆で討論する。ゼミは基本的に、発言し、討論する場を多くしたい。

課題の例：ホームページと色表現、CG 誕生の歴史、アニメ制作のワークフロー、ホームページに有効なデジカメ写真の撮り方など

評価

課題・発表(約50点)、取り組み姿勢(約50点)などを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分のゼミテーマについて、友達と話し合ったり、本やネットで調べ、いろいろな見方ができることを理解する。

【事後学修】授業中に出された課題を仕上げ、理解する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する。

科目名	演習		
担当教員名	栗原 隆史		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

3年次の「演習」、4年次の「卒業研究」に接続させるために専門分野に関する知識や技術を学ぶ。

各自の興味関心に応じたゼミを選択し、選択した分野の基礎や研究方法などを学んでいく。

1. 選択した分野の基礎を積極的に学ぶ。
2. 各自の達成目標を設定して、到達できるように努力する。
3. テキスト以外の勉強方法や調査方法などを習得し、自発的学習能力を身につける。

内容

1. 地理情報システム (GIS)

GISとはデジタル地図と地域の属性情報データベースをコンピュータでリンクさせることによって地域特性を分析するためのツールである。具体的な分析テーマを設定してGIS操作の習得と地域分析の手法について学ぶ。

2. コンピュータグラフィックス

2Dまたは3Dの静止画像と動画の作成を基礎として、ゲームやマルチメディア教材の作成を行う。サンプルプログラムの内容理解から始めて、次第に機能の修正や追加を行い、オリジナル作成

へと進んでいく。

3. ネットワークプログラミング

インターネット技術を中心に、サーバの構築やコンテンツ作成を行う。またDBプログラミングなど、応用システムの開発を行っていく。テキストに沿ってシステムの動作やプログラム作成手法を修得していく。

評価

日常の取り組み姿勢 (50%) と課題の進捗度 (50%) などを点数化し、60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】 前回授業内容の確認
- 【事後学修】 今回授業の振り返り

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

とくに指定しない。必要な都度、授業の中で紹介していく。

科目名	演習		
担当教員名	泉 直子		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

「生活情報ゼミ」の後に続く演習の授業で、演習、を通して、卒業研究を進める基礎を身につける。

世の中にあるデジタル関連作品、ソフトがどのようにできているかを理解するために、何らかのツールを使いソフトを作成する。作成する過程で、どのようなソフトを作るかというアイデアをだす「考える力」、そしてチームでの開発作業に必要な「協調性」が求められる。本授業では、グループのアニメーションやそのたのソフト作りを通して、ツールを使用するようにするだけでなく、ソフトウェア開発の各工程を体験してもらうための準備をする。

何らかのツールでソフトウェアの開発工程を体験することにより、「考える力」「議論する力」や周囲とうまく作業を進める「高い協調性」を身に付けることを大切にする。

内容

アニメーションやホームページ作成、データベースやファイルにアクセスできるホームページ作成の準備とそれに関連した課題の発表をおこなう。次の項目の中から興味のあるものを中心に行う。

1. FLASH などのアニメーションツール、Action Script 言語の習得
2. スクリプト言語の習得とデータベースプログラミング
3. アニメーションの調査、企画、作成
4. 埼玉地域の昔話の絵本作成、デジタル絵本の作成
5. ネットワークを介して、データベースにアクセスできるホームページの作成
6. 情報関連の資格取得の準備

また、アニメーションや上記のソフト作成に関連した各自興味ある課題をひとつ決めPower Point を用いて自分たちで調べたこと、考えたことを発表する。特に、調査したことについて、計算機で実験し、まとめ、発表し、討論することも重要視したい。

子供向けの教育ソフトや一般の絵本、ゲームだけでなく、埼玉地域の昔話などをデジタル絵本などで、デジタル化する表現方法についても討論し、考えていく。

課題の例：ホームページと色表現、CG 誕生の歴史、アニメ制作のワークフロー、ホームページに有効なデジカメ写真の撮り方、ショッピングサイトのしくみ、Cook Do 検索サイトのしくみ

評価

授業態度 (30点) と発表態度 (30点)、ゼミでの活動状況 (40点) を総合的に判断して評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分で関連ある書籍を探したり、読んだりする習慣を身に着けるようにしたい。

【事後学修】他の人の発表を聞いて、関連していることを調べたり、次の時間に質問したりすることを習慣づける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する。

科目名	演習		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	3	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

生活情報ゼミで学習した内容を基礎にして、自主的な計画を立てて、演習、4年生の卒業研究につながる研究を行う。社会の変化や技術の進歩に合わせて、新たな知識や技術を自ら学び続けられる力を身につける。

マルチメディアサービス、ゲーム、通信サービス、セキュリティサービス、などをテーマとして、学生が主体的にテーマ設定を行い、研究する手法を体得する。卒業研究に向けた準備として、作品制作等を行う。

計画的に学習を進め、定期的に進捗報告発表を行うことにより研究遂行能力を養うことができる。

内容

4年生の卒業研究に向けた準備を行う。具体的なテーマは学生の興味に合わせて決定する。設定したテーマについて、研究の目的と位置づけを明確にして、学生が主体的に進める形式で行う。設定するテーマの分野の例として、次のようなものがある。

- 1.スマートフォン
- 2.Webページ
- 3.ゲーム
- 4.その他のアプリケーションサービス

評価

定期的に行う進捗報告会での発表内容を100点満点で評価し、平均点が60点以上を合格とする。発表内容については、フィードバックとしてコメントを行う。

授業外学習

- 【事前予習】個々のテーマに合わせて、自分で計画を立てて行う。
- 【事後学修】個々のテーマに合わせて、自分で計画を立てて行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テーマごとに適宜紹介する。

科目名	演習		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は情報システムの構築・管理・運用またはこれを活用するための知識・技術をより深めていくためにプレゼミナールで得た知識・技術を発展させ演習 ・卒業研究へと繋げていく科目となる。

ゲーム作成ではゲームの基本的な設計を行い作成していく。データ解析では、データの収集・入力から基本的な分析へと進む。

自分で建てた研究目標に向かって自分の研究工程を明確にし、それに沿って研究を進めていく。このことによって知識・スキルを深めるとともに自分で考え結果を出していくことを到達目標とする。

内容	
1	オリエンテーション
2	各自研究分野の検討
3	各自研究分野の現状調査
4	各自研究分野の計画検討
5	各自研究分野の計画作成
6	研究計画発表会
7	研究計画発表会
8	研究計画に沿って実施
9	研究計画に沿って実施
10	研究計画に沿って実施
11	研究計画に沿って実施
12	研究計画に沿って実施
13	研究計画に沿って実施
14	研究成果報告会
15	研究成果報告会

評価

平常点20%、自分の研究内容理解及び、発表点80%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】 毎回の研究進捗状況の報告と問題個所の提示に対応し、研究方針を指示する。

授業外学習

【事前予習】 研究計画に従い、事前準備をしておく。

【事後学修】 研究計画より遅れている場合は研究を進めておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

詳細については、オリエンテーションで指示する。

科目名	演習		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	3	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

卒論作成に向けて経済学の基礎を学習する。

科目の概要

基礎的な文献や新聞雑誌などを輪読し、ディスカッションを通して相互理解を深める。

学修目標（=到達目標）

経済学について基礎的な知識を深め、討論できる能力の養成を図る。

内容

日本経済に関する基本的文献や新聞、雑誌等を通して、討論する。また、日本銀行、東京証券取引所などを通して、現実の経済に触れる。

評価

平常点や授業内討論（50%）、演習でのプレゼンテーション(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時の課題は、次週以降の授業時にフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】政治や経済の新聞、テレビなどの報道を調べる。

【事後学修】演習でのディスカッションを踏まえ、さらに詳しく調査する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に指示する。

【推薦書】特に指定しない。

【参考図書】授業中に指示する。

科目名	演習		
担当教員名	松本 晃子		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	1Gクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

2年次でのゼミを発展させ、マーケティングに関する実例をテキストと企業訪問などから理解を深めていきます。

科目の概要

マーケティングのテキストを輪読しながら、理論と実例を学ぶ。そのうえで、実際のマーケティング戦略に向けた構想をグループで構築していく。

学修目標 (= 到達目標)

商品開発の実例を学び、大学マーケティングコンテストなどに応募できる基礎力をゼミ全員で構築していく。

内容

前半でマーケティングの最新テキストを輪読して、2年次までの基礎力から応用への理論を学ぶ。

後半からはゼミ全員で実践マーケティング戦略構築に向けた構想を練っていく力をつけていく。

評価

個別の発表を40点とし、グループ討議を60点として総合評価60点以上を合格とする。

授業時の課題は、次週以降の授業時にフォードバックする。

授業外学習

【事前準備】テキストの輪読及び発表内容の確認。

【事後学修】講義内容を復習し、事例を考察する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

前期のテキスト：『1からのマーケティング・デザイン』石井淳蔵他編著、中央経済社

科目名	演習		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	3	ク ラ ス	1Hクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

生活情報ゼミに続く卒業研究の準備段階の科目で、必要な知識や技術を身に付けるとともに、テーマについて検討する。

科目の概要

生活情報ゼミで概要を学んだデータ解析・オペレーションズリサーチの代表的な手法の実践的な活用方法を演習を通して身に付ける。また、文献調査を通して卒業研究のテーマを検討する。

学修目標（＝到達目標）

- ・ 目的に応じて必要な手法を選択できるようになる
- ・ 必要となるデータや結果の解釈について理解する
- ・ レポート作成を通して卒業研究を進めるプロセスを経験する
- ・ 卒業研究テーマ案を決める

内容

生活情報ゼミで学んだ概要を振り返りながら、代表的な手法について詳細を学ぶとともに、演習を通して卒業研究と同じ以下のプロセスを経験し実践力を養う。

- ・ 仮説の設定
- ・ 仮説の検証方法と必要なデータの検討
- ・ データ収集
- ・ 仮説検証
- ・ 考察
- ・ レポート作成
- ・ 発表

また、卒業研究のテーマについて検討し発表する。

評価

課題・発表：70%、取り組み：30%とし、総合的評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各手法の概要について復習しておく

【事後学修】課題を提出期限までに提出する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

テキストの詳細については初回授業で指示する。

必要に応じて資料を配布する。

科目名	演習		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	1Jクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

本科目は、3年生の演習 ・ 、4年生の卒業研究 ・ へむけての過程としての位置付けとなり、3・4年生でのゼミナール活動を行う際の基礎知識を身につけます。

科目の概要：

生活者・消費者としての法の世界との出会い、ビジネスパーソンとしての法律との関わりなどを学びます。

科目の目的：

広く社会に関心を持ち、現状を踏まえ、それらをめぐる法律はどのようになっているのか、法の目的や紛争解決手段を学びます。

内容

日常生活でも仕事をしていく上でも重要な「契約」や「紛争解決制度」など身近なテーマを取り上げて法的な基礎知識を身につけます。

参加者は課題の予習を行い、それを踏まえて参加者による積極的な質疑応答・ディスカッションを通じて、理解を深めます。

評価

授業中の発表 (30%) ・ 報告・議論への参加態度 (30%) 、 報告レジュメ作成・レポート (40%) により評価し、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】課題の準備 (予習用資料に目を通す、レポート作成、報告レジュメの準備等)

【事後学修】課題の完成 (レポート・レジュメの加筆修正) および課題の発展

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

参加学生の関心に照らし、授業時に指示します。また、適宜資料の配布をします。

科目名	演習		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	1Kクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、4年次の卒業研究に向けてのファーストステップとして、3年次前期に演習 としてに簿記論等会計学関連科目の基礎知識を習得し、卒業研究等に関する基礎能力を育成する科目である。

科目の概要

前半は、簿記、会計、税務等、実務に直結する一般的な会計関連科目の幅広い基礎知識の習得を目指す。必要な会計関連科目の基礎知識習得後、各自与えられた課題を分析・検討して発表を行い、積極性、分析力、判断力等の育成の他、表現力等プレゼンテーションスキルの上達も試みる。後半は、ゼミの進捗状況により、企業の財務諸表分析、問題点の把握、ソリューションを導き出す能力の育成等、さらなるレベルアップも検討する。また希望者が多ければ日商簿記検定試験等の資格試験対策や模擬面接等の就職活動対策等も考慮する。

学修目標

1. 会計学、簿記論、税法等の科目について基礎知識を習得する。
2. 財務諸表を読み、企業の経営状況を把握する力を身につける。
3. 自ら調査・分析・研究し、卒業研究としてまとめることができる力を養成する。
4. 可能な範囲内での資格取得にチャレンジする。

内容

演習 の具体的内容は以下のとおりである。初回のオリエンテーションの後、前年度のプレゼミナールで修得した簿記および会計の基礎知識の確認を行い、各自半期の学修計画を策定する。演習 の前半ではプレゼミナールでの簿記、会計の知識を受けビジネスパーソンとしては避けることのできないIFRSや日本の税制の報告・検討を発表形式で行う。発表は課題のボリュームにより単独または、グループの場合がある。演習 の後半では税制の知識をさらに発展させ国際税務の初歩レベルを学修する。また、簿記、会計が中心のゼミのため、年度内のゼミ生全員の日商簿記検定試験3級の取得も目指す。

評価

課題発表 (30%)、レポート作成 (30%)、ディスカッション等ゼミ参画態度 (40%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前準備】発表者はロスタイムのないように事前に準備・確認等しておくこと
- 【事後学修】発表で指摘を受けた部分は速やかに修正しておくこと

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】テキスト等については、ゼミの進捗状況に応じ、授業内で指示する。また、必要に応じて適宜プリントを配布する。

科目名	演習		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	3	ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

生活情報学科専門科目「ゼミ卒研」の3年次前期必修科目である。2年次後期の生活情報ゼミでの成果を踏まえ、3年次後期の演習へと発展させる。

科目の概要

社会調査や社会経済統計を使って生活者（個人や家族）の動向を把握している研究論文や学術図書を取り上げて輪読し、実証研究の方法を学習する。ついで、自らの関心領域の実証研究を調べ、研究史をまとめる。

学修目標

社会調査や社会経済統計から生活者（個人や家族）の動向を把握するゼミナールで、4年次に取り組む卒業研究のテーマ設定にむけて、参加学生の自らの関心領域を明確にする。

内容

4月から6月末までは、社会調査や社会経済統計を使って生活者（個人や家族）の動向を分析・考察している研究論文や学術図書を輪読する。テキストは、2年次後期の生活情報ゼミの成果をもとに、参加学生の関心に照らして選定する。

毎時間テキストの一部分を取り上げ、数人のレポーターが内容を報告し、参考文献等を紹介しながらコメントする。レポーター以外の者は問題点を指摘し、討論に参加する。

7月には、参加学生各自の関心領域について、実証的な先行研究の文献リストを作成し、学期末までに研究史をまとめる。これによって、4年次の卒業研究のテーマを絞り込む。

評価

授業中の発表や討議（50%）と学期末のレポート（50%）によって評価する。

総合評価60点以上を合格とする。

本科目は、提出課題に対して助言・指導する演習科目である。

授業外学習

【事前予習】授業時の研究発表にむけて準備する。

【事後学修】授業時の討論の成果を整理する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書と推薦書は、参加学生の関心に照らして、授業時に指示する。

科目名	演習		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	1Lクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、4年次の卒業研究に向けてのファーストステップとして、3年次前期に演習 としてに簿記論等会計学関連科目の基礎知識を習得し、卒業研究等に関する基礎能力を育成する科目である。

科目の概要

前半は、簿記、会計、税務等、実務に直結する一般的な会計関連科目の幅広い基礎知識の習得を目指す。必要な会計関連科目の基礎知識習得後、各自与えられた課題を分析・検討して発表を行い、積極性、分析力、判断力等の育成の他、表現力等プレゼンテーションスキルの上達も試みる。後半は、ゼミの進捗状況により、企業の財務諸表分析、問題点の把握、ソリューションを導き出す能力の育成等、さらなるレベルアップも検討する。また希望者が多ければ日商簿記検定試験等の資格試験対策や模擬面接等の就職活動対策等も考慮する。

学修目標

1. 会計学、簿記論、税法等の科目について基礎知識を習得する。
2. 財務諸表を読み、企業の経営状況を把握する力を身につける。
3. 自ら調査・分析・研究し、卒業研究としてまとめることができる力を養成する。
4. 可能な範囲内での資格取得にチャレンジする。

内容

演習 の具体的内容は以下のとおりである。初回のオリエンテーションの後、前年度のプレゼミナールで修得した簿記および会計の基礎知識の確認を行い、各自半期の学修計画を策定する。演習 の前半ではプレゼミナールでの簿記、会計の知識を受けビジネスパーソンとしては避けることのできないIFRSや日本の税制の報告・検討を発表形式で行う。発表は課題のボリュームにより単独または、グループの場合がある。演習 の後半では税制の知識をさらに発展させ国際税務の初歩レベルを学修する。また、簿記、会計が中心のゼミのため、年度内のゼミ生全員の日商簿記検定試験3級の取得も目指す。

評価

課題発表 (30%)、レポート作成 (30%)、ディスカッション等ゼミ参画態度 (40%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前準備】発表者はロスタイムのないように事前に準備・確認等しておくこと
- 【事後学修】発表で指摘を受けた部分は速やかに修正しておくこと

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】テキスト等については、ゼミの進捗状況に応じ、授業内で指示する。また、必要に応じて適宜プリントを配布する。

科目名	演習		
担当教員名	栗原 隆史		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

3年次の「演習」、4年次の「卒業研究」に接続させるために専門分野に関する知識や技術を学ぶ。

各自の興味関心に応じたゼミを選択し、選択した分野の基礎や研究方法などを学んでいく。

1. 選択した分野の基礎を積極的に学ぶ。
2. 各自の達成目標を設定して、到達できるように努力する。
3. テキスト以外の勉強方法や調査方法などを習得し、自発的学習能力を身につける。

内容

1. 地理情報システム (GIS)

GISとはデジタル地図と地域の属性情報データベースをコンピュータでリンクさせることによって地域特性を分析するためのツールである。具体的な分析テーマを設定してGIS操作の習得と地域分析の手法について学ぶ。

2. コンピュータグラフィックス

2Dまたは3Dの静止画像と動画の作成を基礎として、ゲームやマルチメディア教材の作成を行う。サンプルプログラムの内容理解から始めて、次第に機能の修正や追加を行い、オリジナル作成

へと進んでいく。

3. ネットワークプログラミング

インターネット技術を中心に、サーバの構築やコンテンツ作成を行う。またDBプログラミングなど、応用システムの開発を行っていく。テキストに沿ってシステムの動作やプログラム作成手法を修得していく。

評価

日常の取り組み姿勢 (50%) と課題の進捗度 (50%) などを点数化し、60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】 前回授業内容の確認
- 【事後学修】 今回授業の振り返り

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

とくに指定しない。必要な都度、プレゼミの中で紹介していく。

科目名	演習		
担当教員名	泉 直子		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

「生活情報ゼミ」「演習」の後に続く演習の授業で、演習を通して、卒業研究を進める基礎を身につける。

世の中にあるデジタル関連作品、ソフトがどのようにできているかを理解するために、何らかのツールを使いソフトを作成する。作成する過程で、どのようなソフトを作るかというアイデアをだす「考える力」、そしてチームでの開発作業に必要な「協調性」が求められる。本授業では、グループのアニメーションやそのためのソフト作りを通して、ツールを使用するようにするだけでなく、ソフトウェア開発の各工程を体験してもらうための準備をする。

何らかのツールでソフトウェアの開発工程を体験することにより、「考える力」「議論する力」や周囲とうまく作業を進める「高い協調性」を身に付けることを大切にする。

内容

アニメーションやホームページ作成、データベースやファイルにアクセスできるホームページ作成の準備とそれに関連した課題の発表をおこなう。次の項目の中から興味のあるものを中心に行う。

1. FLASH などのアニメーションツール、Action Script 言語の習得
2. スクリプト言語の習得とデータベースプログラミング
3. アニメーションの調査、企画、作成
4. 埼玉地域の昔話の絵本作成、デジタル絵本の作成
5. ネットワークを介して、データベースにアクセスできるホームページの作成
6. 情報関連の資格取得の準備

また、アニメーションや上記のソフト作成に関連した各自興味ある課題をひとつ決めPower Point を用いて自分たちで調べたこと、考えたことを発表する。特に、調査したことについて、計算機で実験し、まとめ、発表し、討論することも重要視したい。

子供向けの教育ソフトや一般の絵本、ゲームだけでなく、埼玉地域の昔話などをデジタル絵本などで、デジタル化する表現方法についても討論し、考えていく。

課題の例：ホームページと色表現、CG 誕生の歴史、アニメ制作のワークフロー、ホームページに有効なデジカメ写真の撮り方、ショッピングサイトのしくみ、Cook Do 検索サイトのしくみ

評価

授業態度 (30点) と発表態度 (30点)、ゼミでの活動状況 (40点) を総合的に判断して評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分で関連ある書籍を探したり、読んだりする習慣を身に着けるようにしたい。

【事後学修】他の人の発表を聞いて、関連していることを調べたり、次の時間に質問したりすることを習慣づける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業開始時に指定する。

科目名	演習		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

生活情報ゼミ，演習 で学習した内容を基礎にして，自主的な計画を立てて，4年生の卒業研究につながる研究を行う。社会の変化や技術の進歩に合わせて，新たな知識や技術を自ら学び続けられる力を身につける。

マルチメディアサービス、ゲーム、通信サービス、セキュリティサービス、などをテーマとして、学生が主体的にテーマ設定を行い、研究する手法を体得する。卒業研究に向けた準備として、作品制作等を行う。

計画的に学習を進め，定期的に進捗報告発表を行うことにより研究遂行能力を養うことができる。

内容

4年生の卒業研究に向けた準備を行う。具体的なテーマは学生の興味に合わせて決定する。設定したテーマについて、研究の目的と位置づけを明確にして、学生が主体的に進める形式で行う。設定するテーマの分野の例として、次のようなものがある。

1. スマートフォン
2. Webページ
3. ゲーム
4. その他のアプリケーションサービス

評価

定期的に行う進捗報告会での発表内容を100点満点で評価し、平均点が60点以上を合格とする。発表内容については、フィードバックとしてコメントを行う。

授業外学習

- 【事前予習】個々のテーマに合わせて、自分で計画を立てて行う。
- 【事後学修】個々のテーマに合わせて、自分で計画を立てて行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

テーマごとに適宜紹介する。

科目名	演習		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は情報システムの構築・管理・運用またはこれを活用するための知識・技術をより深めていくためにプレゼミナル・演習 で得た知識・技術を発展させ卒業研究へと繋げていく科目となる。

ゲーム作成ではゲームの作成・改良を行っていく。データ解析では、基礎的な解析結果から解析目標を絞り込み、より深く解析していく。

自分で建てた研究目標に向かって自分の研究工程を明確にし、それに沿って研究を進めていく。このことによって知識・スキルを深めるとともに自分で考え結果を出していくことを到達目標とする。

内容	
1	オリエンテーション
2	各自研究分野の再調査・再検討
3	各自研究分野の修正・変更
4	各自研究分野の計画再作成
5	研究計画発表会
6	研究計画発表会
7	研究計画に沿って実施
8	研究計画に沿って実施
9	研究計画に沿って実施
10	研究計画に沿って実施
11	研究計画に沿って実施
12	研究計画に沿って実施
13	研究計画に沿って実施
14	研究成果報告会
15	研究成果報告会

評価

平常点20%、自分の研究内容理解及び、発表点80%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】 毎回の研究進捗状況の報告と問題個所の提示に対応し、研究方針を指示する。

授業外学習

【事前予習】 研究計画に従い、事前準備をしておく。

【事後学修】 研究計画より遅れている場合は研究を進めておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

詳細については、オリエンテーションで指示する。

科目名	演習		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

演習 に続いて、卒業研究に向けて基礎的な経済学について学習する。

科目の概要

基礎的な文献と輪読し、共通理解を深める。また、東京証券取引所や日銀などを見学し、より学習を進めていく。

学修目標

経済学について基礎的な知識を身につけ、自分で考える力をつける。

内容

日本経済の基礎的な内容を学習する。特に、日本経済や経営に関する問題などを新聞、雑誌などを読みながら進めていく。また、日本銀行、東京証券取引所などを見学するなどして現実の経済の動きを身近に感じられるようにする。さらに、卒業研究のテーマを決め、研究を進めていく。

評価

ゼミでの発表(50%)。レポート作成(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時の課題は、次週以降の授業時にフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】事前に新聞や雑誌などを読む。

【事後学修】授業中に議論した内容をさらに調べる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	演習		
担当教員名	松本 晃子		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

マーケティングについての演習 の内容を発展させ、大学生マーケティング・コンテストやビジネスコンテストに向けたマーケティングプランをグループで構築していく。

科目の概要

グループで自主的に調査・研究したものをまとめ、プランを構築したものを、対外的に発表することで、実社会への適応能力をパワーアップさせていきます。

学修目標 (= 到達目標)

ゼミ全員で、校外コンクールなどに応募できる力を構築する。

後半では4年次に向けた卒業研究をのテーマを検討していく。

内容

マーケティングコンテストに応募することで、対外的なプレゼンテーション能力を鍛えていきます。

後半では、改めて業界研究を行い、卒業研究に向けた個別のテーマも検討していきます。

評価

ゼミの取り組み姿勢と貢献度を60%として、対外的な発表能力を40%と総合して100点満点とし、総合評価60点以上を合格とする。授業時の課題は、次週以降の授業時にフィードバックする。

授業外学習

【事前準備】テキストの輪読及び発表内容の確認。

【事後学修】講義内容を復習し、事例を考察する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業内で指示。

科目名	演習		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	3	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

生活情報ゼミ・演習 に続く卒業研究準備の最終段階の科目。

科目の概要

演習 で立案したテーマ案について検討を進め、決定する。また、研究計画を立て、卒業研究の準備を整える。

学修目標（＝到達目標）

- ・背景・目的を明確にしたうえでテーマを決定する
- ・研究計画を立て、発表する

内容

生活情報ゼミ・演習 で学んだことを参考にしながら、資料・文献調査やプレゼンテーション・ディスカッションを通して、研究の背景や目的を明確にしたうえで、取り上げる問題に対する仮説を設定し、その検証方法や必要なデータについて検討する。必要となる手法についてはソフトウェアの利用方法も含めて確認しておく。期末に研究テーマ・計画について発表する。

評価

取り組み：40%、研究計画発表60%とし、総合的評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】ゼミ報告資料をまとめる
- 【事後学修】ゼミでのコメントをフォローする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

テキストの詳細については初回授業で指示する。

必要に応じて資料を配布する。

科目名	演習		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

本科目は、法律をテーマとして取り扱い、各トピックを考察・検討するとともに調査方法を学びます。4年の卒業研究へむけての過程としての位置付けとなります。

科目の概要：

金融やその他企業の活動にかかわるビジネス法を、生活者・消費者的視点から、ビジネスパーソンの視点から考察します。

契約を中心として私法の分野からのアプローチをしてゆきます。

文献購読、参加者による報告、ディスカッションを通じて、

法律とその背景や現在の社会をめぐる状況からその機能・限界を踏まえて展望について研究します。

学修目標：

広く社会に関心を持ち、現状を踏まえ、それらをめぐる法律はどのようになっているのか、法の目的や紛争解決手段を学びます。

内容

日常生活でも仕事をしていく上でも重要な「契約」や「紛争解決制度」等を素材に研究を進めます。

指定の文献を事前に必ず読んでいることが全員に要求されます。

担当レポーターは制度・事案を整理してレジюмеを作成し報告します。

それを踏まえて参加者による積極的な質疑応答・ディスカッションを通じて、理解を深めます。

後期は、通常の報告と同時並行して卒業研究のテーマ選び、卒業研究のテーマに関する研究・調査の

準備を行ないます。卒業研究の準備として、選択したテーマにつき、

後期終了時まで、各自ゼミ・レポートを作成します。

評価

授業中の発表 (30%) ・ 報告・議論への参加態度 (30%) 、 報告レジюме作成・レポート (40%) により評価し、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】課題の準備 (予習資料に目を通す、レポート作成、報告レジюме準備等)

【事後学修】課題の完成 (レポート・レジюмеの加筆修正) および課題の発展

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

参加学生の関心に照らし、授業時に指示します。また、適宜資料の配布をします。

科目名	演習		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	3	ク ラ ス	2Kクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

演習 は、演習 に引き続き、企業の財務諸表分析や企業経営の考え方を会計、税務の両面から幅広く検討し、課題発表等を通じて考察力、分析力、さらには問題解決能力等を習得する科目である。また、演習 は、翌年の卒業研究へのステップとして位置付け、テーマ設定、研究計画等、卒業研究の準備も行う。

演習 に引き続き、会計学、税制の基礎力の確認を行い、会社の財務諸表分析や企業経営等を検討するが、可能であればさらに国際会計や国際税務戦略、よりレベルの高い資格試験対策等への発展的拡充を試みる。課題発表では、パワーポイント等のソフトウェアを利用して各自、選択可能なテーマの中から発表を行う。課題は会計学、税制の範囲に限らず、幅広い分野からのテーマ設定が可能である。課題発表では、プレゼンテーションやディスカッションを通してスピーディな資料の作成能力や発言力、ソフトウェアを利用した表現力、効果的な発表力等を身につける。

学修目標としては以下の4点をあげる。

1. 財務諸表の基礎的分析力、問題点の把握とその解決能力の習得。
2. 会計学、税制の基礎知識把握と発展的拡充。
3. 効果的なプレゼンテーション・スキルの向上。
4. 研究に関する基礎能力の育成。

内容

演習 の具体的内容は以下のとおりである。演習 は演習 の内容をさらに発展させ会計・税務の実務を想定したテーマを課題に取り組んでいく。課題の発表方法は演習 と同様にボリュームにより単独、グループの場合があるが、発表は既定のフォーマットを用いて全員で評価、ディスカッションを行う。ゼミの後半では次年度の卒業研究に向け、テーマ設定や論構成、執筆計画等の卒業研究執筆手順についても若干指導するが、次年度のゼミ生内定率100%を目指し、模擬面接やグループディスカッション等就職活動対策も予定している。また日商簿記検定試験2級・3級合格者で希望があれば1級・2級の試験対策、さらには税理士試験や公認会計士試験等の国家試験対策を行うことも可能である。

評価

課題発表（30%）、レポート作成（30%）、ディスカッション等ゼミナール参画態度（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前準備】発表者はロスタイムのないように事前に準備・確認等しておくこと。
- 【事後学修】発表で指摘を受けた部分は速やかに修正しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】テキスト等については、ゼミの進捗状況に応じ授業内で指示する。また必要に応じ適宜プリントを配布する。

科目名	演習		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	3	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

生活情報学科専門科目「ゼミ卒研」の3年次後期必修科目である。3年次前期必修科目の「演習」の成果を発展させ、4年次に卒業研究に取り組むための準備となる。

科目の概要

3年次前期の演習で選定した参加学生各自の研究テーマについて、実証的にアプローチする方法を学ぶ。生活者（個人や家族）の動向を把握するための調査には、質的調査と量的調査とがある。各自の研究テーマに適した調査法によって、卒業研究に必要な一次資料を収集する。

学修目標

卒業研究で取り上げるテーマについて、研究の背景や目的を明確にし、研究を進めるうえで必要な資料を収集する技術を習得する。

内容

3年次前期の演習で選定した参加学生各自の研究テーマについて、実証的に研究するにはどのような調査法が適しているか検討する。社会調査の方法には、大きく分けて質的調査と量的調査とがある。質的調査には、ドキュメント分析、インタビュー、観察法がある。量的調査には、現地調査の他にも、データアーカイブを利用した個票データの二次利用が可能である。

まず、9月から10月にかけて、先行研究の調査法を検討しながら、各自のテーマに適した調査計画をたてる。11月から12月にかけて、調査計画にしたがってデータを収集し、学期末までに収集データを整理する。

評価

授業中の発表や討議50点、学期末レポート50点として、総合評価60点以上を合格とする。本科目は、提出課題に対して助言・指導する演習である。

授業外学習

【事前予習】授業時の研究発表にむけて準備する。

【事後学修】授業時の討論の成果を整理する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書と推薦書は、参加学生の関心に照らして、授業時に指示する。

科目名	演習		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHI380		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	3	ク ラ ス	2Lクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習 は、演習 に引き続き、企業の財務諸表分析や企業経営の考え方を会計、税務の両面から幅広く検討し、課題発表等を通じて考察力、分析力、さらには問題解決能力等を習得する科目である。また、演習 は、翌年の卒業研究へのステップとして位置付け、テーマ設定、研究計画等、卒業研究の準備も行う。

演習 に引き続き、会計学、税制の基礎力の確認を行い、会社の財務諸表分析や企業経営等を検討するが、可能であればさらに国際会計や国際税務戦略、よりレベルの高い資格試験対策等への発展的拡充を試みる。課題発表では、パワーポイント等のソフトウェアを利用して各自、選択可能なテーマの中から発表を行う。課題は会計学、税制の範囲に限らず、幅広い分野からのテーマ設定が可能である。課題発表では、プレゼンテーションやディスカッションを通してスピーディな資料の作成能力や発言力、ソフトウェアを利用した表現力、効果的な発表力等を身につける。

学修目標としては以下の4点をあげる。

1. 財務諸表の基礎的分析力、問題点の把握とその解決能力の習得。
2. 会計学、税制の基礎知識把握と発展的拡充。
3. 効果的なプレゼンテーション・スキルの向上。
4. 研究に関する基礎能力の育成。

内容

演習 の具体的内容は以下のとおりである。演習 は演習 の内容をさらに発展させ会計・税務の実務を想定したテーマを課題に取り組んでいく。課題の発表方法は演習 と同様にボリュームにより単独、グループの場合があるが、発表は既定のフォーマットを用いて全員で評価、ディスカッションを行う。ゼミの後半では次年度の卒業研究に向け、テーマ設定や論構成、執筆計画等の卒業研究執筆手順についても若干指導するが、次年度のゼミ生内定率100%を目指し、模擬面接やグループディスカッション等就職活動対策も予定している。また日商簿記検定試験2級・3級合格者で希望があれば1級・2級の試験対策、さらには税理士試験や公認会計士試験等の国家試験対策を行うことも可能である。

評価

課題発表 (30%)、レポート作成 (30%)、ディスカッション等ゼミナール参画態度 (40%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前準備】発表者はロスタイムのないように事前に準備・確認等しておくこと。
- 【事後学修】発表で指摘を受けた部分は速やかに修正しておくこと。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】テキスト等については、ゼミの進捗状況に応じ授業内で指示する。また必要に応じ適宜プリントを配布する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	栗原 隆史		
ナンバリング	KHI581		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

各自の選択した分野で研究テーマを設定して作品の作成・開発を進めていく。

3年次の演習を基礎として、各自のテーマで研究を進める。

1. ゼミ担当教員の指導を受け、卒業研究テーマを設定する。
2. 研究の内容、方向性および進め方を検討する。
3. 進捗を自己管理し、進捗報告会、中間報告会、卒研発表会で成果をプレゼンテーションする。

内容

研究テーマの設定や研究スケジュールなどを教員と相談しながら決定し、研究に必要なデータ収集や調査、ツールや素材の作成などを進める。

さらに、具体的な作品を作成しながら、内容の検討やブラッシュアップを進めていく。

進捗報告会や中間報告会では、ゼミ担当教員からアドバイスを受けて追加修正作を行い、完成度を高める。

卒研発表会では研究成果をプレゼンテーションするとともに、全体をまとめたレポートを作成する。

評価

日常の取り組み姿勢 (10%)、進捗報告会 (10%)、中間報告会 (20%)、卒研発表会 (30%)、レポート (10%)、成果物 (20%) を点数化し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 前回授業内容の確認

【事後学修】 今回授業の振り返り

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

特に指定しない。授業の中で適宜指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	泉 直子		
ナンバリング	KHI581		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

プレゼミ、演習、 に続く授業であり、卒業研究 と合わせて、卒業研究を進める。

卒業研究 では卒業制作の計画を立て、作品制作に取り掛かる。

3年生までのコンピュータに関して学んだことを総合的に理解し、調査、研究し、各自の考え方にに基づきソフトウェアの作品制作を行う。ソフトウェア開発では、まず、どのようなソフトウェアを作るかというアイデアをだす「考える力」、そしてチームでの開発作業に必要な「協調性」が求められる。グループで作品を政策する過程で、ツールやプログラミング言語を使えるようにするだけでなく、ソフトウェアの開発工程を体験することにより、「考える力」や周囲とうまく作業を進める「高い協調性」を身に付けることも大切にする。

本授業では大学で学んだことの総括として、学んだこととアニメーションに関する知識を基に調査、研究、討論し、グループでの協調作業としてアニメーションを作成に取り掛かることができることを目標とする。

内容

まず、ソフトウェア開発のための準備をする。ゼミは基本的に、自分たちで調べたこと、考えたことを発言し、討論する場を多くする。次に、既存のさまざまなアニメーションソフトを使いソフトウェアの比較をし、利点、欠点など批評しあう。既存のゲームソフト、幼児、子供用の学習ソフトを使い、比較することにより、使った人が楽しめるソフト、使いやすいソフトはどのようなソフトか考える。

更に、グループでアニメーションソフトウェアを作る企画を行う。特にFLASH にはこだわらずさまざまなアニメーション作成ツールがあるので、目的にあったツールを使い、アニメーションを作成する。

グループに分かれ、自分たちでどのようなソフトを作るか討論して決め、卒業作品を作成する。

また、アニメーション作成時に体験した問題点を整理し、一般的なソフトウェア作成時の問題点として考えたときどのような問題と解決策があるか整理し、まとめて卒業論文を書くことが望ましい。

評価

発表態度(30 点)、ゼミでの活動状況(30%)、卒業作品(40%)を総合的に判断して評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】平常時から、各自の卒業研究課題に関連した書籍を読んだり関連したソフトを使ったりして、事前準備することが望ましい。

【事後学修】他の学生の卒業研究関連の発表を聞いたときは、関連した本を読んだり、関連した疑問を考え、次回に質問するよう各自、授業以外で学習することが望ましい。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業開始時に指定する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	田倉 昭		
ナンバリング	KHI581		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習 の研究内容を発展させ、自主的に進める。社会の変化や技術の進歩に合わせて、新たな知識や技術を自ら学び続けられる力を身につける。

学生が主体的に研究計画を立て、それに基づき各自のテーマに沿って研究を行い、最終的にその成果を卒業論文としてまとめる。これらの活動を通して、社会に出て必要とされる業務遂行能力を身につけることをねらいとする。

研究成果を卒業論文としてまとめ、発表することにより、研究遂行能力および社会で必要とされる業務推進手法を学ぶことができる。

内容

次の研究分野を参考に学生が主体的に設定したテーマに沿って、作品等の作成や調査研究を行い、卒業論文の執筆を行う。定期的に進捗報告発表を行う。

1. アプリケーションサービス
2. コミュニケーションサービス
3. セキュリティサービス

評価

定期的に行う進捗報告、卒論発表会での発表内容 (50点)、卒業論文 (50点) により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

進捗報告、発表会の発表についてはフィードバックとしてのコメントを行う。

授業外学習

- 【事前予習】自分の研究計画に合わせて、事前予習を行う。
- 【事後学修】自分の研究計画に合わせて、事後学修を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

適宜紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	藤本 正徳		
ナンバリング	KHI581		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	4	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

4年間の学習のまとめと学習成果の活用

演習において学んだ知識と技術を生かし自らテーマ・仮説の設定を行い、調査対象を特定して、これまで学んできた知識を実践に生かす力を養う。

「データや観察に基づいた分析ができる」「分析結果を整理して、論文や図、表などの形で表現できる」「効果的でわかりやすい卒論の発表ができる」

内容

前期

- 1 卒業研究のテーマ確定
- 2 活動計画の作成
- 3 活動の実施（調査など）

後期

- 4 活動の整理
- 5 データ分析
- 6 論文作成
- 7 指導と編集・校正、印刷・製本
- 8 発表資料・プレゼン作成
- 9 発表

評価

通常の活動状況、調査の実践状況、分析知識と技術等を総合して行う。

割合は活動状況30%、卒業論文50% 発表会プレゼンテーション20%とする。

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】当該課題のテーマについてインターネット等で事前に情報収集し、当日討議出来る様に準備する事
- 【事後学修】討議や指導コメントを踏まえて調査結果を発表またはレポートにまとめて提出すること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書 別途指示する

科目名	卒業研究		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング	KHI581		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は情報システムの構築・管理・運用またはこれを活用するための知識・技術をより深めていくためにプレゼミナル・演習 ・ で得た知識・技術を発展させ卒業研究へと繋げていく科目となる。

ゲーム作成ではゲームの作成・改良を行っていく。データ解析では、基礎的な解析結果から解析目標を絞り込み、より深く解析していく。

自分で建てた研究目標に向かって自分の研究工程を明確にし、それに沿って研究を進めていく。このことによって知識・スキルを深めるとともに自分で考え結果を出していくことを到達目標とする

内容

1 週	オリエンテーション
2 週	各自研究分野の再調査・再検討
3 週	各自研究分野の修正・変更
4 週	各自研究分野の計画再作成
5 ~ 6 週	研究計画発表会
7 ~ 13 週	研究計画に沿って実施
14 ~ 15 週	研究成果報告会
16 ~ 18 週	各自研究内容のまとめ
19 ~ 20 週	卒業論文資料作成
21 ~ 25 週	卒業論文作成
26 ~ 27 週	卒業論文発表会発表資料作成
28 週	卒業論文発表会予行
29 ~ 30 週	卒業論文発表会

評価

平常点 20%、自分の研究内容理解及び、発表点 80%とし、総合評価 60 点以上を合格とする。

【フィードバック】 毎回の研究進捗状況の報告と問題個所の提示、発表内容に対応し、研究・まとめ方針を指示する。

授業外学習

【事前予習】 研究計画に従い、事前準備をしておく。

【事後学修】 研究計画より遅れている場合は研究を進めておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

詳細については、オリエンテーションで指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング	KHI581		
学 科	人間生活学部（K）-生活情報学科（KH）		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

生活情報学科の専門必修科目である。

科目の概要

演習 に引き続いて、卒業論文の完成を目指し、さらにプレゼンテーション用の資料を作成する。

学修目標

卒業論文の完成を目指す。

内容

卒論の完成を目指す。アウトラインに基づいて執筆を始める。さらに発表でのコメント、教員の指導のもと修正を図りながら完成させる。

評価

卒業研究に対する積極的な準備と意欲的な態度（40点）及び、課題発表等の達成度（60点）を総合して判断し、評価を行う。60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業時の課題は、次週以降の授業時にフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】卒業論文の作成を行う。

【事後学修】授業での教員のコメントや他の学生の意見を参考に卒論作成を進める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】随時教室にて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング	KHI581		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生活情報学科専門科目の必修科目である。

科目の概要

2年次後期のプレゼミナール、3年次の演習・演習を通じて絞られた個々の研究テーマについて、社会調査による実証データを収集・分析し、ゼミナールでの中間報告とグループディスカッションを通じて考察を深め、論理性のある研究論文を執筆する。

学修目標

自らの大学4年間の学修を総括する研究テーマについて、オリジナルなデータに基づいた考察を深める。客観的な論理に基づく新たな知見を提示し、残された課題を把握する。その成果を研究論文として仕上げる。

内容

卒業研究は、以下の手順によって進められる。1. 研究テーマの設定、2. 先行研究の検討、3. 独自性・独創性のある理論の展開、4. まとめと今後の課題の提示。

参加学生は、ゼミナールにおいて卒業研究を中間報告し、グループディスカッションすることによって、各自の研究テーマについて理解を深める。担当教員は、個々の研究課題に対して理論や接近法を助言するとともに、研究論文(本文14,000字から20,000字)の執筆について技術指導する。

なお、近年の卒業論文のテーマには、以下のものがある。

- 「性の多様性理解にむけて - 児童を対象とした啓発パンフレットの制作 - 」
- 「ソーシャルゲームをめぐるトラブルと安全規制 - 消費者保護の視点から - 」
- 「現代のスピリチュアル・ブーム - 癒し・スピリチュアル系商品・サービスの市場 - 」
- 「郊外型ショッピングセンターの開発と生活圏の変化 - 埼玉県高坂ニュータウン周辺の場合から - 」 「日本におけるコーヒー文化の新潮流 - 30年間の新聞記事検索を手がかりに - 」
- 「即席麺の市場拡大とご当地カップ麺の投入」
- 「母乳育児と人工栄養の普及についての日中比較」
- 「農山漁村における食文化の継承と変革 - 郷土料理とアイディア料理から - 」
- 「日本における老舗の存続戦略 - 中国での応用可能性を問う - 」
- 「雑誌『an・an』の占い特集からみた若い女性の悩みの変化」
- 「チャペルウエディングの流行が意味するものは何か」
- 「シェアハウスで暮らす - 新しい共同性のあり方 - 」

評価

授業中の発表や討議を50点、卒業論文を50点とし、総合評価60点以上を合格とする。本科目は、個々の卒業研究に対して、助言ならび執筆指導する演習である。

授業外学習

【事前予習】授業時の研究発表にむけて準備する。

【事後学修】授業時の討論の成果をもとに研究論文を執筆する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参加学生個々の研究テーマに応じて、授業時に推薦書を紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング	KHI581		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

プレゼミナール・演習 ・ を受け、卒業研究を進める

科目の概要

各自の設定した研究テーマについて研究計画に基づいて卒業研究を進め、論文にまとめる

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 卒業論文を完成させる
- ・ 卒業研究を進めるプロセスを通して実践的な問題解決能力を身につける

内容

研究計画に基づいてデータ収集とデータ解析・オペレーションズリサーチの手法による仮説の検証を行う。これらは報告・ディスカッションをしながら進め、研究計画は必要に応じて修正する。得られた結果について考察し、卒業論文にまとめる。

論文及びその要旨を提出し、その概要について発表する。

評価

論文・プレゼンテーション：80%+ 取り組み：20%とし、総合的評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】ゼミ報告資料をまとめる
- 【事後学修】ゼミでのコメントをフォローし、論文を執筆する

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】

テキストの詳細については初回授業で指示する
必要に応じて資料を配布する

科目名	卒業研究		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング	KH1581		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

演習 ・ で学んだことを基礎に、卒業研究としての論文作成作業を進め、最終的に論文を完成させます。

科目の概要：

金融やその他企業の活動にかかわるビジネス法等を、生活者・消費者の視点から、また、ビジネスパーソンの視点から考察します。契約を中心として、私法の分野からアプローチしてゆきます。文献収集、参加者による報告、論文執筆を通じて、法律とその背景や、現在の社会をめぐる状況を踏まえ、その機能・限界を理解したうえで、展望について検討します。

学習目的：

広く社会に関心を持ち、現状を踏まえ、それらをめぐる法律はどのようになっているのか、法の目的や紛争解決手段を学びます。

内容

3年生時の研究テーマ、ゼミ・レポートを踏まえて、各自選択した卒業研究テーマの研究を進めます。前期にはテーマの確定、構想、文献調査を行い、後期にはそれをもとに卒業研究を論文の形に仕上げ作業を進めてゆきます。

評価

研究会での参加の状況 (30%)、卒業研究の進捗状況・内容 (70%) により総合的に評価します。100点満点の60点が単位取得の下限です。

授業外学習

【事前予習】卒業研究の完成へ向けて進めた作業をまとめる。自らの進捗状況を把握する。

【事後学修】授業時に指摘された箇所についてさらに加筆修正し、課題を完成へ向けて作業を進める。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

参加学生の関心に照らし、授業時に指示します。

科目名	卒業研究		
担当教員名	松本 晃子		
ナンバリング	KHI581		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

3年次までのゼミの学習から各自の卒業研究へ発展させていく。

科目の概要

前半では、各自のテーマの問題意識、仮説、調査研究を明確にし、論文のスケルトンを仕上げる。
後半からは、調査・分析へ向けて考察と討論を行い、仕上げていく。

学修目標 (= 到達目標)

大学生生活の集大成としての卒業論文を仕上げていくことで、学士としての能力の総仕上げとする。

内容

先行研究を調べ、そこから問題を追及して、テーマを設定する。
論文構成、調査・分析の総仕上げを行っていく。

9月下旬に中間報告を提出し、最終的な提出期限は12月中旬を予定している。
8000字以上。

評価

研究課程・論文作成過程、研究の口頭発表により、総合的な評価をし、
総合評価60点以上を合格とする。
授業時の課題は、次週以降の授業時にフィードバックする。

授業外学習

- 【事前準備】卒業論文のテーマについて、各自考察しておくこと。
- 【事後学修】前期では卒業論文のスケルトン及び概要の仕上げを目標。
後期では論文の執筆仕上げ。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

個別に指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング	KHI581		
学 科	人間生活学部 (K) - 生活情報学科 (KH)		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究は、演習 に引き続き、企業の財務諸表分析や企業経営の考え方を会計、税務の両面から幅広く検討し、必修である卒業研究論文を作成する科目である。

具体的には、演習 で学修した会計学、税制の基礎力の確認を行った後、各自の卒業研究テーマを確定し、研究作業に入る。進捗状況に応じた数回の卒業研究発表では、パワーポイント等のソフトウェアを利用して発表を行う。卒論テーマは会計学、税制の範囲に限らず、幅広い分野からのテーマ設定が可能である。発表におけるプレゼンテーションやディスカッションを通してスピーディな資料の作成能力や発言力、ソフトウェアを利用した表現力、効果的な発表力等を身につける。

学修目標としては以下の4点をあげる。

1. 早期卒論テーマの確定。
2. 基礎的分析力、問題点の把握とその解決能力の習得。
3. 研究に関する基礎能力の育成。
4. 効果的なプレゼンテーションスキルの向上。

内容

具体的な卒業研究の内容は以下のとおりである。初回はオリエンテーションを行うが、翌週からは各自1年間の卒業研究計画の策定、卒業研究論文の方法論の確認等を経てテーマ設定に入る。前期の卒業研究ゼミでは、卒論のメインテーマ、サブテーマ、章構成等の検討後、パワーポイント等のソフトを用いて進捗状況に応じ、各自数回の発表報告を行う。夏季休暇における合宿では、卒論のテーマ、構成等の最終的な報告会を行い、後期の本論文作成に備える。また前期では必要に応じて、日商簿記検定試験やFP等の資格試験対策、グループディスカッションや模擬面接等の就活対策等も行う。後期の卒業研究ゼミでは、前期の合宿による卒論の最終発表報告を受けて本論文の作成が中心となる。後期のオリエンテーション後、速やかに本論文の作成に入り、翌年1月末の卒業研究論文集の完成のため、12月中のファイナルドラフトの終了を目指す。

評価

卒論発表 (50%)、レポート・ホームワーク等の作成 (20%)、ディスカッション等ゼミナール参画態度 (30%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前準備】発表者はロスタイムのないように事前に準備・確認等しておくこと
- 【事後学修】発表で指摘を受けた部分は速やかに修正しておくこと

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

資料・推薦書等については、ゼミの進捗状況に応じ授業内で指示する。また必要に応じ適宜プリントを配布する。